

喜入村

村長 前田慶吉氏  
 助役 山本七彌氏  
 議員 今吉榮吉氏  
 石峰嘉一郎氏  
 今村徳次氏  
 濱田松之助氏  
 濱崎寅吉氏  
 堀 三助氏  
 地頭國十太郎氏  
 大山八五郎氏  
 小川市太郎氏  
 釜附要之進氏  
 永野五郎氏  
 内國勇吉氏  
 丸田直市氏  
 前畑太郎吉氏  
 前園周次郎氏  
 前田慶吉氏  
 二見源次郎氏  
 有川三二氏  
 有田榮二郎氏  
 官原製裝助氏  
 志々目新太郎氏  
 志々目十次郎氏  
 樋高竹次郎氏  
 鈴十次郎氏

今和水村

村長 邊見逸彦氏  
 助役 堀之内高潔氏  
 議員 岩田庄太郎氏  
 堀切園加東助氏  
 細田岩助氏  
 別府榮五郎氏  
 別府秋彦氏  
 大岩本三五郎氏  
 大平行内氏  
 吉永愿氏  
 高原市次郎氏  
 田口岩助氏  
 田代源次郎氏  
 中西二次郎氏  
 中野彦五郎氏  
 永吉乙助氏  
 前田市太郎氏  
 南市太郎氏  
 澤山四郎氏  
 泊四郎助氏

指宿村

村長 八板正二氏  
 助役 有馬休之助氏  
 議員 猪俣榮藏氏  
 今奈良庄吉氏  
 今村新助氏  
 岩下元四郎氏  
 西留龜次郎氏  
 外村孫七氏

◎指宿郡



◎揖宿郡

德永熊次郎氏  
尾辻喜平氏  
大山甚七氏  
小川直氏  
吉留與平次氏

山川

日高萬里彦氏  
川畑敬藏氏  
濱田三吉氏  
濱田郷太郎氏  
馬場彌吉氏

穎娃

村長 鮫島小一郎氏  
助役 河野精之助氏  
議員 飯山伊助氏  
井上善之助氏  
井上善之助氏  
今井淺吉氏  
石田貢氏  
池口市郎太氏

高田庄次郎氏  
國師程介氏  
中川路英三氏  
梅木長太郎氏  
上野熊助氏

村

戸田吉之助氏  
大川忠造氏  
吉村熊二氏  
田上周吉氏  
田村愛之助氏

村

今村猪之助氏  
馬場覺右衛門氏  
濱田靜吉氏  
濱田森七氏  
濱崎徳左衛門氏  
西崎徳左衛門氏  
加治屋新次郎氏  
川畑市兵衛氏

上山利介氏  
八木藤一郎氏  
前床金五郎氏  
前田彦五郎氏  
小牟禮市郎氏

柳村雅亮氏  
矢崎健兒氏  
松永與造氏  
松下六太氏  
藤崎龍太郎氏

海江田綱宜氏  
高田龜吉氏  
鶴留守衛氏  
鶴窪洪演氏  
永吉熊助氏  
栗ヶ窪萬次郎氏  
山内廣助氏  
松田清之進氏

湯ノ口市助氏  
下吹越 賦太郎氏  
東中川 休四郎氏

有馬市之助氏  
宮田熊吉氏  
宮田作藏氏  
新村平次郎氏  
日高退藏氏

眞江田三左衛門氏  
政所乙彦氏  
小磯覺一氏  
兒玉榮壽氏  
有馬源造氏  
有村與次郎氏  
赤崎甚五郎氏  
里中萬助氏

前田慶吉

喜入村長 前田慶吉氏

君は明治九年十月二十四日喜入村に生れ、同村助役たること  
久しく村會議員たるが大正十四年十一月同村々長に當選し村  
治向上に餘念なしまた現縣會議員として縣政の發展に努めつ  
ゝあり

山本七彌

喜入村助役 山本七彌氏

君は明治三年十一月五日喜入村に生れ、縣林業技手、村役場  
書記を経て大正九年十二月同村助役に擧げられ引續現任せ  
り。

◎喜入村



◎喜入村

今吉英吉

喜入村 今吉英吉氏  
君は明治二十一年十二月藤市氏の長男として喜入村瀬々申に生る、明治四十三年縣立鹿屋農學校獸醫科を卒業し、全年十二月志願兵として熊本野砲第六大隊に入營、陸軍三等獸醫に任ぜられ正八位に叙せらる、目下郷里にありて獸醫を開業し動物の診療に従事し居れるが尙ほ喜入聯合青年會長として青年の指導に當りてあやまらず、大正十年村會議員の改選に際し多數を以て當選、全十四年の改選にも再選の榮を荷へり、君は獨り獸畜の生産に注意するのみならず乳牛の獎勵にも多大の力を致せり

喜入村 石峰嘉一郎氏

君は明治四年六月五日權助氏の長男に生れ喜入高等小學校卒業後喜入村字生見小學校准教員となり在職九ヶ年にして退職し後小組合長、煙草耕作組合長、青年會評議員、婦人會顧問、戸主會長（教育後援會）産業組合幹事に任じ大正九年及び全十四年國勢調査員となり大正十四年村會議員に當選村政に努力し居れり、君には三男三女あり長男正行氏は本年二十歳にして全村生見小學校准訓導なり君は煙草耕作の熱心家なり

石峰嘉一郎

喜入村 濱出松之助氏

君は明治七年九月十日喜入村瀬々申三二九九番地源藏氏の長男に生る、小學校卒業後農業に従事し居たるが明治二十七年十二月佐世保海兵團に入團、明治三十七八年の日露戦役に從軍参加したる戦功に依り勳七等に叙し青色桐葉章を賜ふ、明治三十八年十一月一等兵曹に昇進全時に滿期除隊となる、明治二十九年一月長崎海員養成所に入りて其年三月試験に及第し、明治四十年三月船船高級職員機關士の免狀を受く、其年五月長崎刑務所機關士を拜命、全四十年十月南滿鐵道株式會社機關士に轉じ安子山丸機關長、全四十一年四月圓島丸一等機關士、全四十二年機關長及び飛雲丸船長となり其年十月辭して支那稅關に奉職、英人スミス氏に英語を、支那人李氏に支那語を學び大正二年に至る、大正十年辭して歸村、瀬々申青年會及び婦人會の顧問となりしが、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選學務委員に選ばる、君には一女あり縣立第一高等女學校卒業後更らに全校專攻科を了へて目下家庭に在り

◎喜入村





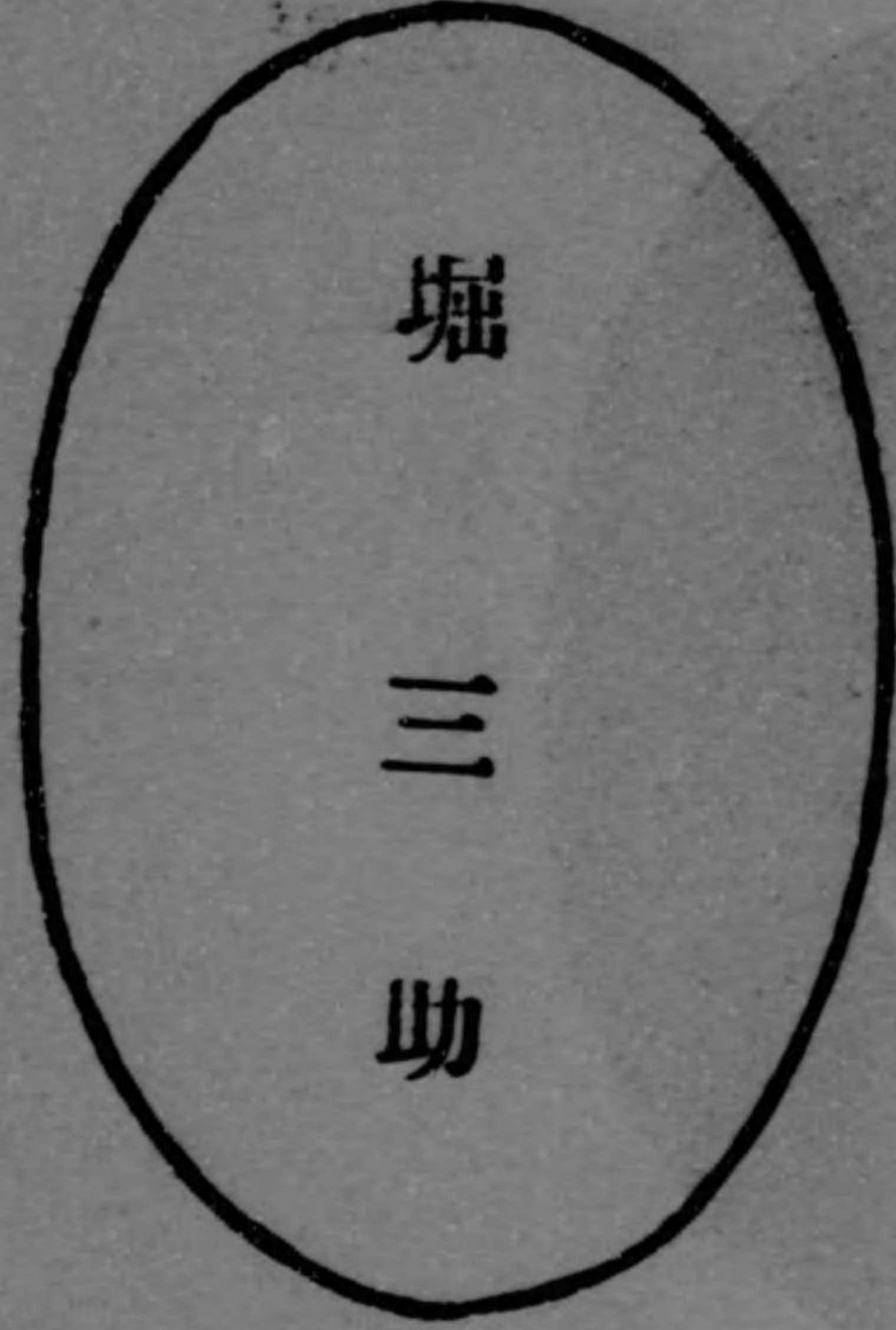
◎喜入村



喜入村 濱崎寅吉氏

君は明治六年二月喜入村字生見淺吉氏の長男に生れ明治三十年頃より肥料製造業を営み揖宿郡肥料商支部長となる揖宿肥料合資會社代表者として創立より三十七年間之を勤む大正十四年三月村會議員に擧げらる、長男貞吉氏は鹿兒島商業學校卒業後一年志願兵として歩兵四十五聯隊に入營し少尉に昇進退營後は實業に従事すると共に青年訓練に努力し次男は鹿兒島商業學校卒業後實業に従事す長女は鶴嶺女學校卒業後家事見習中なりと

喜入村 堀 三助氏



君は文久二年一月廿日全地助左衛門氏の三男に生れ小學校卒業後熊本野砲兵六師團に入營し明治二十七八年日清戰役に出征勳八等白色桐葉章を下賜、退營後臺灣に渡り牛乳營業を営み後歸郷區會議員、煙草耕作組合長、世話人、寺總代、郡水産組合評議員、衛生組合長、小組合長、農會代議員等に任し大正十年村會議員となり引續き再選能く村政に努力せり君は石灰製造業と同時に吳服商を営む

喜入村 地頭園 十太郎氏



君は明治二十年三月二十三日八郎左衛門氏の長男に生れ喜入小學校卒業後農業に従事し小組合長、衛生組合長、煙草耕作組合長、青年會長、産業組合評定員、部落世話人、區民會支部長兼協議員たり大正十年三月村會議員に當選以來引續き再選村自治に努力し居れり

喜入村 大山八五郎氏



君は明治二年一月十六日喜入村野元友助氏の長男に生る、喜入高等小學校卒業后十八歳にして海軍志願兵として横須賀海兵團へ入り水雷學校へ學び水雷艇に乗込み、日清、日露、兩役に出征し兵曹長に昇進し勳七等に叙し功七級金瑞勳章を下賜さる二十二年間軍務に従事し歸村在郷軍人會幹事、名譽會員、婦人會顧問たり能く子女の訓育に盡す其村會議員に當選すること、前後四期に亘る目下尙ほ村の自治に努力するもの少なからず君は一女あるのみにて女子興業學校卒業后喜入村瀬々串小學校教員となり現在就職中なり

◎喜入村



◎喜入村



喜入村 小川市太郎氏

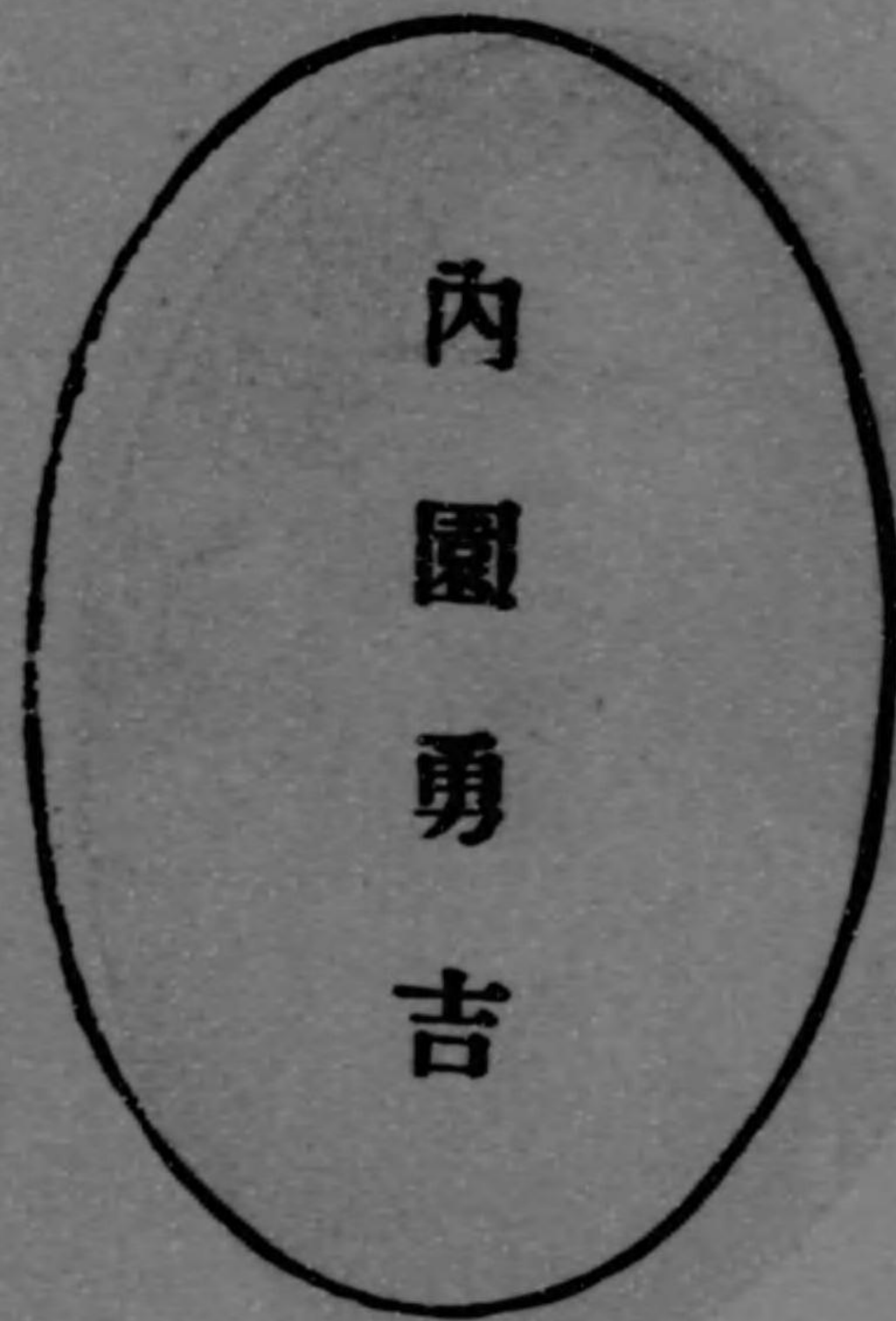
君は慶應元年八月十二日清吉氏の長男に生れ喜入小學校卒業  
后疊製造業を営む村會議員に當選すること二回目下其任に在  
り村政に努力すると共に能く家事を處理す、君は温厚着實な  
るが實子なく姉の山崎家次男榮吉氏を養子とす榮吉氏は鹿兒  
島第一師範學校を卒業し小學校訓導を拜命し居れり

喜入村

内園勇吉氏

君は明治六年一月三日全村に生れ藥種商を營み南薩銀行出張  
所を設け其所長たり尙ほ村會議員にして目下村政に盡力し居  
れり

内園勇吉



喜入村 丸田直市氏

君は明治十三年五月廿九日全村松田彌右衛門氏の四男に生明  
治三十三年十二月一日熊本野砲兵隊へ入營し滿期退營后明治  
三十六年全地丸田十太郎氏の養子となり明治三十七年五月日  
露戰役に出征し軍曹に進み戰功に依り勳八等に叙し功七級金  
鷲勳章を下賜さる歸郷后は自宅に在り明治三十九年四月より  
在郷軍人會理事評議員小組合長として現在に至る大正十年村  
會議員に當選し大正十四年再選村政に努力すること多く尙ほ  
君は産馬を愛育し郡産馬組合世話役たる事十數年間に及べり

喜入村 前畑太郎吉氏

君は明治十四年十一月六日喜入村瀬々串小村市兵衛氏の三男  
に生れ明治三十五年全所一五六番戸前畑家の養子となる、喜  
入小學校を卒業して後は専ら農業に屬精し居たるが、君が正  
實にして各方面に努力せるは一般の認むる所となり、瀬々串  
區議員に擧げらるゝもの五年、全區長に推されて四年に亘り  
誠意其の事務に當り實績を收めたるが、大正十四年村會議員  
の改選に當り多數を以て當選せり、君は一男一女あり長女は  
縣立第一高等女學校を卒業して瀬々串校に教鞭を執れるが長  
男は縣立川邊中學校に在學中なり、農業の傍ら漁業を營む所  
謂半農半漁にして部落の重鎮なり

◎喜入村





◎喜入村

前蘭周次郎

君は明治十二年六月廿八日全地に生れ三十二年海軍志願となし一等水兵となり日露役に出征し功に依り勳八等に叙し白色桐葉章を下賜さる退營後は郷里に在り青年會長、世話人、煙草耕作組合長等をなし大正十四年村會議員に當選せり

喜入村 前蘭周次郎氏

喜入村 二見源次郎氏

君は明治四年十月七日仲太氏の長男に生れ喜入小學校卒業後陸軍教導團に入る明治二十四年卒業、熊本歩兵十三聯隊附となり日清、日露、北清事變に出征し明治四十四年大尉に昇進し正七位勳五等、功五級金鷄勳章を下賜さる退營後郷里にありて郡村在郷軍人分會長、産業組合理事、農會總代となり大正九年國勢調査員となる、其他青年訓練に努力し居れるが村會議員たること前後二期に及ぶ、君に三男二女あり長男は第一中學卒業後全校補習科に次男は第一中學校二年在學中、長女は女子師範學校卒業後女子大學へ學び卒業して目下家事見習中なり次女は目下鶴嶺女學校在學中なりと

二見源次郎



喜入村 有川 三二氏

君は明治四年十二月二十六日彌八郎氏の三男にて鹿兒島市下荒田町に生れ父母と共に全地へ移り生見小學校卒業後農業に従事し司法代書業を営む事十五ヶ年大正五年五月二十六日産業組合常務となり後組合長となり現在に至る其他煙草耕作組合長たる事八ヶ年教育組合長たる事十ヶ年大正十年村會議員となり引續き現在に至るまで村政に努力せり君は實子なく養子秀行氏は朝鮮京城に在り巡査部長として能く職務に精勤せり

有田榮次郎



喜入村 有田榮次郎氏

君は明治十三年十一月八日全村前濱に生れ父祖の業を繼ぎて農業を營ひ煙草耕作等には特に熱心せり目下君は村會議員の任に在り能く村政に努力し居れり

◎喜入村



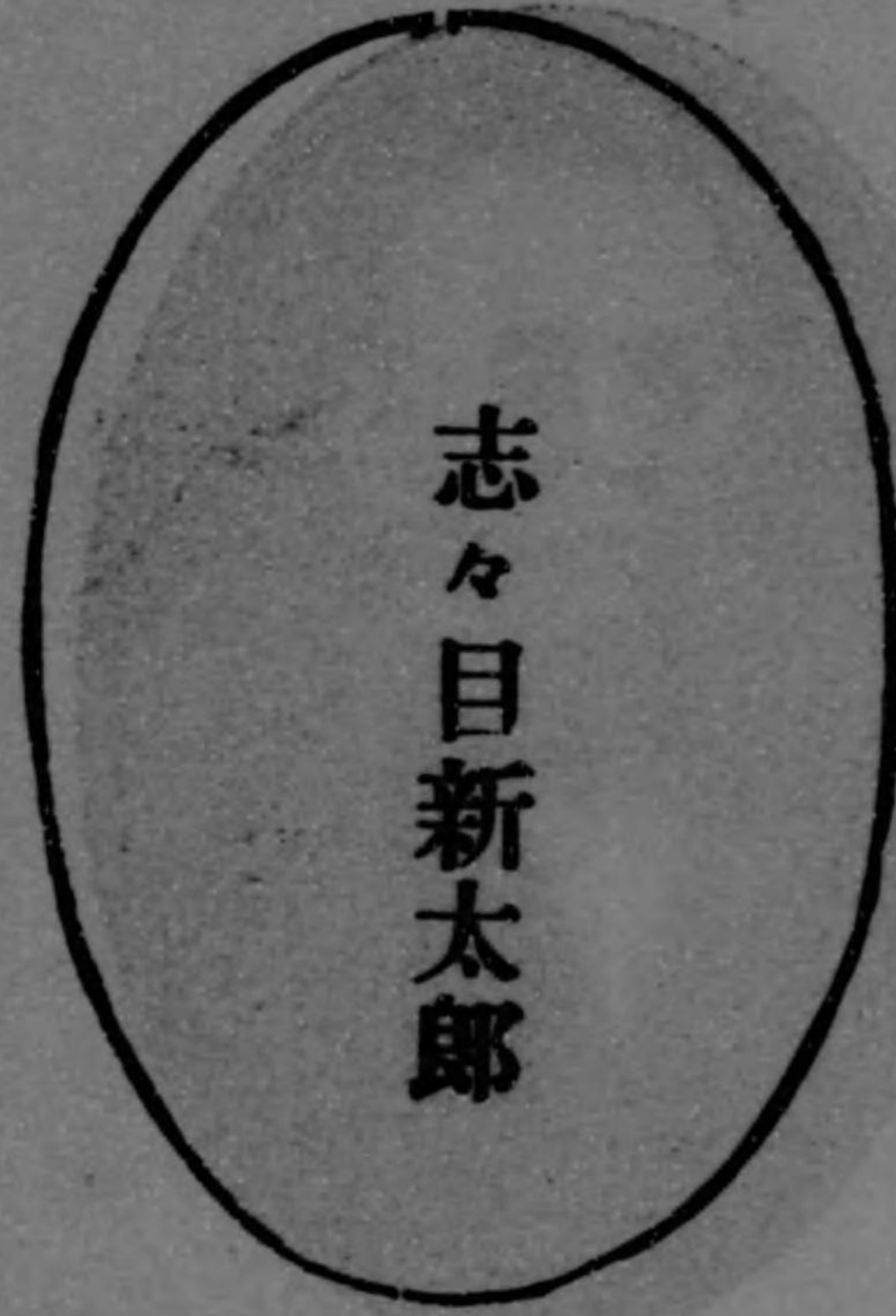
◎喜入村



喜入村 宮原 製 装 助 氏

君は明治二年二月九日正助氏の次男に生れ全地小學校卒業後農業に従事し農會總代、漁業組合總代、寺總代、青年會名譽會員等を歴て村會議員たる事前后二期君は三男を有せるが何れも實業に就き家計は豊なり

喜入村 志々目 新太郎氏



君は明治二年二月廿四日喜入村佐兵衛氏の長男に生れ小學校卒業後三州義塾に學び沖繩縣各小學校訓導及び校長となり大正八年より委任官待遇を受くるに至る君の教育界にあること實に三十有餘年に及び大正十年職を辭し郷里に歸り農會總代産業組合理事となる、大正十四年三月村會議員に當選し學務委員を努め居れり君に一男あり沖繩中學校卒業後大阪市に在り會社に奉職中なりと

喜入村 日高竹次郎氏



君は明治五年十一月十一日喜入村中名二〇番戸六郎氏の長男に生る、明治二十五年歩兵第二十聯隊に入營せしが、明治二十七八年の日清役、及び明治三十七八年の日露戦役に従軍參加して各地に轉戦せしが其の功に依り勳八等に叙せらる、大正二年衛生組合理事、及び中名區世話人となり、大正七年中名信用販賣購買利用組合理事、中名戸主會議事に推されて何れも充分の實績を擧ぐ、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選したり、君は副業として煙草作に多大の力を費し居れり

喜入村 鈴木 十次郎氏



君は明治十年七月五日全地に生れ全村前ヶ濱小學校卒業後明治三十年歩兵第四十五聯隊に入營し日露戦役には補充大隊に入りて上等兵に昇進し滿期退營後は郷里にありて農業に従事し青年會支部長世話人、小組合長、煙草耕作組合長、農會總代、戸主會議員を歴て大正十四年四月村會議員に當選し村政に努力する所あり君には二女あり長女は女子師範學校一年在學中なり

◎喜入村



◎今和泉村

邊見逸彦

今和泉村長

邊見逸彦氏

君は明治五年五月十三日今和泉村に生る、歩兵少尉にして大正三年十一月同村々長に當選以來四期を通じて當選現任この間に於て君のなせし業績や枚擧に遑なし

今和泉村助役

堀之内高潔氏

君は明治七年九月二十日今和泉村に於て生る、工兵中尉にして會つて村役場書記たりしが大正三年十二月助役に擧げられ三期を通して村長を補佐して村政に盡しつゝあり。

堀之内高潔

指宿村長

八板正二氏

君は明治二年八月八日指宿村に生る、郡長、郡書記たりし事ありて、大正十五年七月同村々長に當選せり

八板正二

指宿村助役

有馬休之助氏

君は明治六年九月六日指宿村に生る、稅務屬として各地稅務署に勤務し、穀物検査員たりし事ありて大正十年七月助役に當選し以來引續き現任せり。

有馬休之助

◎指宿村



◎指宿村

猪保榮藏

指宿村 猪保榮藏氏  
君は明治十六年十一月十四日指宿村に生れ大正四年七月大阪  
醫科大學卒業全年七月より全大學助手兼醫員となりて大正五  
年一月まで研究怠らず全年五月歸村全地に開業し今日に及ぶ  
大正十四年三月村會議員に當選し全地の發展に盡力せり尙有  
名なる指宿温泉株式會社を創立（貳拾万圓）して其の常務取  
締役たり

指宿村 今奈良庄吉氏

今奈良庄吉

指宿村 今奈良庄吉氏  
君は明治三年三月八日指宿村西方の源右衛門氏三男に生る父  
祖の業を繼ぎて農業を營み能く奮闘せり大正十四年三月道下  
區民の熱誠なる援助の結果見事村會議員に當選村政に努力せ  
り尙君は農家の副業として養蠶を専念し之を營む君の養子克  
男氏は醫學を學び鹿兒島警察醫として多年勤務せしが退職目  
下東京に於て開業し居れり

西留龜次郎

指宿村 西留龜次郎氏

指宿村 西留龜次郎氏  
君は明治十一年十月一日全村東方に生れ明治四十一年より區  
長に選ばれて明治四十四年に至る大正二年村會議員に當選し  
引續き現在に至るまで村政に努力し居れり君は資性至て温厚  
にして着實部落民の信用厚し

指宿村 外村孫七氏

外村孫七

指宿村 外村孫七氏  
君は明治十四年四月指宿村宇柳田に生る父祖の業を繼ぎ農業  
を營み明治三十四年十二月東京近衛歩兵に入營し明治三十八  
年日露戰役當時第十三師團附となりて樺太に明治三十九年更  
に朝鮮に渡りて經理部附に轉じ全四十二年一等計手となり滿  
期郷里に歸る功に依り勳七等旭日章を賜はる鹿兒島に店舖を  
開きて商業を營みしも家事の都合に依り大正十二年郷里に歸  
れり大正十四年村會議員に當選し専ら村自治に努力すると共  
に青年の指導訓練に努力せり

◎指宿村



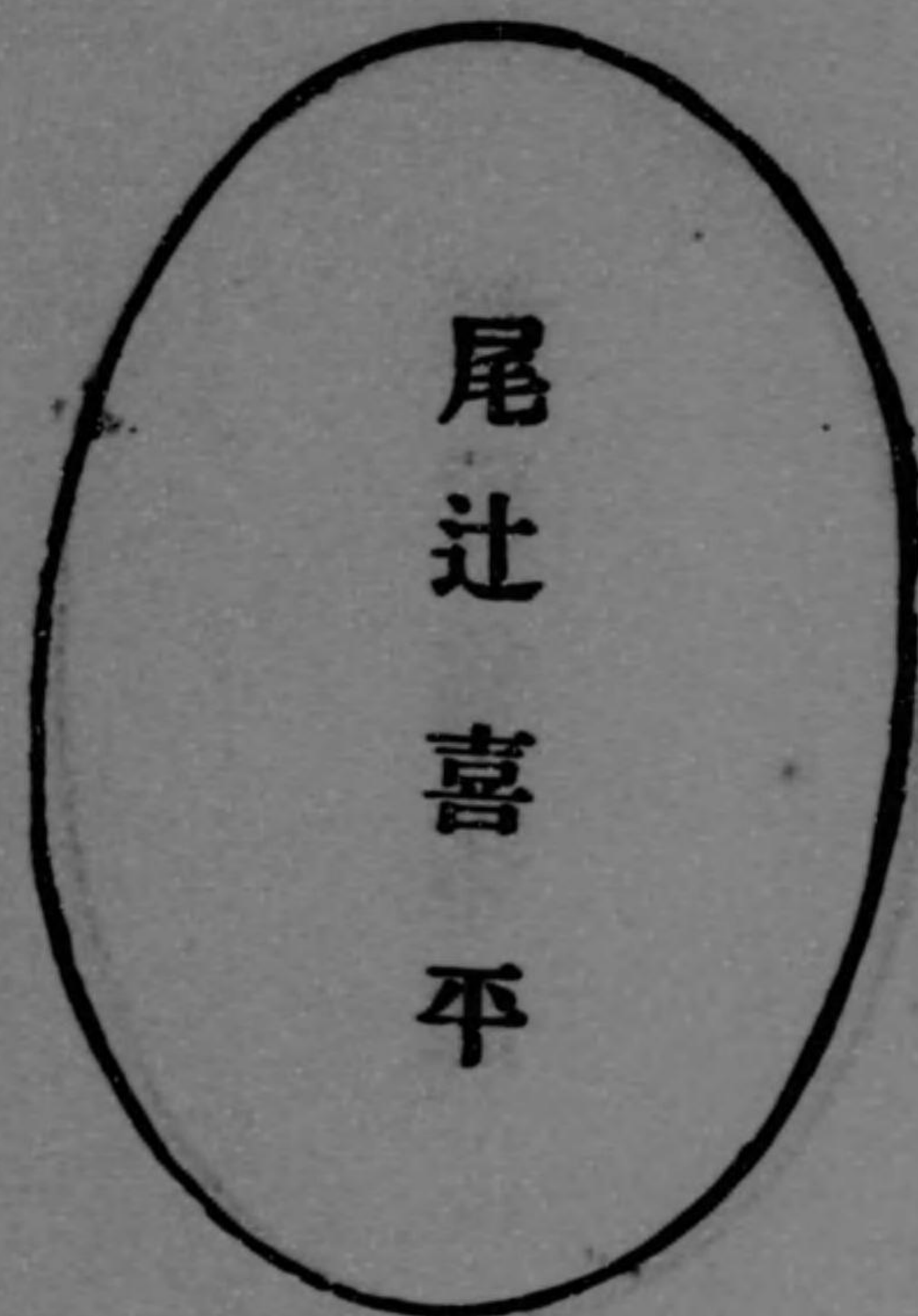
○指宿村



指宿村 徳永熊次郎氏

君は明治二十二年四月より明治二十五年三月迄指宿村書記に任ぜられしが明治二十八年六月兵庫縣巡査を拜命し明治三十四年五月辭して歸郷し明治四十二年四月村會議員に當選以來今日に至る又大正六年十月指宿郡會議員補欠に當選し大正八年再選し大正八年四月十二町區長となり全十四年に至る

指宿村 尾辻喜平氏



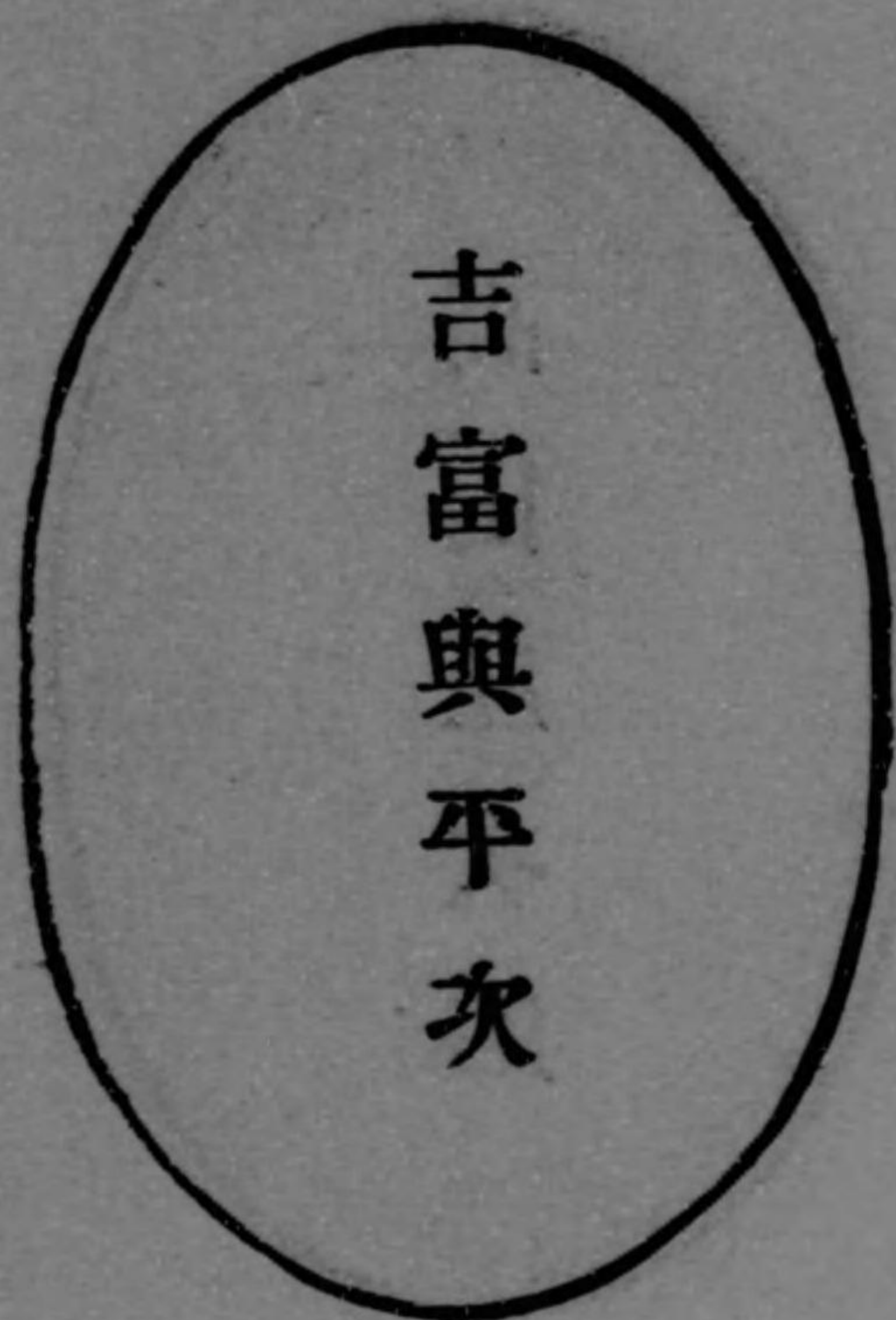
君は明治六年八月九日全村字東方に生れ教育界に入り大正四年迄二十四ヶ年間指宿郡内各町村に於て訓導校長として教鞭を取る大正七年辭し後ち區長となり大正十四年三月村會議員に當選し専ら村政に努力す君は至つて温厚村民は多く君の人格を敬慕し居れり

大山甚七

指宿村 大山甚七氏

君は明治九年八月八日全地黒岩伊勢五郎氏の男として生る幼時は甚助と云ひしも明治三十八年大山家を相續し養父甚七氏の名を續ぎ現在に至る父祖より呉服商を營み相當の資産を有せしが部落の評議員となり大正十三年より保安組合長となる大正十年村會議員に當選引續き大正十四年三月再選し現在に至り能く村政に努力す

指宿村 吉富與平次氏



君は明治十四年十月十四日指宿村中川路に生れ父祖の業を繼ぎて商業及び農業を營む明治二十七八年日清戰役の頃薩摩煙草株式會社創立と同時に廣島支店主任となり全三十年迄在任し大正十一年農會總代となり引續き現在に至る、大正十四年村會議員に當選し能く村政に努力せり尙君は黃楊木の植栽に熱中し一般に奨勵し居れり

○指宿村



○揖宿村

高田庄次郎

君は慶應三年二月揖宿村に生れ明治二十六年に至る迄教育界に在り明治二十七八年戦役に際し近衛師團酒保として滿洲及び臺灣に渡りて臺北に留まり運送業兼雜貨商を営み大正三年大戦當時土木事業に従事し大正六年故郷に歸り高田温泉主として瀉口に温泉場を開く大正十年村會議員に當選し引續き現在に至る

揖宿村 高田庄次郎氏

揖宿村

梅木長太郎氏

梅木長太郎

君は明治五年八月廿五日揖宿村伊三次氏の長男に生れ父祖の業を繼ぎ農業及び漁業を營む君の父は漁業の熱心家として知られし人にして沖繩近海迄出漁せり君は明治三十一年より現在に至る迄部落議員たり尙ほ熱心以て煙草耕作に従事す、而して全耕作組合代議員となり又た漁業組合幹事及び理事、大谷派本願寺別院世話役をなす、大正十四年村會議員に當選せり君の次男清志氏は青年會長たり

揖宿村 上野熊助氏

上野熊助

君は明治五年二月二日揖宿東方岩助氏の長男に生る父は農業を營み永年區長たり君又た父祖の業を營む、明治二十八年より東方十町支部の消防組小頭となり明治三十八年に至る東方煙草耕作組合長として六ヶ年全村兵事會評議員として六ヶ年農會總代、全評議員として大正九年より現在に至る其他衛生副組合長、區長となり大正三年村會議員に當選以來引續き現今に至り能く村政に努力せり

揖宿村 前床金五郎氏

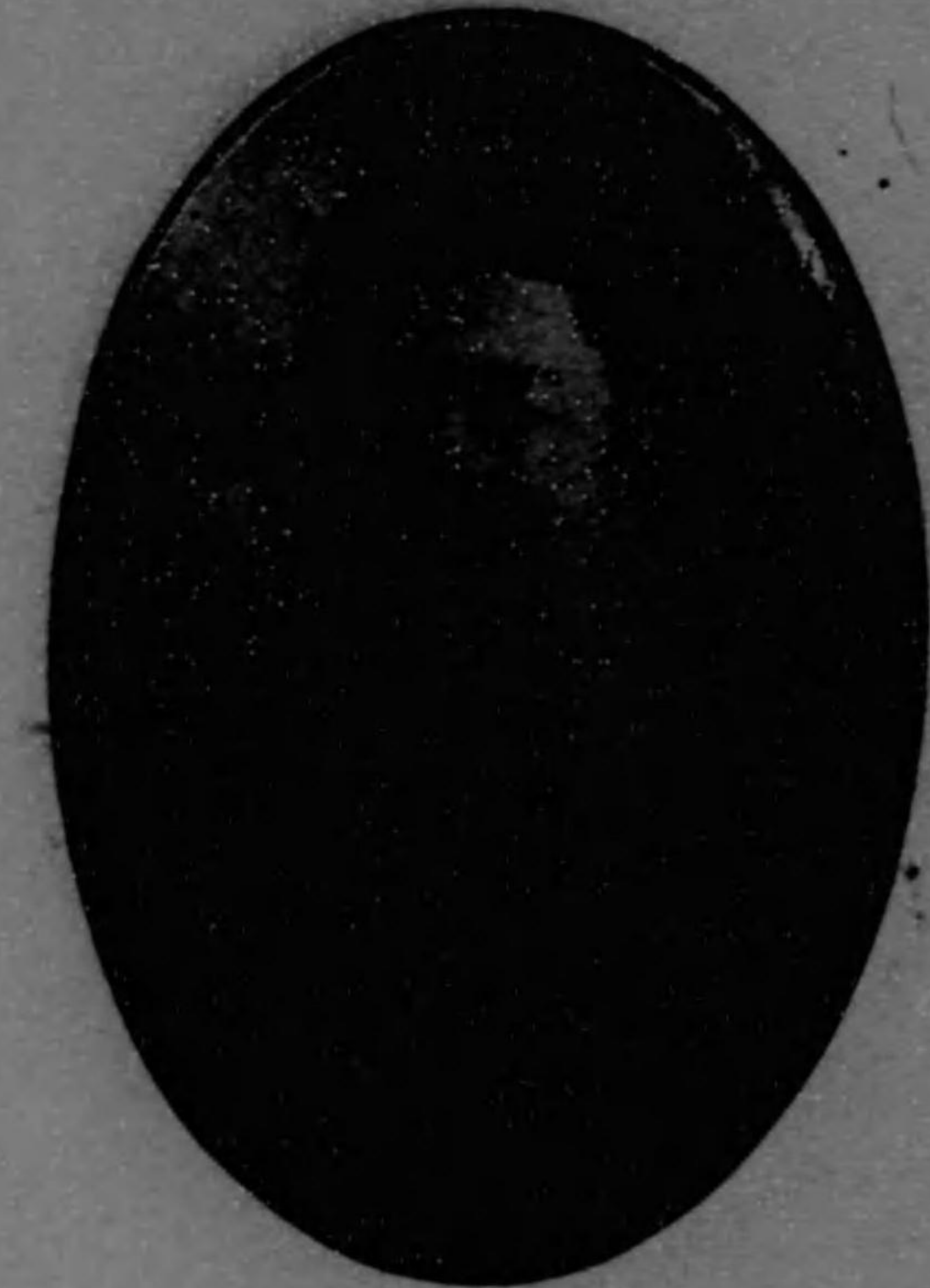
前床金五郎

君は明治元年五月十六日揖宿村西方諸留嘉次右衛門氏の次男に生れたるも出でて叔父の前床家を相續す明治十五年より全十九年迄教育界に在り明治三十一年より四十年迄煙草耕作組合長、明治三十五年より全三十九年迄區長、其の他煙草組合及び農會代議員となり保安組合相談役等を歴て櫻島爆發の際は寄附金募集に勉めし爲め縣より木杯を受く又た明治神宮建築に寄附し奉養章を受けたるが大正十四年村會議員に當選せり

○揖宿村



◎指宿村



指宿村 小牟禮市郎氏

君は明治十六年一月一日を以て指宿村十二町に生る、小學校を卒へて後は専ら父祖の業をつぎて農事に屬精し居たるが、長じて區長、青年會長等に推されてよく其の任を果したり、大正十四年村會議員の改選に際し輿望を當選したれば村治の爲めに大に努め居れり

指宿村 湯ノ口市助氏



君は明治十六年十月二十日指宿村に生れ父祖の業を繼ぎて農業に従事す、明治三十六年十二月一日熊本歩兵隊に入營し全三十七年六月日露戰役に參加し全三十九年十月三十日上等兵に進級、滿期除隊となりて歸郷功に依り勳八等白色桐葉章を賜はる明治四十年青年副會長、明治四十一年全會計、全四十二年會長、大正二年在郷軍人班長、大正五年豫備役に召集されて伍長に昇進し在郷軍人分會旗手として鹿兒島へ、皇太子殿下を迎へ奉る大正六年煙草耕作組合長となり大正十年村會議員に當選し大正十四年再選せり大正九年國勢調査員として其任を全ふせり

下吹咳 太郎

指宿村 下吹咳太郎氏

君は慶應三年二月十日指宿村次郎左衛門氏の長男に生れ父祖の業を繼ぎて農業兼商業を營ひ明治三十一年煙草耕作組合長となり現在に至るまで引續き活動せり明治三十九年區長となり今日尙其任にあり大正九年農會議員となり衛生代議員等をなす尙ほ村會議員として現在に至る君は至て温厚にして長男は青年會長、農會代議員、小組合長等をなし居れり

東中川 休四郎

指宿村 東中川 休四郎氏

君は指宿村の名主役を勤めし休左衛門氏の次男にて元治元年十二月全地に生れ兄早逝の爲本家を相續せしが明治二十九年より煙草專賣所建築會計を勤め明治三十年辭し其后農事の傍商業を營み更に煙草耕作組合肥料部に入りて大正十四年に至るまで勤務し大正七年煙草耕作組合代議員となり現在に至る大正四年農事小組合長及び總代となり大正九年國勢調査員として功勞あり時計の賞賜を受く大正十年村會議員に當選引續き現今に至る

◎指宿村





日高萬里彦

山川村長 日高萬里彦氏

君は明治八年十月一日山川村に生る、大正四年十一月村長に當選し爾來三期を通して現任し村民の信望特に厚し

川畑敬藏

山川村助役 川畑敬藏氏

君は慶應三年六月十七日山川村に生る、專賣局屬として永勤し、村役場書記より収入役となり、大正十二年同村助役に推薦せらる

山川村 濱田三吉氏

君は明治八年一月廿九日山川村に生れ明治四十年煙草耕作組合長となり大正十年に至りて辭す其の後區長農會議員及び漁業組合長として現今に至り其業に歸屬せり明治四十三年村會議員に當選以來引續き現今に至り村政に努力し居れり

山川村 濱田獅子太郎氏

君は明治十八年五月十八日全地に生れ農業及び水産業を營み明治三十七年青年會を設立し其會計となり副會長となり目下名譽會員たり凱旋紀念碑建立及び高等小學校併置問題に盡力し明治四十二年より煙草耕作組合理事、農會議員、農事小組合長、漁業組合理事、區長代理、區長となりて現在に至る大正十年村會議員に當選し引續き當選能く自治の爲めに努力す尙ほ衛生組合長、赤十字社員、武徳會員たり

濱田獅子太郎



馬場彌吉

君は明治十六年一月三日山川村に生れ父祖の業を繼ぎて農業を營む明治三十六年三月十五日歩兵補充兵として鹿兒島四十五聯隊に入營し全年六月十五日除隊明治三十七年五月日露戰役の際召集されて滿州に出征し全三十九年三月解隊歸郷功に依り勳八等旭日桐葉章を賜はる明治四十年より青年會幹事、全副會長、全會長となり大正六年辭し更に煙草耕作組合長、全七年より理事となり大正十三年に至る、其他區長代理、農會議員、衛生組合長、保安組合長、區會議員に擧げらる大正六年村會議員に當選以來引續き當選せり

山川村 馬場彌吉氏

戸田吉之助

君は明治十三年二月十九日山川村麓に生れ明治四十五年山川村水産組合委員となり水産業に努力す區長として十有餘年に亘り大正十年村會議員に當選以來引續き現今に至り自治に努力す君は雜貨兼海産物業を營み尙ほ自動車商會を經營し他方南薩銀行出張所主任として經濟界にも重をなし居れり

山川村 戸田吉之助氏

大川忠造

君は明治十三年三月十日山川村成川に生る、小組合長たる事十ヶ年煙草耕作組合長たる事二ヶ年區會議員、地租改正總代大正四年より耕地整理組合評議員、大正六年郡畜産組合議員に擧げられ現今に至る大正十一年衛生組合長となり大正六年村會議員に當選し引續き現今に至り地方自治の爲めに努力する所多し

山川村 大川忠造氏



山川村 吉村熊二氏

君の家は山川村の舊家、明治六年十月山川村大山に生れ鹿兒島農學校第一回の卒業生たり永年山川村農業教師を奉職し傍ら肥料製造販賣業を營む明治三十五年村會議員に當選以來引續き現在に至る迄七期に亘り當選能く自治の爲めに努力し且つ農村發展に勉め尙ほ郡畜産組合山川支所長として此の道にも精進せり



◎山川村

田上周吉

君は元治元年十二月十五日山川村に生れ父祖の業を繼ぎて農業を營み明治三十年より十五ヶ年煙草耕作組合長となる尙ほ區長代理、區長となり農會議員となりて二十六年の長きに亘り其任に在り更に兵事會議員となり明治三十一年村會議員に當議以來引き續き今日に至るまで能く自治の爲めに努力せり

山川村 田上周吉氏

山川村 田村愛之助氏

君は明治九年六月八日全村成川に生れ酒造業及び雜貨商を營む明治二十九年熊本工兵隊に入營し全三十二年滿期歸郷し明治三十七八年の日露戰役に召集され滿洲に出征し全三十九年歸郷戰功に依り勳八等旭日桐葉章を下賜さる 歸郷後は家業に精勵し目下七百石以上の酒を醸造せり大正十四年三月成川區の推薦に依りて村會議員に當選自治の爲めに大に努力し居れり

田村愛之助

山川村 柳村雅亮氏

柳村雅亮

君は明治七年一月十二日指宿村十二町に生れ明治三十五年鹿兒島第一中學校を卒業し全十八年長崎醫專入學、全四十二年十一月卒業全年より福岡醫科大學に入學し全四十四年三月業卒へて全年六月山川村に於て醫術を開業し現今に至る大正十年郡會議員當選し大正十二年郡制廢止迄勤續全年村會議員に當選し大正十四年三月再選す尙ほ山川町衛生組合長並に大成尋常高等小學校及び則永尋高小學校々醫を囑託さる

山川村 矢崎健兒氏

君は明治十二年八月三日山川村に生れ鱈漁業を營む明治三十七八年日露戰役に出征し全三十九年歸郷全時に水産業に従事し發動船二隻を購入し其業に勵む尙ほ鯨節の製造販賣をなす大正五年より漁業組合長並に消防組頭に擧げられ現在に至る大正六年村會議員となり引續き當選せり、而して郡會議員に當選せし事もあり參事會員となりて郡制廢止に至るまで繼續せり大正九年縣水産會評議員となりしが今尙ほ其任にあり目下薩摩水産株式會社取締役、山川製氷株式會社監査役、九州汽船會社代理店主たり

◎山川村



◎山川村

松永與造

山川村 松永與造氏

君は明治十六年六月山川村に生れ教育界に身を置き兒童の訓育に努力し明治四十五年村會議員に當選以來前後四回に亘りて當選し現在に至る大正九年郡會議員に當選郡制廢止迄就任す、尙ほ山川海産株式會社取締役社長して現今に至れるが別に薩摩海産株式會社創立者としても功勞あり

山山村 松下六太氏

松下六太

君は明治九年五月七日山山村に於て生る父祖の業を繼ぎて農業を營み能く其業に精勵せり而して君は大正三年に至るで前後八ヶ年に亘り煙草耕作組合長となり煙草耕作に努力す其の外區長として八ヶ年大正十三年より農會代議員となり現在尙其任に在り大正六年村會議員當選以來引き續き當選し地方自治の爲めに努力す所少なからず村民の信賴厚し

山川村 藤崎龍太郎氏



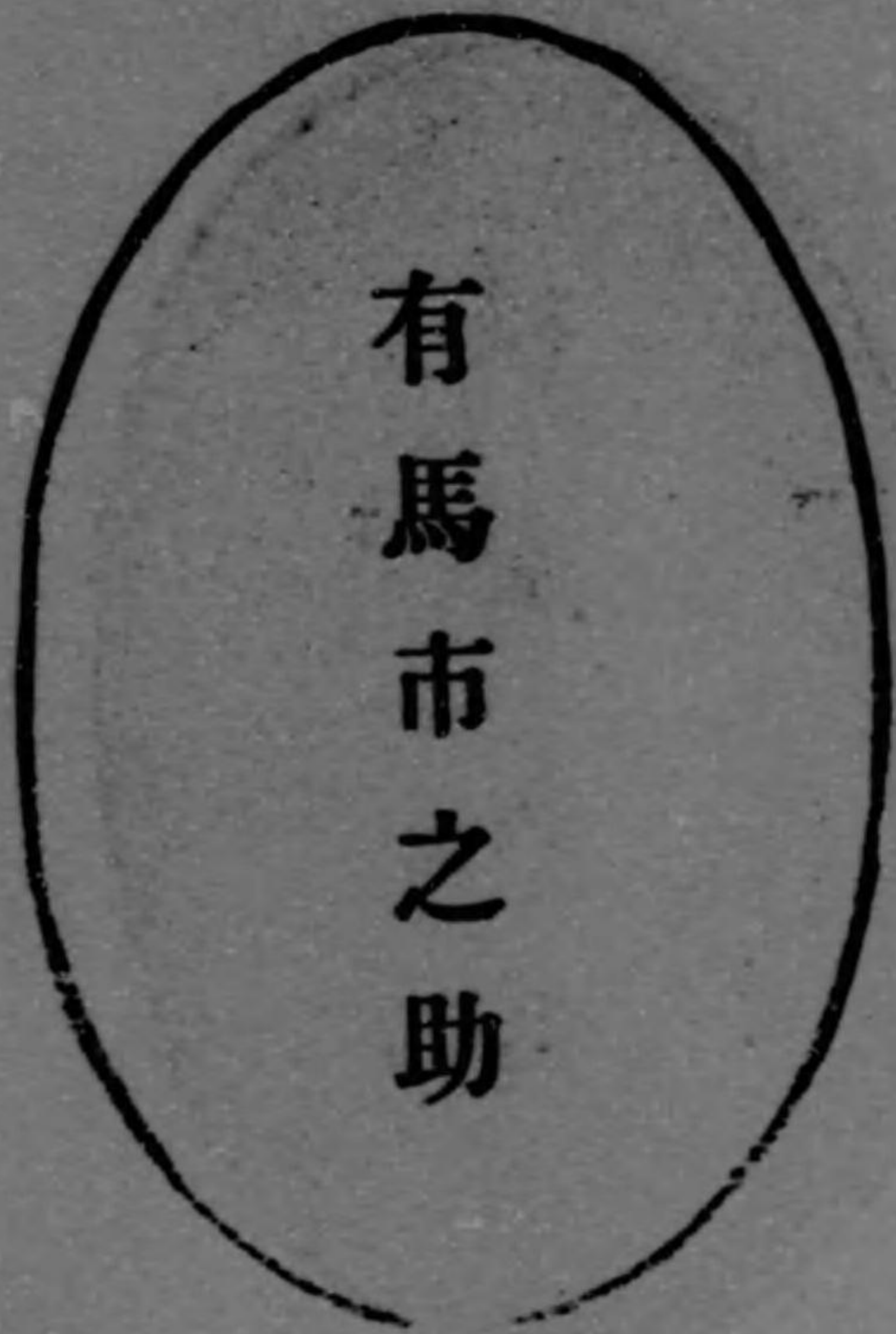
君は明治十三年十月六日山川町に生れ明治三十三年熊本野砲兵隊に入隊し明治三十六年伍長となり滿期歸郷、明治三十七八年日露戰役に召集され滿洲に出征し明治三十九年砲兵曹長に昇進して除隊歸郷戰功に依り勳七等旭日桐葉章を下賜さる明治四十一年長崎縣を視察し全四十二年水産組合を組織し煙の餌商を開始し尙ほ鯉節の製造販賣に努力し關東關西地方へ輸出す、大正十四年三月村會議員に當選せり

有馬市之助

山川村 有馬市之助氏

君は明治十六年十月十八日山川村に生れ明治四十三年迄教育界に有り能く兒童の訓育に精勵せり辭して區長となる大正十年村會議員に當選以來引續き現今に至る尙ほ村内に於ける新聞通信員として専ら村の開發に努力し居れり

◎山川村





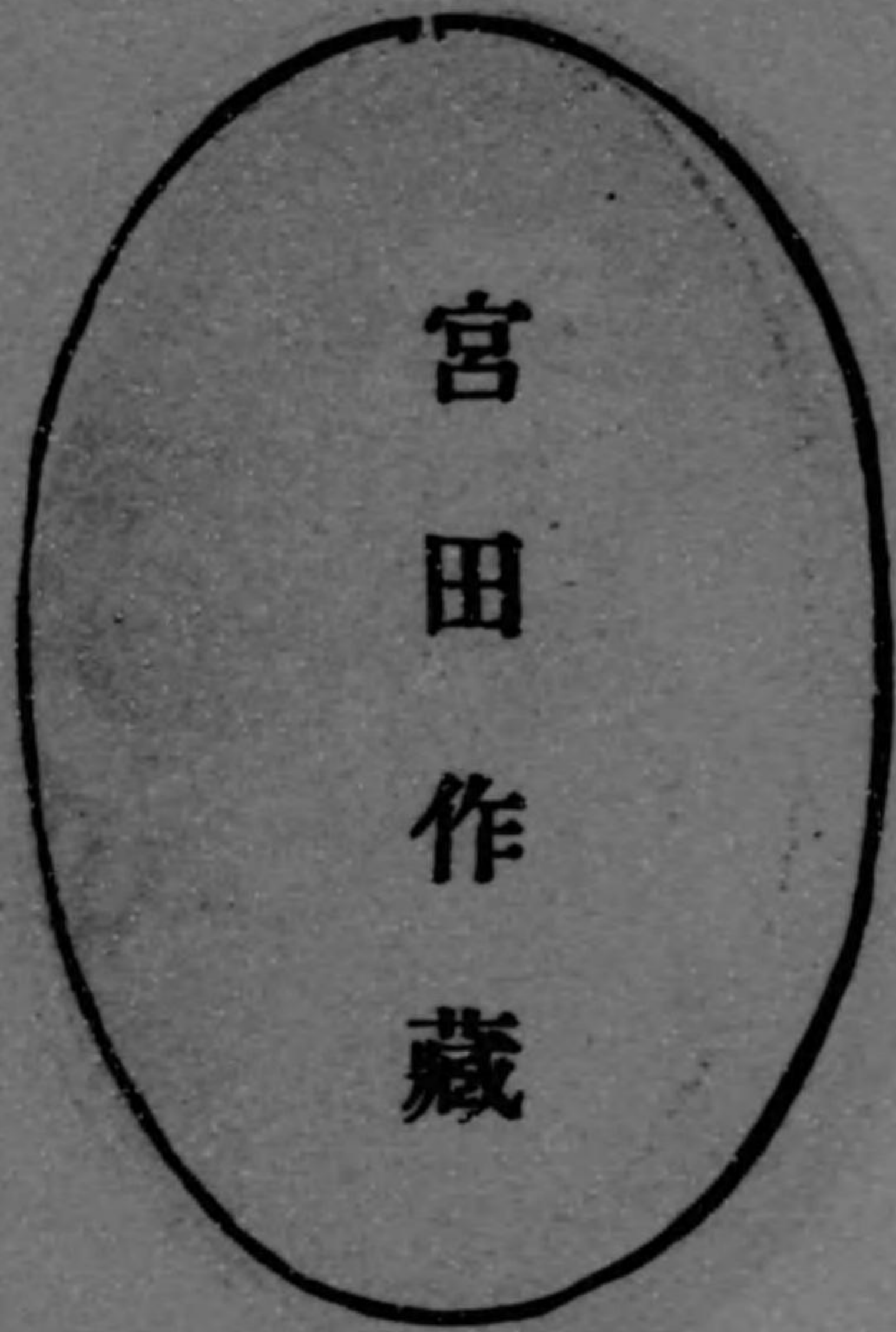
◎山川村



山川村 宮田熊吉氏

君は明治二十三年二月廿八氏の長男に生れ農業を営み傍ら山業及び漁業を兼營す明治四十三年佐世保海兵團へ入り日獨戦争に参加し青島戰に従ひ大正四年三月一等機銃兵に昇進し滿期除隊となる功に依り勳八等白色桐葉章を下賜され大正三年には遣米支隊に入りて米國に渡る歸郷の上は青年會長漁業組合理事となる、村會議員に當選すること前後數回大に地方自治の爲めに奮闘し居れり

宮田作藏

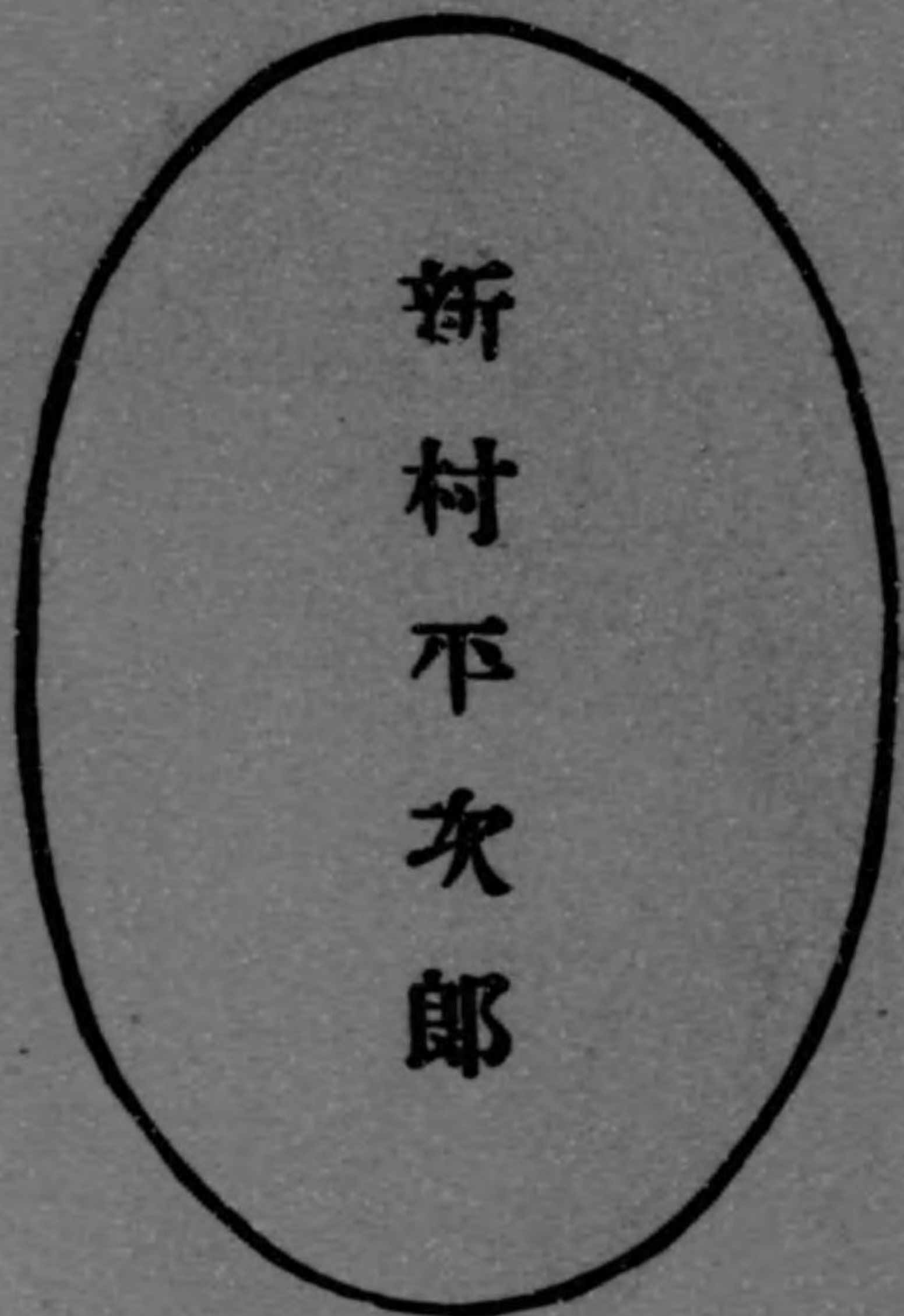


山川村 宮田作藏氏

君は明治七年五月二日全地に生れ大正元年區長となりて、大正四年に至る區會議員たること貳拾ヶ年大正十年村會議員に擧げられ引續き現今に至る、君の令兄彌一氏は畜産組合委員及び學務委員として其の道に多大の貢獻をなしつゝあり

山川村 新村平次郎氏

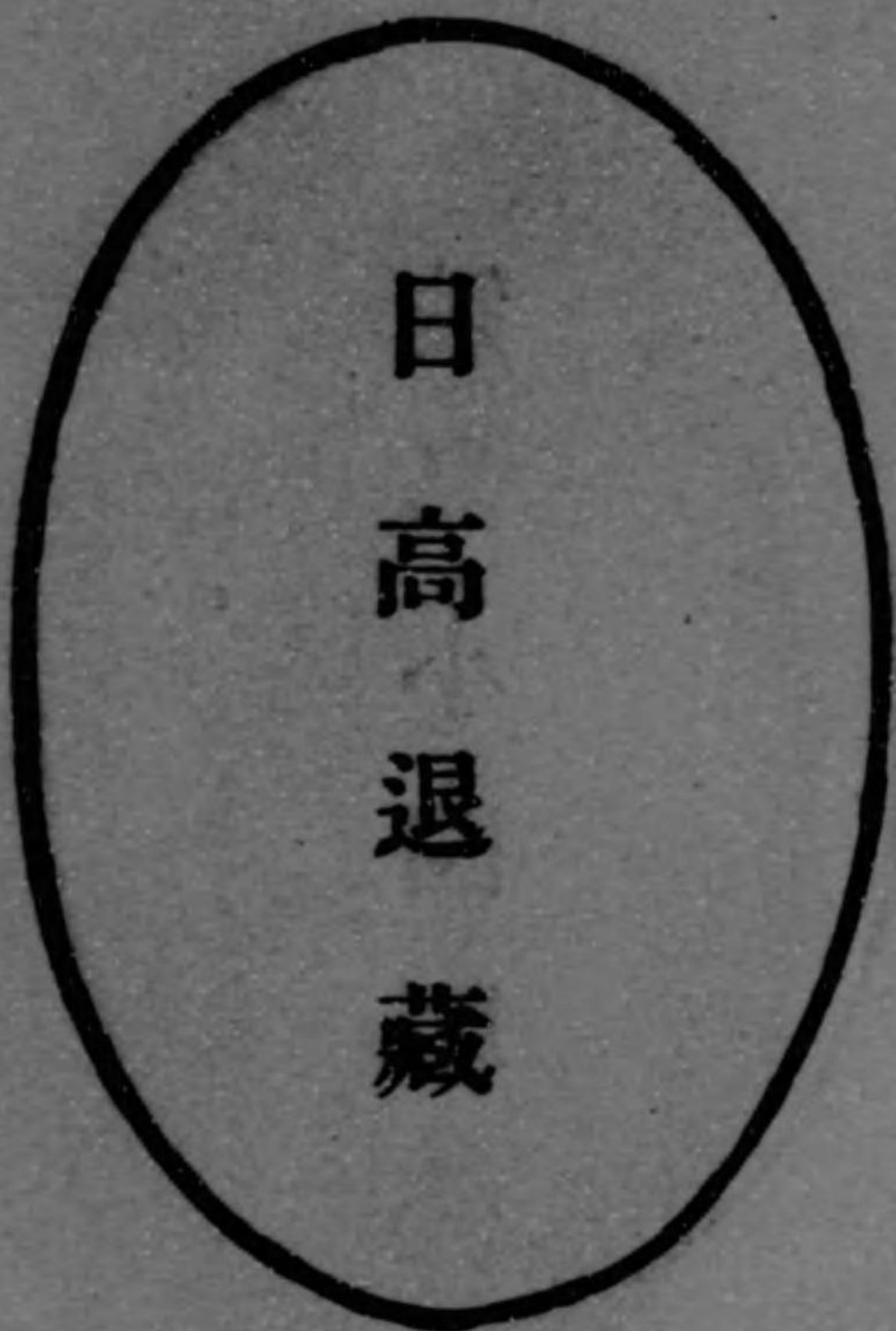
新村平次郎



君は明治七年二月十二日全地に於て生れ二十二才にして區長となり大正七年辭す其の間實に十六ヶ年に亘る尙ほ煙草耕作組合長たること十二年明治四十三年村會議員に當選するや引き続き當選今日に至るまで村自治の爲めに努力し居れり

山川村 日高退藏氏

日高退藏



君は明治三年二月十一日山川村に生れ明治二十五年東京神田區私立明治法律學校法律科を卒業し明治二十九年四月山川郵便局長拜命明治四十五年二月依願免職となり其間に於て村會議員、農會長、産馬組合山川支所長を兼任し明治四十五年三月山川村長就任、大正四年九月辭任、大正十四年三月廿九日山川村會議員に當選し専ら村政に努力す一般村民の間に信頼厚し

◎山川村



鮫島小四郎

君は元治元年三月朔日揖宿郡穎娃村郡二一六番戸に生る、明治三十二年一月廿四日穎娃村助役に擧げられしが、全三十四年八月五日に至りて辞任、明治三十六年十月二日郡會議員に當選、其年十一月穎娃村長に推擧されしも越へて十二月三日に至り辞任せり、明治三十七年四月八日村會議員の改選に際し多數にて當選せり、明治四十年十月二日郡會議員に再選せらる、明治四十四年十二月十七日再び村長に推擧されしが以來明治四十四年、大正四年、大正八年、大正十二年引き續き村長に推擧せらる、其間明治四十三年四月八日村會議員に再選せり、斯くて君は明治三十二年以來二十五年間恪勤能く村政に當り非常の効績を擧ぐ、然れば村民の信頼益々厚く良村長として仰ぐに至れり

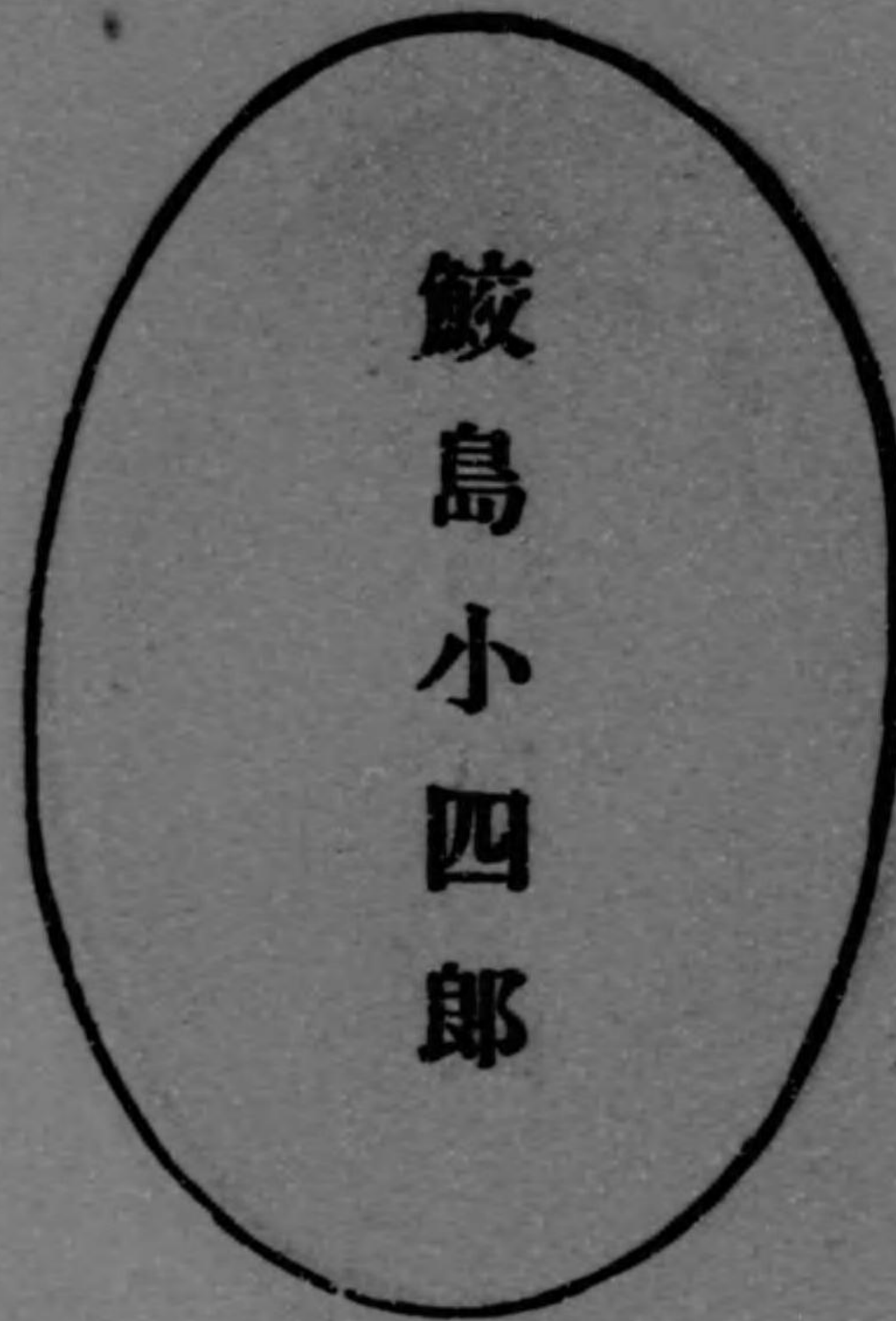
穎娃村長 鮫島小四郎氏

穎娃村助役 河野精之助氏

君は明治三年十二月十七日揖宿郡穎娃村郡元九二六番地に生る、幼時専ら父祖の業に精勵し居たるが、村内一般君の正實勤務なるを稱譽せざるものなく明治三十二年四月二十日穎娃村役場書記に任用せられ以來能く其職務に熱心にして他の範とするに足るものありしも明治三十四年八月五日都合ありて依願退職せしが君の如き誠實なる人を閑地に置くは甚だ不利なるものありとて全村にては辭任の翌月即ち明治三十四年九月五日再び君を村役場の書記に任用したり、君は全く誠實と勤勉を以て聞へたるが、大正十三年一月二十八日穎娃村助役に推薦され以來精勵能く其の職務を遂行し居れり

穎娃村 飯山伊助氏

君は明治二十七年四月十日穎娃村別府四〇〇番戸吉太郎氏の長男に生る、東京順天中學校を出て長崎醫學專問學校に入學して大正六年卒業、更らに福岡大學病院に於て研究せしが大正八年三月歸郷して自宅に開業す、而して君は全年十月粟ヶ窪小學校、全九年八月村醫、大正十二年補習學校々醫を囑託さる、尙ほ穎娃産業組合幹事たること二回、大正十四年村會議員の改選に際し人望の集まる處大多數を以て當選せり、君の家庭は兩親健在の外三男二女を擧げ居れり





◎穎娃村

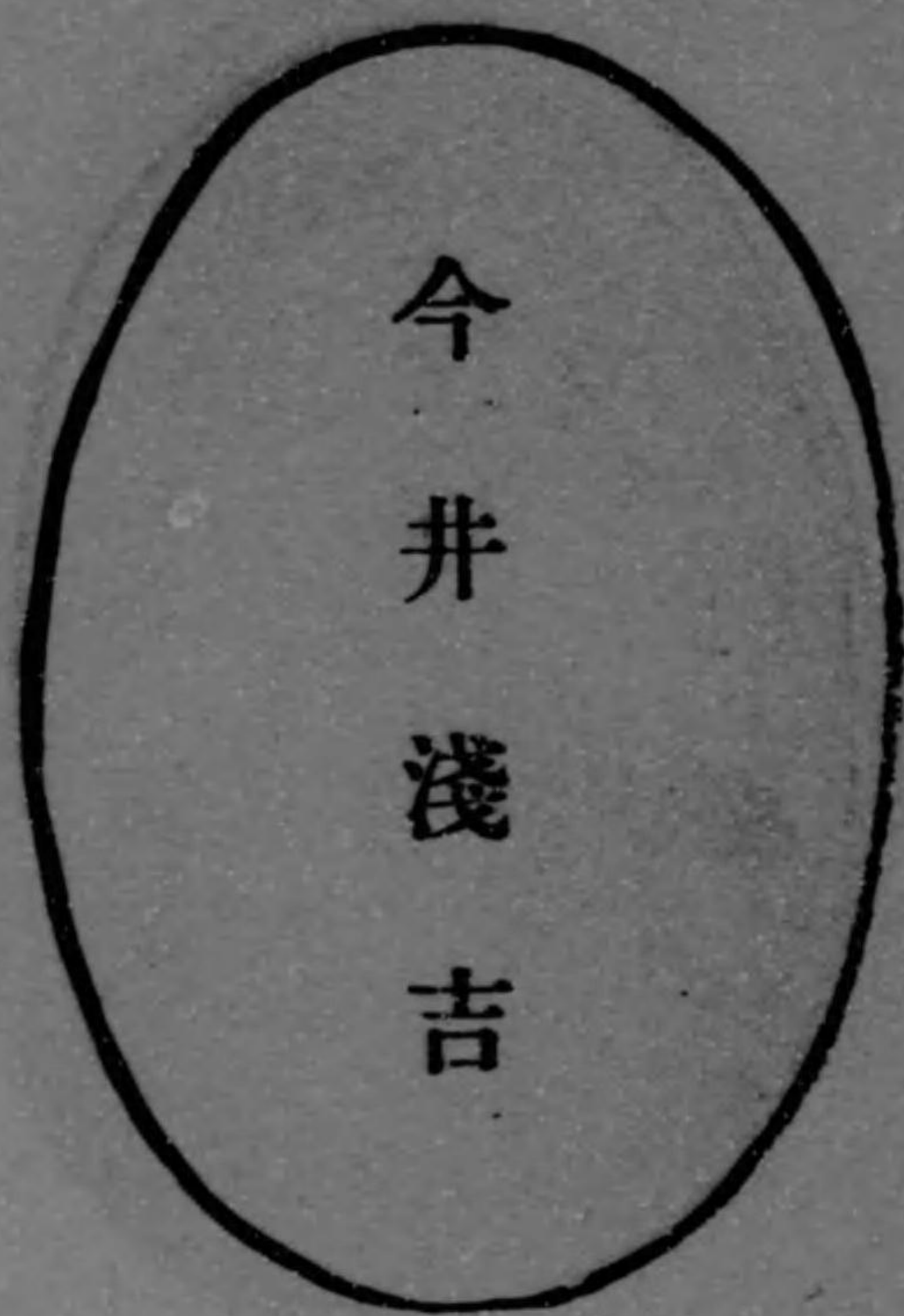


君は明治四年二月十四日穎娃村十町七二番戸孝右衛門氏の長男に生る、明治二十三年村役場書記となり後ち霧島及び御岳神社宮司として十ヶ年に亘り社務に執掌し、明治四十一年十町郵便局長を拜命して今日に至れるが其の功に依り勳八等に叙せらる、尙ほ君は其の間青年會長、十町仙田耕地整理組合長、穎娃産業組合幹事等をなせるが目下薩南水電株式會社監査役をなし居れり、大正十四年村會議員改選の際大多數を以て當選す、君は蠶業の熱心家にして自ら之を營むと共に他に對し大に之を奨励し居れり、君に二女あり長女は女子師範學校を卒業して穎娃尋常高等小學校に教鞭を執り次女は鶴嶺女學校を出で家事にいそしみ居れりと

穎娃村 井上善之助氏

君は明治四年八月十六日穎娃村十町三六五四番地善吉氏の長男に生る、君は十町青年會長を振出しに農事小組長、人民組合長をなせるもの各五年、十町區長及び代理者として八年能く其の事務を見たるが目下穎娃産業組合顧問、全青年婦人會顧問、穎娃漁業組合長及び理事、學校後援會幹事等をなす村會議員としては明治三十六年以來引き續き大正十四年の改選に至る迄大多數にて當選せり、君は製油業、肥料商經營の外蠶業造林等に趣味を持ち經營大に努力し居れり君の長男は東京府立第二中學校を卒業して目下一年志願兵として佐世保野砲隊に入營し居れりと

今井淺吉

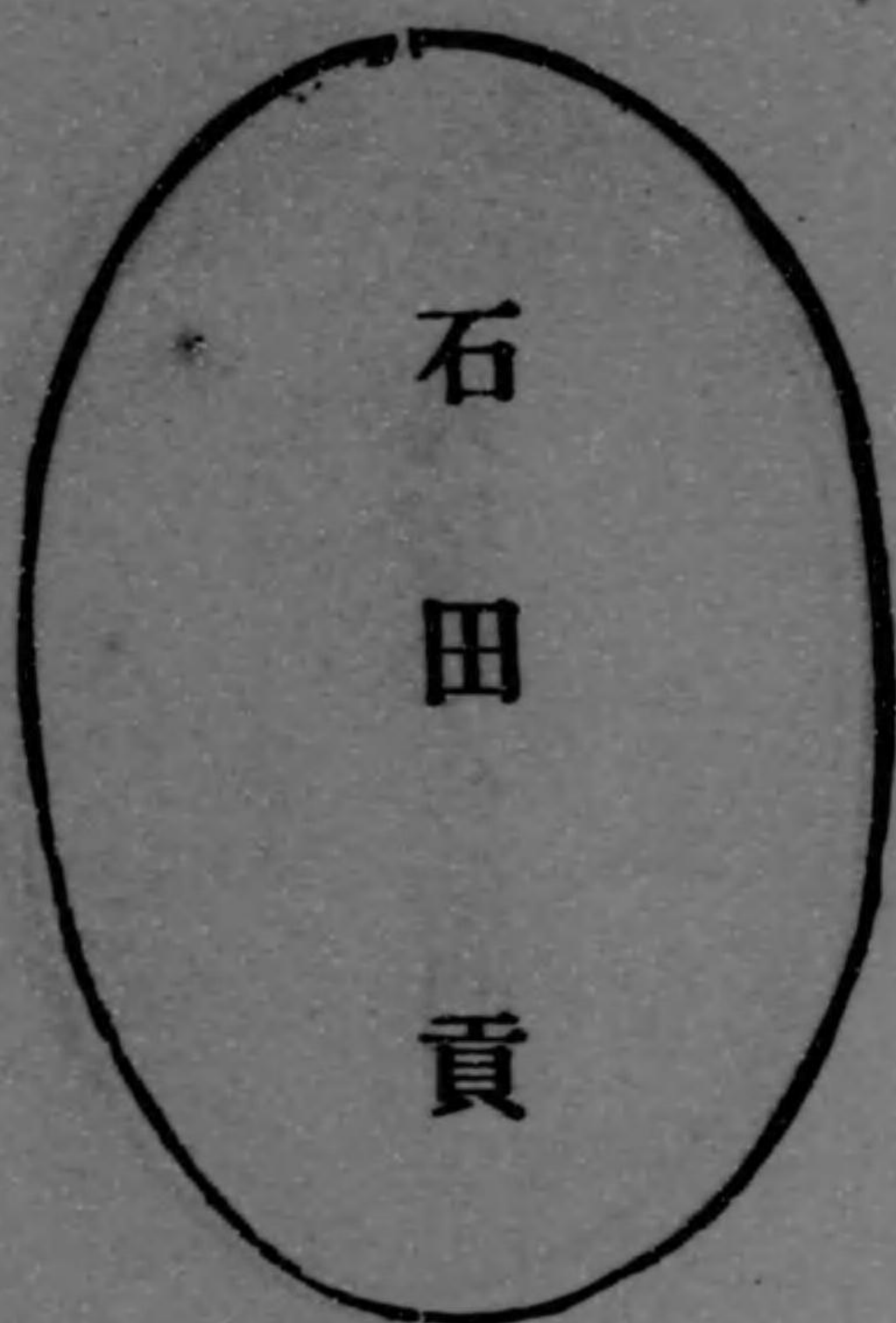


穎娃村 今井淺吉氏

君は明治二十一年六月十日穎娃村十町四五七二番地尾立源右衛門氏の五男に生る、齡僅か三歳にして今井家の養子となり小學校卒業後は専ら農事に屬精し今日に至れるが其間開闢青年會長、農事小組長として各四ヶ年、衛生組合長及び部長として各三回を勤む、大正十四年村會議員の改選に際し輿望を負ふて多數にて當選す、各方面に努力盡瘁せる君は副業として精米業を經營し居れり

穎娃村 石田貢氏

石田貢



◎穎娃村

君は明治六年三月四日穎娃村郡に生る、明治二十六年輜重兵第六大隊に入營、明治二十八年憲兵上等兵に進級、全三十二年滿期にて退營せしが、全三十四年四月臺東國語傳習所教諭を拜命、全年六月更に臺東廳技手に任せられ、全三十八年四月公學校教諭兼公學校々長に、全年十月臺東廳警部に任せられしが大正三年三月依頼免官となりて歸村す、間もなく穎娃村農會長に擧げられて今日に至る、大正十四年村會議員の改選に際し多數にて當選したり



◎ 穎娃村

馬場覺右衛門

穎娃村 馬場覺右衛門氏

君は明治二十年九月十五日穎娃村牧之内一二七九番地淺右衛門氏の二男に生る、穎娃小學校を卒業し、穎娃村役場書記となり明治四十二年に至りて辭任と全時に裁判所に入りて穎娃村出張所の雇となりて一年半餘病を得て辭す、青年會山脇支部長として八年、村農會議員として八年を勤め、尙ほ國勢調査員をもなす、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選したり、君の家庭は至極圓滿にして一男一女を擧げたるが亡兄の遺子二人をも養育し居れり

穎娃村 濱田靜吉氏

濱田靜吉

君は明治十九年二月二日穎娃村仙田五九四番地正次郎氏の長男に生る、小學校を卒業して問もなく南米に渡航したるが明治三十七年四月歸國す、皆は大工業にして棟梁株なり、全年川尻部落代議員に推され今日まで引續き居れるが其の間川尻青年會會長七年間、衛生部會部長二回、川尻浦組合長、大正四年川尻巡查駐在所建築に當りては其監督をなし、尙ほ川尻青年會顧問、穎娃産業組合評議員、川尻消防組合後援會評議員等は現在に至り其の衝に當る、大正十四年多數を以て村會議員に當選したり君は子福者にして四男四女あり何れも健在長男は折宿中學、長女は鹿兒島興業學校其他は小學校に在學中學なり

穎娃村 濱田森七氏

君は明治十四年二月一日穎娃村別府一四五番地伊助氏の長男に生る、君は中學校を卒業して専ら海運業に従事したるが、大正八年郡會議員に擧げられて郡政に參畫する所あり、石垣耕地整理組合理事、別府尋常高等小學校後援會幹事等をなす、明治四十五年村會議員に推薦されし以來引續き大正十四年の改選に至るまで大多數を以て當選せり、斯くて村自治の爲めに努力するもの多年に及べるが村民は一般に君の奮闘に期待する所少なからずと云ふ、君は株式會社第四百四十七銀行石垣代理店主任として全地經濟界に重きをなす、尙ほ小學校父兄會の役員をなし子弟教養の爲めに努力せり

穎娃村 濱崎德左衛門氏

君は明治十五年八月廿五日穎娃村別府五〇〇四番地之助氏の長男に生る、明治四十二年私立東京醫學校を卒業したるが明治四十三年醫術開業試験に合格し、全四十四年歸村開業せり而して大正元年別府尋常高等小學校々醫を囑託さる、君は尙ほ研究の志望あり東京帝國大學醫科大學眼科に入りて大正五年九月卒業す、大正十四年村會議員改選の際大多數にて當選したり、君は二男二女を擧ぐ長男は折宿中學校に長女は第一鹿兒島高等女學校に在學中なりと

◎ 穎娃村

濱崎德左衛門





穎娃村 西 團助氏

君は明治六年七月七日穎娃村上別府四六二八番地團右衛門氏の三男に生る、明治二十七年農事小組合長に推され、全三十二年之を辭す、其間明治二十八年青年會長に擧げらるゝも三年にして辭す、明治三十三年再び農事小組合長に推され、全四十一年之を辭す、明治三十一年全四十年には學校増築委員、明治三十三年より全卅五年迄及び卅九年より四十年迄兒童出席督勵委員全四十五年より大正六年迄青戸説教所總世話人、明治四十五年より二ヶ年共同水車及用水係員、大正三年上別府區長代理、全七年より全十一年迄上別府區長、大正八年より十一年迄煙草耕作組合理事、其の他穎娃村産馬組合世話人、國勢調査員、村會議員、上別府組合長等をなせるが大正十四年村會議員に當選、學務委員、道路改修委員、里道開鑿等に選ばれる、君は蠶業の熱心家なり、長男は青戸郵便局長をなす、

穎娃村 加治屋 新次郎氏

君は明治二年三月十九日穎娃村上別府八三六六番地與右衛門氏の長男に生る、家事の外君は農事小組合長、衛生組合長、全部長を勤ると前後各四回に亘り、寺院の世話人及び區民の總代として約五ヶ年、目下學校後援會評議員、村農會議員等をなせるが大正十四年村會議員の改選には多數を以て當選したり、君の長男は南米に出稼中なるが二男は縣立鹿屋農學校獸醫科を卒業し青戸に於て開業し畜産の治療は元より大に畜産業の獎勵をなし居れり

穎娃村 川畑市兵衛氏

君は明治二年二月九日穎娃村上別府、八右衛門氏の長男に生る、幼より父祖の業たる農業の手傳をなし居たるが長ずるに及び専ら斯業に屬精する所あり村民皆君の奮闘を稱するに至る、斯くて君は衛生組合長、上別府區長に推されて前後十年の久しきに亘り其任務を果したるが大正十四年村會議員の改選に當り多數を以て當選せり、而して學務委員、宅地調査員等に選ばれる、君は家に三男四女あり長男は長崎醫專を卒業して自宅に開業し二男は東京帝國大學醫科を卒業して尙ほ滯京醫務を修習し三男は東京日本齒科醫學校に在學中なりと





○顯娃村

海江田綱宜

君は明治十九年八月顯娃村九二五番地に生る、明治四十四年東京慈惠院を卒業し歸村、直ちに醫術を開業したるが其の熱練なる君の手腕は一般の認むる所となりて患者日に増し月に多く殆んど餘暇なき繁忙を極むるに至れり、大正十四年村會議員の改選行はる、や斯る繁忙なる君を推して候補者としたるに大多數を以て當選の榮を荷へり、斯くの如きは君が平素の熱誠を如實に物語るものなりと云ふ

顯娃村 海江田綱宜氏

顯娃村 高田龜吉氏

君は明治二十九年三月十日顯娃村別府字耳尻、八郎右衛門氏の長男に生る、同四十二年縣立鹿屋農學校獸醫科に入學、全四十五年優等にて卒業、大正四年一年志願兵として熊本野砲第六大隊に入營、陸軍三等獸醫に昇進、大正五年滿期退營、大正八年三月正八位に叙せらる、全年給良郡栗野村畜産技手を拜命せしも家事の都合にて辭任歸村郷里にて獸醫を開業す、大正十一年在郷軍人團長別府區會議員、全年部落改善會創立と全時に委員、學校係員、顯娃村産業組合評議員、耳尻青年會長勇退後全會顧問に推されて今日に至る、尙ほ君は副業として養蠶に精勵し居れるが別に乳牛十餘頭を飼育して搾取業を營み、大正十四年村會議員の改選に際し多數にて當選し村學務委員に選ばれる

顯娃村 栗ヶ窪 萬次郎氏

君は明治十二年十月十日顯娃村牧之内九五七一七番地庄助氏の三男に生る、顯娃村小學校を卒業して家事に精勵し居たるが後栗ヶ窪青年會長に推されて約四年能く會務を處理し、農事小組合長、衛生組合長、栗ヶ窪小學校係等各五年、栗ヶ窪部落組合長五年、其の他村農會長をも勤めたるが何れも充分の成績を擧ぐ、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選したり

顯娃村 松田清之進氏

君は明治八年四月十一日顯娃村仙田八八三番地に生る、明治三十一年第五高等學校醫學部を卒業して歸村自宅に於て醫術の開業をなす、明治三十四年村學醫を囑託されて今日に至る明治四十四年揖宿郡會議員に推選され郡政に參畫すること大正十二年に至るの間に於て實に十三年に及ぶ、又た村會議員として明治四十五年の改選に當選以來引き續き大正十四年の改選に至るまで大多數を以て當選す、君は一女あり養子女夫氏は目下長崎醫科大學に在學中なり

○顯娃村

栗ヶ窪 萬次郎



○顯娃村

眞江田三左衛門

君は明治六年一月顯娃村別府七〇二七番地市左衛門氏の長男に生る、明治三十年稅務署に入り更に專賣局に轉じて三年、明治三十三年臺灣に赴き合資會社澤井組合に入りて土木建築の請負業に従事するもの多年、明治三十七八年の日露戰役の際には澤井組の御用商たる關係上滿洲に出張を命ぜられしかば戰亂平きて從軍章を下賜せらる、君は湯屋の營業をなし居れるが太平生命保險の代理店、漁業組合共同販賣委員等をなす大正十四年村會議員に當選したり

顯娃村 眞江田三左衛門氏

顯娃村 政所乙吉氏

君は明治十四年十二月十七日顯娃村御領三七九九番地己之助氏の四男に生る、明治三十二年縣立鹿兒島縣師範學校講習科を卒業して開闢小學校教員となり次いで九玉小學校に轉ぜしが在職實に廿五年、辭任後御領産業組合の創立と全時に組長に推されて今日に至る、君は村農會議員、御領區會議員、國勢調査員の外、目下丸玉小學校後援會副會長、産業組合婦人會長を勤め居れるが大正十四年村會議員に推選さる、斯く村の自治に努力し居れるのみならず蠶業の利益なるを看取し副業として自ら其業に當りつゝ、他をも大に獎勵し居れり

小磯覺一

顯娃村 小磯覺一氏

君は明治七年七月十六日顯娃村上別府三一〇番地松右衛門氏の二男に生る、明治二十七年青年會長となりしが次いで農事小組合長、衛生組合部長、上別府産業組合幹事、揖宿郡畜産組合顯娃支所世話人、顯娃産馬組合議員等をなす、村會議員として大正二年の改選に當選したるが大正十四年再び推され多數を以て當選したり

顯娃村 有馬源造氏

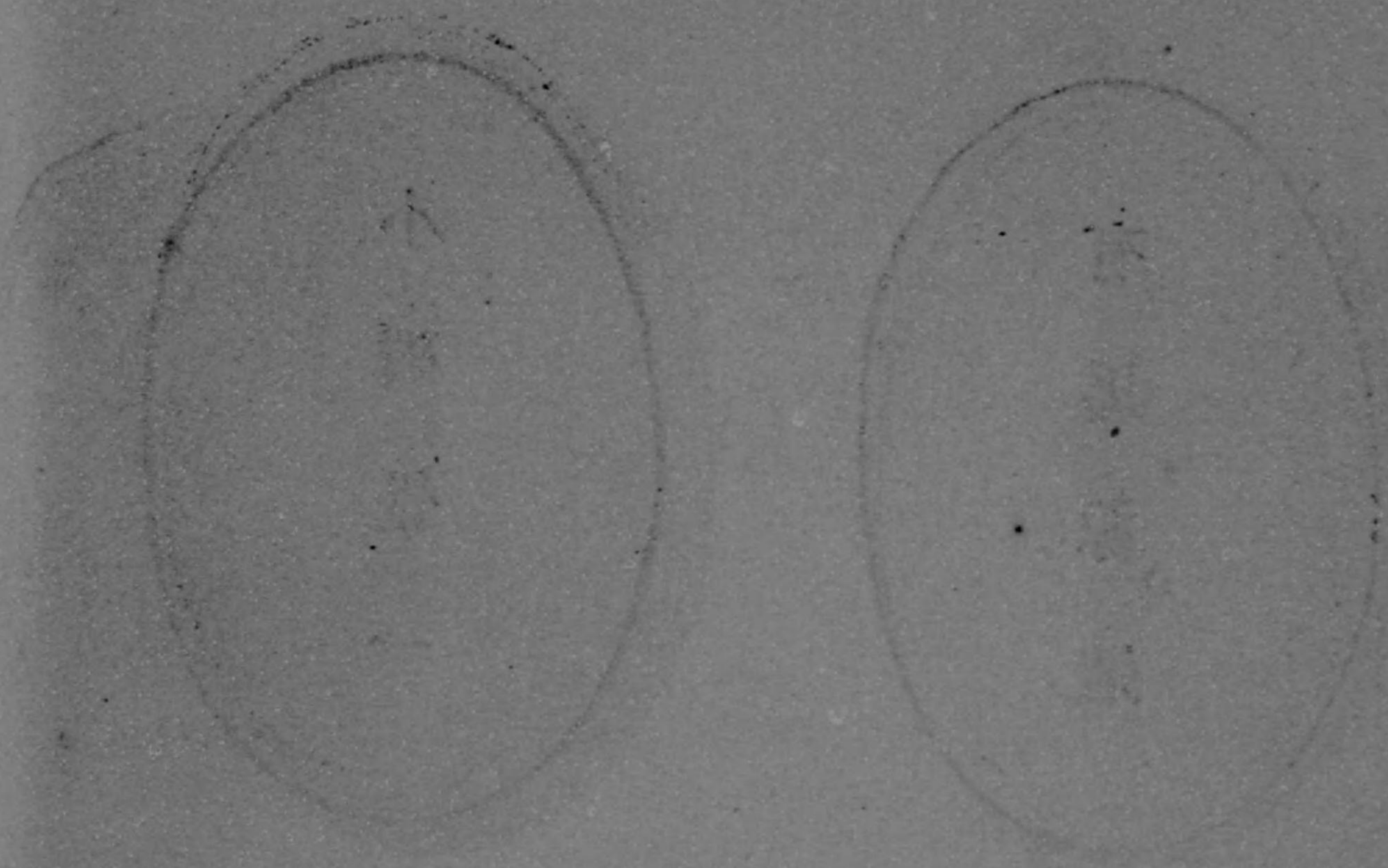
有馬源造

君は明治二十三年三月廿八日顯娃村御領、與兵衛氏の長男に生る、全四十四年歩兵第四十五聯隊に入營、全四十四年朝鮮守備隊に編入されて渡鮮、大正元年四月滿期にて歸村時に歩兵上等兵に昇進、歸村後直ちに馬渡青年會長に推されて五年辭任後は名譽會長として今日に至る、大正八年馬渡信用販賣購買利用組合長として六年勇退後は監査役として今日に至る其の他農事小組合長、國勢調査員等をなせしが大正十四年村會議員の改選に際し多數にて當選したり、尙ほ君は此の外御領區會議員、丸玉校後援會幹事をもなす各方面に努力し居れり、家庭は妻女の外四人の男兒を擧げ圓滿に生活し居れり

○顯娃村



川  
邊  
郡





加世田町

町長 七持 甚左衛門氏  
 助役 田代 傳之助氏  
 議員 市坪 仲次郎氏  
 岩崎 彌左衛門氏  
 今村 善二氏  
 橋口 庄市氏  
 長谷屋 竹次郎氏

本坊 淺吉氏  
 泊 庄市氏  
 德永 平吉氏  
 上 國源 右衛門氏  
 吉見 誠二氏  
 玉利 助右衛門氏  
 竹添 哲夫氏

成田 一二氏  
 中村 猪之助氏  
 永田 彦二氏  
 中間 金左衛門氏  
 前田 秋彦氏  
 前野 實氏  
 有馬 政雄氏

貴島 德十郎氏  
 湯舟 美津雄氏  
 宮原 景明氏  
 志摩 安彦氏  
 東 藤彦氏

萬世町

町長 本山 善氏  
 助役 上村 爲助氏  
 議員 遠矢 秀彦氏  
 川崎 市次郎氏  
 梶 一夫氏  
 吉峰 富次郎氏  
 田原 林一氏

田中 朔一氏  
 國山 仁之助氏  
 辻 壯次郎氏  
 中釜 五一郎氏  
 上西 半四郎氏  
 丸野 大意氏  
 山下 長左衛門氏

松田 定治氏  
 藤宮 末次郎氏  
 福島 益太郎氏  
 小城 新太郎氏  
 相屋 次太郎氏  
 畦元 吉兵衛氏  
 雷 菊一氏

鯨島 喜氏  
 鯨島 勝一氏  
 東 傳太郎氏  
 森 田平司氏  
 阪 訪要助氏

笠砂村

村長 加藤 寛二氏  
 助役 宮内 禎一氏  
 議員 都外川 爲吉氏  
 大迫 明喜氏

◎川邊郡



◎川邊郡

大木金次郎氏  
 奥新右衛門氏  
 小田與右衛門氏  
 片平長右衛門氏  
 川崎與四郎氏  
 吉行傳四郎氏  
 中尾正幹氏  
 向江新次郎氏  
 村野孫市郎氏  
 姥徳一氏  
 柳元熊太郎氏  
 柳元泉氏  
 屋舖三太郎氏  
 前本美義氏  
 益元才藏氏  
 青木美芳氏  
 鮫島宗一氏  
 宮地喜左衛門氏  
 宮内正司氏  
 宮内壯七氏  
 宮内吉兵衛氏  
 下村權右衛門氏

西南方村

村長 鹿島玉治氏  
 助役 小原屋親氏  
 議員 榎本清光氏  
 早水親芳氏  
 折田万吉氏  
 大山定之助氏  
 小田孫三郎氏  
 綿屋吉助氏  
 蒲地善一郎氏  
 吉見平一郎氏  
 田實源之助氏  
 竹内善吉氏  
 中村源次郎氏  
 長濱榮次郎氏  
 野村新左衛門氏  
 野口壯八氏  
 栗野松次郎氏  
 松山市之助氏  
 是枝平之助氏  
 安達袈裟助氏  
 鮫島榮成氏  
 貴島元就氏  
 清川與四郎氏  
 宮内憲一氏  
 森正次郎氏  
 森正次郎氏

枕崎町

町長 今給黎誠吾氏  
 助役 高城彌市氏  
 議員 板敷市六氏  
 今給黎力馬氏  
 今給黎愛之助氏  
 今給黎善二氏  
 原 耕氏  
 尾辻彦二氏  
 茅野萬次郎氏  
 吉野邑二氏  
 田代正盛氏  
 國田兵助氏

知覽

村

積山萬之丞氏  
 中原市次郎氏  
 長野直治氏  
 長野彦太郎氏  
 上迫貞助氏  
 國見龜吉氏  
 國見儀作氏  
 楠喜八氏  
 山之内愛之助氏  
 山之内嘉也氏  
 山崎新四郎氏  
 鮫島末次氏  
 木原泰藏氏  
 宮地敬二氏  
 下窪四郎助氏  
 新留末次郎氏  
 森林藏氏

村長

佐多精一氏  
 江平重氏  
 市坪乙吉氏  
 樺崎矢市氏  
 橫峰林右衛門氏  
 田中軍治氏  
 谷山水之丞氏  
 種子田秀吉氏  
 檜原宗吉氏  
 浮邊覺助氏  
 上野藤右衛門氏  
 山元八之助氏  
 山元喜左衛門氏  
 安田喜一郎氏  
 丸野當右衛門氏  
 松山謙吉氏  
 松久保次郎氏  
 福永七郎氏  
 佐多正藏氏  
 佐多楠兵衛氏  
 佐多吉之助氏  
 鮫島嘉次郎氏  
 菊永助右衛門氏  
 柚木弘親氏  
 宮原友記氏  
 霜出勘兵衛氏

川邊

町

町長 勝目泰雄氏  
 助役 池田矢五郎氏  
 議員 池崎森太郎氏  
 出水清吉氏  
 春田勇吉氏  
 原袈裟次郎氏  
 中禮權兵衛氏  
 大坪仁藏氏  
 岡野袈裟吉氏  
 田中善兵衛氏  
 園田善助氏  
 長井庄太郎氏  
 中山直助氏  
 中山市之助氏  
 柳權太郎氏  
 牧角最治氏  
 牧角市太郎氏  
 追水右衛門氏  
 佐野權四郎氏  
 峰元政太郎氏

◎川邊郡



◎川邊郡

宮園市太郎氏  
溝口助市氏

勝目

村長 藤坂尙司氏  
助役 椎原六矢氏  
議員 羽牟仲太郎氏  
二反田暎助氏  
佛酒彌助氏

新屋卓芳氏  
芝原市之助氏

村

川野國次氏  
吉永助太郎氏  
吉嶺惠宗氏  
上野親慶氏  
黒松傳吉氏

東市之助氏

山下山吉氏  
山元作一氏  
松園藤兵衛氏  
天神新右衛門氏  
藤坂纈助氏

末吉

藤坂邦惠氏  
藤坂彌美氏  
酒瀬川源矢氏  
君野助次郎氏  
椎原彦二氏

清氏

土持甚左衛門



◎加世田町

加世田町長

土持甚左衛門氏

君は明治四年九月加世田町に生る、明治廿七年三月鹿兒島縣尋常師範學校を卒業して加世田尋常高等小學校訓導、川邊郡學務主任、第一課長、同郡勝目、玉林各小學校訓導兼校長となり辭任の上明治四十二年五月加世田町長に就任せしが明治三十七八年戰役の功に依り明治三十九年四月金八十圓を下賜せられ大正四年五月日本赤十字社特別社員に推薦さる、君の長男勲夫氏は帝國大學法科卒業在京會社員たり二男は日本大學在學三男は中學在學中なるが君は村長及び町長として町村自治に盡瘁せるもの實に五期に及ぶ。

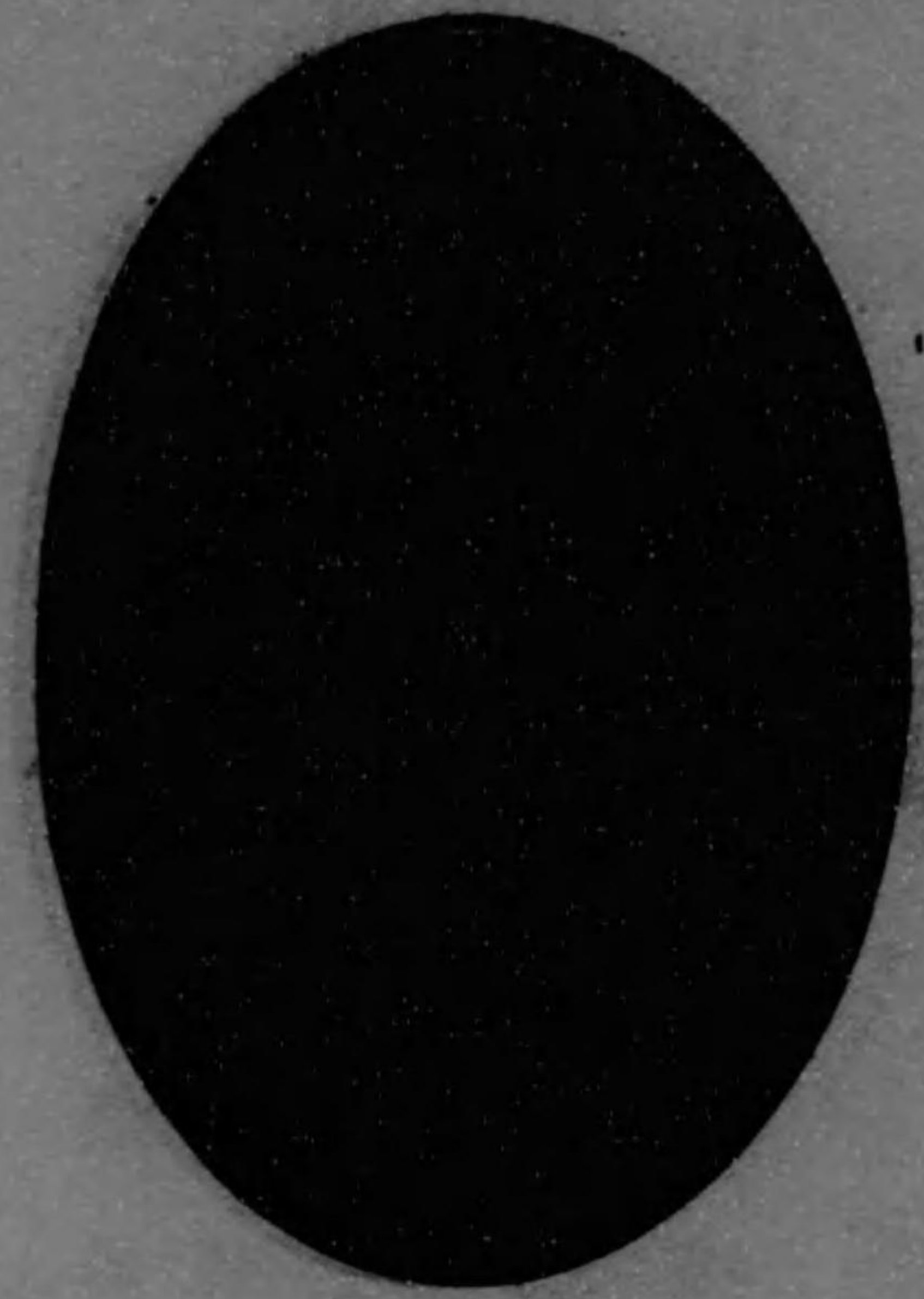
加世田町助役

田代傳之助氏

君は明治三十年四月獸醫免狀を得同三十六年八月加世田警察署獸醫として勤務、同三十九年八月鹿兒島縣衛生技手拜命同時に加世田警察署に勤務を命ぜられ同四十四年三月伊作、枕崎、兩署兼務を被命、大正五年三月川内警察署勤務を被命、大正十年三月加世田警察署勤務、知覽分署兼務を被命、大正十二年二月依願退職し、同年三月加世田町助役に擧げられ現在に至る温厚篤實の士なり。



◎加世田町



加世田町 岩崎彌右衛門氏

君は慶應元年に加世田町に生る、明治三十五年より益山、加世田各小學校に教鞭を取り、全四十五年退職せしが至る所の學童は皆な君を慈父の如く敬慕せり、大正四年日本徴兵保險會社代理店を開き其の社員として活動す、大正十年村會議員に當選し大正十四年再選現在に及ぶ公共事業のため全力を注ぎ活動しつゝ在り。

今村善二

加世田町 今村善二氏

君は明治元年二月生る、小學校を卒へて専ら農事に勵精せしが、大正十一年農事小組世話役に擧げらる、大正十年村會議員に當選、大正十四年再選町會議員となる、性温厚篤實にして町民の信望殊に厚し。

加世田町 橋口庄市氏

君は明治二年十一月八日加世田町に生る、明治二十三年村會議員に擧げられし以來村議たる事數次、全二十五年又た區長に擧げられて八年間其の任に在り、大正十三年衛生副組合長に擧げらる町會議員として現に其の任にあるのみならず顯證寺門徒總代をも勤め居れり、君は子福者にして長男は臺灣公立學校長として奉職中二男も教育家なり、三男は帝國在郷軍人會本部奉職中、四男は本縣小學校訓導を奉職中なり。

加世田町 本房淺吉氏

君は明治十七年三月本房松左衛門氏の長男として生る、明治四十二年焼酎醸造業に着手當時生産高三十石内外なりしも君は大正三年ポイラーを裝置し大正八年更に土肥式最新式に變更し現在に於ては五百石以上を醸造せり、明治四十五年大藏省日本酒造獎勵品評會に於て優等賞金牌を受領、川邊、揖宿兩郡酒類品評會に於ては開會毎に一等賞を得、九州沖繩八縣聯合共進會熊本縣主催國産品評會等に出品して金牌を受領、第一回鹿兒島酒類醬油品評會に於ては又一等賞を得、君は川邊、揖宿兩郡の酒造組合加世田支部長を勤め大正四年組長に推され日本酒造協會代議員並に鹿兒島縣酒造聯合會評議員、川邊郡米商組合長たり、當時鹿兒島市加世田町に數軒の支店を有す、大正十四年町會議員に當選町の自治及び醸造業に貢獻しつゝ在り。

◎加世田町





○加世田町



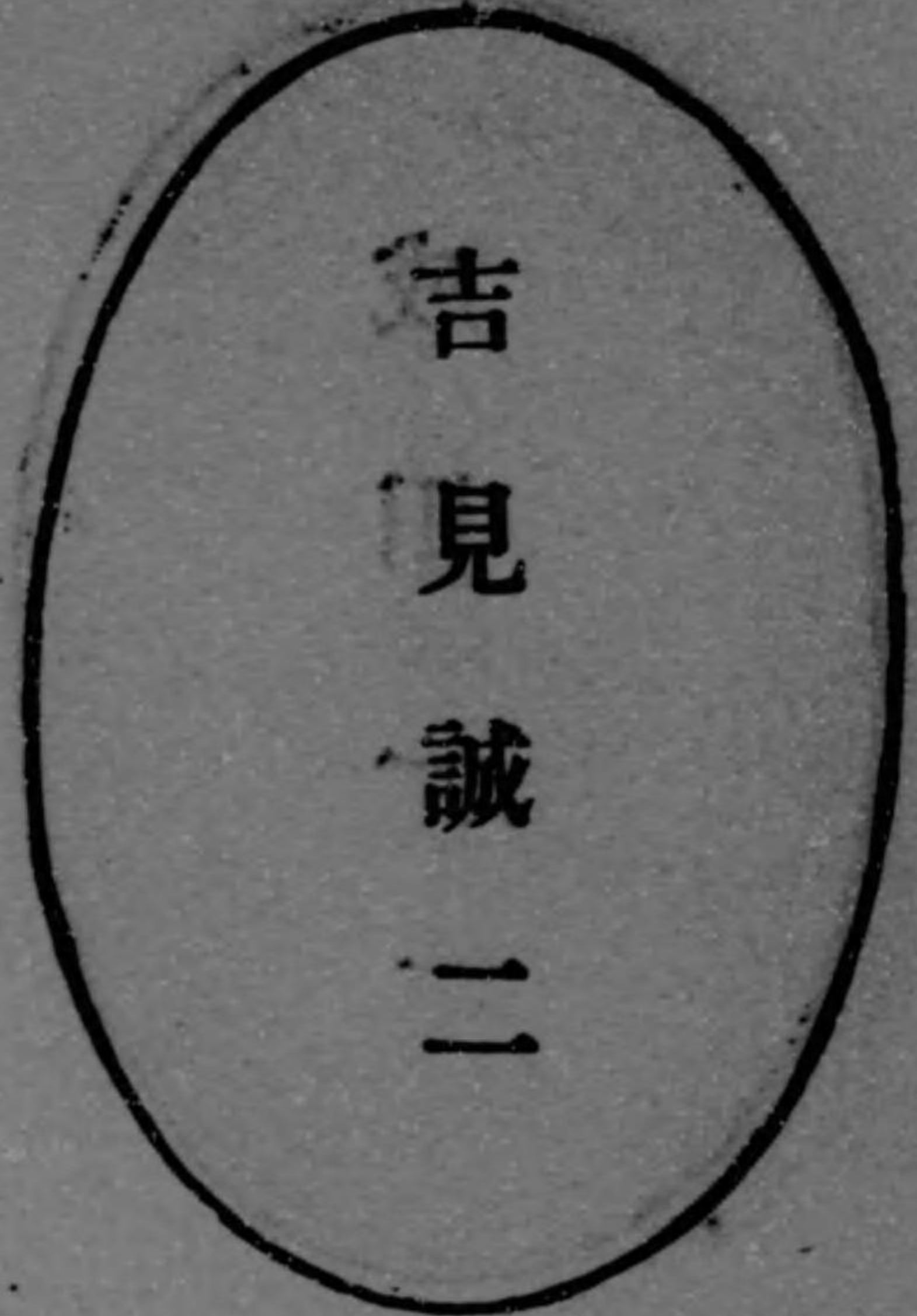
加世田町 泊 庄 市 氏  
君は明治四年五月加世田町に生る、明治四十年より十三年間農事小組合長に推されその貢献せる處尠からず、目下部落共有製茶場主任たり、大正十四年町會議員に當選せしが君は農作物の品質向上に努力しつゝあり、君の長男は目下米國にて實業に従事し居れり。

加世田町 上 園 源 右 衛 門 氏



君は明治四年十一月加世田町に生る、明治三十五年以來八年間農事小組合長に、明治三十二年より大正二年六月迄區長に擧げらる、而して明治四十年以來村會議員に推さるゝ事數回現今尙ほ町會議員たり其の間農事及び村治の向上に資する所少なからず、大正二年内山田評議員に擧げられ現在に至る君は園藝に興味を持てり。

吉 見 誠 二



加世田町 吉 見 誠 二 氏  
君は明治二十七年八月七日利兵衛氏の長男として生る、明治四十五年川邊中學校を卒業して種子油、肥料の製造販賣業に従事す大正十年家督を相續せしが目下鹿兒島縣肥料同業組合代議員として斯業に盡瘁し居れり尙ほ少壯町會議員として一般に將來を期待せらる。

加世田町 玉 利 助 右 衛 門 氏



君は明治十四年三月十日川邊町轟木善助氏の三男として生る明治四十一年玉利家の養子となる、川邊尋常高等小學校卒業後同校教員拜命明治三十四年近衛聯隊に入營明治三十七八年戰役に従軍せしが戦功に依り勳七等功七級金鷄勳章を受く後歩兵曹長に昇進歸郷後農事小組合長、養蠶組會議員、農會代議員に推され、尙ほ現町會議員として活動し居れり。

○加世田町



竹添哲夫

君は明治二十二年十二月二十八日加世田町に生る、川邊中學校第一回卒業生にして明治四十三年一年志願兵として第四十五聯隊に入營し大正二年歩兵少尉に昇進正八位に叙せらる大正十三年四月歩兵中尉に昇進大正十三年武田信用組合長に擧げられ大正十四年萬瀬水力電気株式會社に奉職現在に至る尙ほ現町會議員として町政に貢献しつゝあり。

加世田町 竹添哲夫氏

成田一一

君は明治二十年八月生、大正三年長崎醫專を卒業して磯部博士に就き醫學を研究し大正四年五月より加世田村津貫に開業す、久木野尋常高等小學校々醫を囑托せらる尙ほ町會議員として貢献する處鈔からず又た令室は西博士の令妹なり、

加世田町 成田一一氏

中村猪之助

君は明治二十二年四月生、明治四十三年鹿屋農學校獸醫科を卒業し自宅に於て獸醫を開業す、大正六年村會議員に推されし以來引き続き當選目下町會議員として活躍し居れり尙ほ君は川邊郡獸醫會長にも選出され自治の爲めに貢献するは元より獸醫として畜産の衛生飼養に盡瘁する所少なからず。

加世田町 中村猪之助氏

永田彦二

君は明治十六年十月生る、明治三十七年熊本縣人吉町に於て材木商を經營、大正三年歸郷の上農業を營み傍ら養蠶、造林業を經營せり、君は獨り造林業に熱心なるのみならず町民に對して大に其の有利なるを力説獎勵し町民をして林業に従事せしめつゝあり、大正十四年町會議員に當選自治の發展に對し努力しつゝあり。

加世田町 永田彦二氏



◎加世田町



加世田町 前田 秋美氏

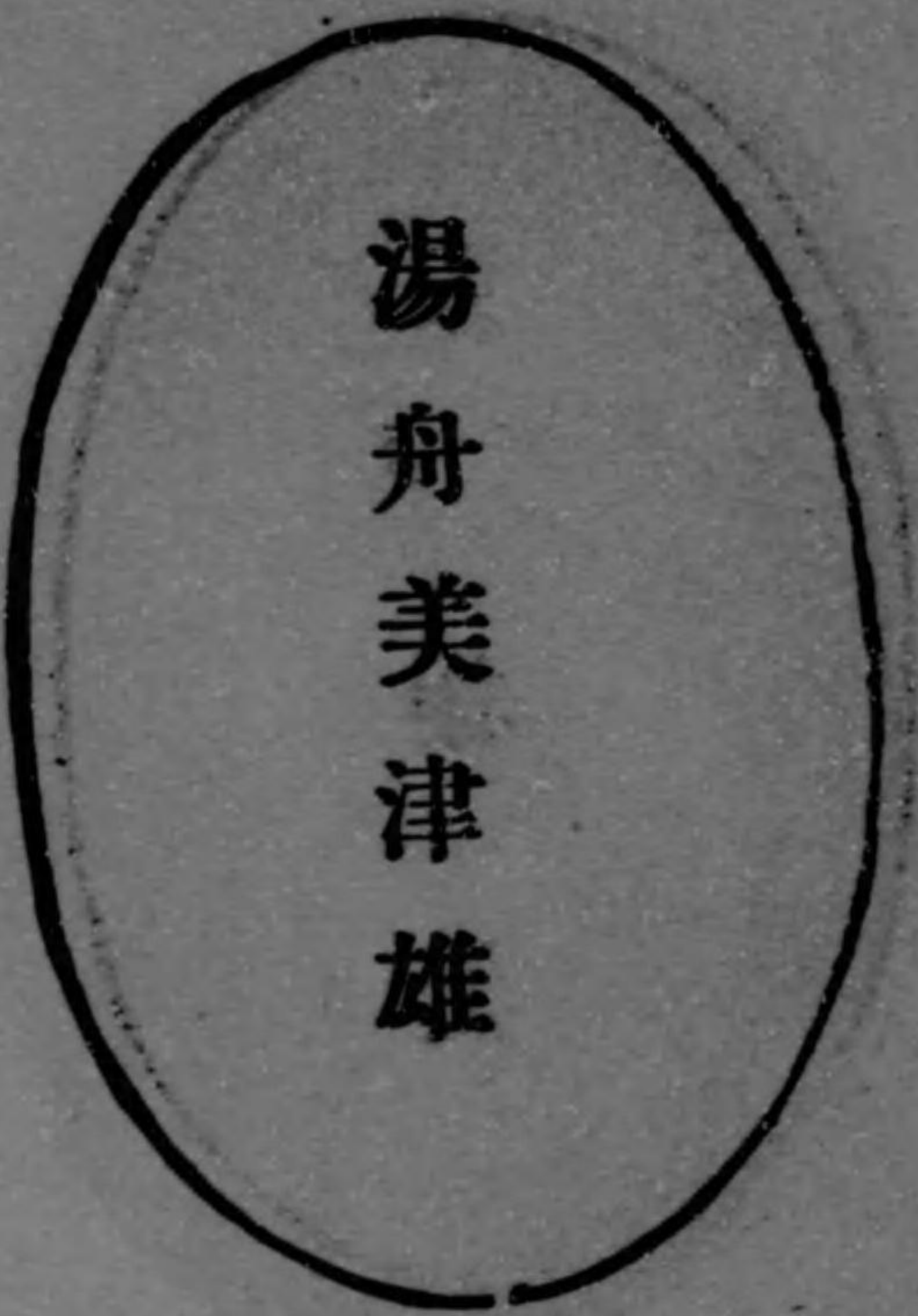
君は明治三年六月加世田町に生る、明治三十年加世田村役場書記となり全三十四年農事試験場に入り、全三十六年薩摩郡農業技手を拜命、全四十一年朝鮮京城農工銀行技手、大正七年朝鮮殖産銀行技師、大正九年南産銀行に奉職現町農會總代及び勸業委員たり、大正十四年町會議員に當選せり。

加世田町 貴島徳十郎氏



君は安政三年六月二日加世田町に生る、明治二十八年村會議員に擧げられ以來引き續き現在に至る、明治十二年熊本縣清崎醫院にて醫學を研究し明治二十二年更に大阪市緒方病院にて醫學の研究を重ね明治四十三年二月迄加世田町津貫にて醫術開業、大正八年十二月郡會議員に擧げらる、明治四十五年以來學務委員、土木委員勸業委員等に選ばれしが目下尙ほ土木委員たり、かつて川邊郡勸業調査委員たりし事もあり現町會議員として大いに貢獻しつゝあり。

湯舟美津雄



加世田町 湯舟美津雄氏

君は明治十四年十一月生る、明治三十四年臺北歩兵第六聯隊に入營滿期除隊後専ら商業に従業し大正二年醬油醸造業を開業し敏腕を以て營業せるに依り生産高も増加し充分需用家を満足せしむるに足る大正十年川畑區會議員及び蠶業組合長に推され大正十四年町會議員に當選し町政のため貢獻しつゝ在り。

加世田町 宮原景明氏

君は文久三年六月生る、明治十九年二月沖繩縣巡查を拜命、全二十年七月内務省警察官練習所卒業、同年十一月沖繩縣警部補、全二十三年沖繩刑務所書記看守長、全二十四年三月刑務所練習所卒業後刑務所及び巡查教習所教官、全二十六年鹿兒島縣へ轉任、鹿屋警察署柏原分署長、全二十七年長崎縣刑務所書記、全三十年八月沖繩縣那覇警察署長、全三十三年七月八課長、全三十四年八月沖繩縣那覇警察署長、全三十九年二月名護警察署長に任ぜらる、尙ほ明治三十七八年戦役の功に依り勳八等瑞寶章を賜はる全三十九年辭任上京して嶺山事業に従事全四十四年九月沖繩製糖會社に入社、大正七年臺南製糖株式會社沖繩縣高嶺製糖會社社長となり大正十年八月退職現在南産運輸株式會社社長なり大正十四年町會議員に當選す。

◎加世田町





志摩安彦

加世田町 志摩安彦氏  
君は明治七年五月加世田町に生れ、明治三十一年一月川邊郡書記に任ぜらる、爾來庶務、兵事々務を分掌せしが明治三十九年に至り明治三十七八年戦役の功に依り勳八等瑞寶章及び金八十圓を賜はる大正三年六月勳七等に叙せらる尙ほ君は明治四十五年一月第二課長、大正五年一月正八位全七年四月廿日從七位に叙せらる大正十年五月一日所務規定改正の結果財務、庶務各主任となり大正十一年十二月依願免職、大正十一年十二月十一日加世田郵便局長拜命、大正十四年町會議員に當選學務委員に選ばれる。

加世田町 東藤美氏

君は明治二十六年一月二十九日藤右衛門氏の長男として生る明治四十五年川邊中學校卒業後農業に従事し傍ら果樹園を開拓し熱心に園藝の研究をなせり大正九年村會議員に推され大正十四年町會議員に當選す、性温厚にして多方面に興味を有せり。

東藤美



萬世町長 本山壽君

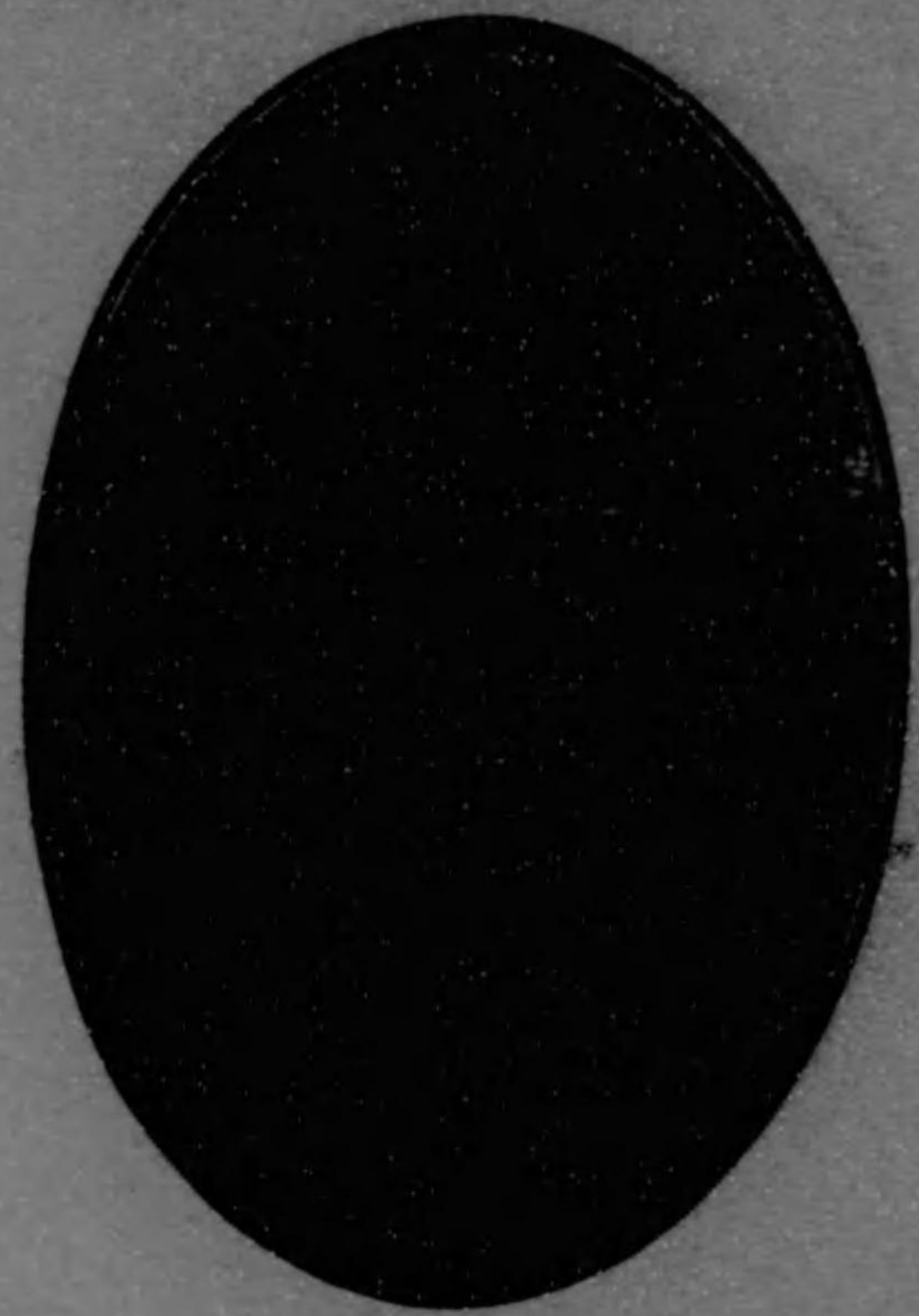
君は明治九年十一月東加世田村に生る、明治四十一年五月東加世田村長に就任し全年七月村農會長、全年十月全村教育會長に當選、明治四十五年五月再選、大正四年三月高岡鹿兒島縣知事より其功績を表彰して金三十拾圓を授與さる、大正六年二月東加世田村々會議員に當選全八年郡會議員に當選し全時に郡參事會員となり全年十月東加世田村會議員當選大正十一年川邊郡農會副會長に當選し、大正十三年東加世田村長となり町制實施と共に町長となる、斯くて自治の發展に盡力するもの少なからず。

萬世町助役 上村爲助氏

君は明治九年五月一日全町に生れ、大正九年七月東加世田村助役に當選し町制實施と共に町助役となり現任せり。

上村爲助





萬世町 梶 一 夫氏

君は明治十二年二月十日東加世田村に生る明治三十二年東京警視廳巡查拜命其の後警部補に昇進し同三十六年講道館に於て柔道初段の免状を得警視廳柔道部師範となる明治三十八年中央大學卒業せしが明治三十七八年戦役の功に依り勳八等瑞寶章を下賜さる、大正八年益山産業組合常務理事に當選し益山青年會顧問、同消防組頭、衛生組合長川邊郡衛生評議員等に擧げらる、大正十四年町會議員に當選し青年の体育獎勵の指導、殖産興業及び自治の爲めに盡力せし所多し。

萬世町 田 中 朔 一 氏



君は明治十五年四月廿五日萬世町に生る、小學校を卒業して専ら父祖の業に従事し居たるが長して海軍々人たらんと志し佐世保海兵團に入り軍務に精勵せしが海軍兵曹長に進級して退役せり、明治卅七八年日露戦役に従軍功あり勳章を下賜せらる、大正十四年町會議員に當選せり。

萬世町 園 山 仁 之 助 氏



君は明治九年五月六日を以て萬世町に生る、小學校卒業後専ら實業に従事し孜々として備ます能く其の繁榮を圖りたるが君が事業に熱心なるは一般の認むる所となる、大正十四年町會議員の改選に際し君又た推されて當選の榮を荷へり、斯くて自治の爲めに貢献しつゝ、自己の業務たる雜貨商を經營し居れり

萬世町 辻 莊 次 郎 氏



君は明治十七年四月十一日東加世田村に生る、明治三十七年日露戦役に従軍し功に依り勳八等瑞寶章を下賜さる、歸郷と共に區長、農事小組合長、煙草耕作組合長、産業組合理事となり大正十四年町會議員に當選し町の發展策を講じつゝあり





萬世町 中釜五一郎氏

君は明治十二年二月十日を以て萬世町に生る、明治三十二年  
徴兵に召され汝々として軍務に勵精せしが偶々明治三十七年  
日露戦役の起るや直ちに從軍滿州の野に轉戦し功を以て叙勳  
の光榮を荷ふ、而して特務曹長に累進して退役せしが目下青  
年訓練所の指導員として其の任務に従事せり、大正十四年町  
會議員に當選せり、



萬世町 上西半四郎氏

君は明治二年三月九日東加世田村に生る、明治二十八年世話  
人となり大正十一年迄勤む、其の間益山道路開鑿、村農事小  
組合、煙草小組合、産業組合等の理事に擧げられ萬之瀬川水  
害豫防組合委員及び組合長となり氏子總代をも勤む大正十四  
年町會議員に當選、家にありては子女の教育に盡力せり。

萬世町 松田定治氏



君は明治六年七月二十二日萬世町に生る、小學校に教職を取  
る事十ヶ年の久しきに及びしが各校の見童より慈父の如く敬  
せらる後鹿兒島官橋大分等の稅務署に入り稅務官吏として奉  
職する事十六ヶ年其の間酒造場整理及び密造酒防壓等酒造界  
に一大刷新を加へ大正六年退職す、同十一年益山産業組合長  
に擧げられ農村經濟の發展に努力せり大正十四年町會議員に  
當選其の議員たること二期に及ぶ趣味としては謡曲和歌に通  
じ吹簫と號す。

萬世町 小城新太郎氏



君は慶應元年七月七日を以て萬世町に生る、君の家は代々農  
業をなせるに依り君又た幼より父祖の業に勵精して怠らず、  
長じては各方面に於ける公共事業にたつさわり村民の信用を  
博せしが大正十四年町會議員の改選に際し町民の輿望を負ふ  
て當選、村自治の爲め多大の努力をなしたあり。



○萬世町

哇元吉兵衛



萬世町 哇元吉兵衛氏  
君は明治九年九月二十九日東加世田村に生る、明治三十六年牛乳販賣業を創め専心斯業に従事し現在に於ては乳牛二十餘頭を飼育して其の生産高又た少からず、大正十年村會議員に當選し大正十四年再選町會議員となる君は畜産事業の熱心家にして大に獎勵しつゝあり。

萬世町 鮫島勝一氏

君は明治七年八月廿八日萬世町に生る、海産業の利益あるを感ず斯業に向つて努力する所ありしかば目下盛大に漁業を經營し得るに至れり、大正十四年町會議員の改選に際し多數を以て當選し、村自治の爲め勉むる所少なからず。



萬世町 森田平司氏

君は明治三年八月廿七日を以て萬世町に生る、君の家は吳服太物商を經營せるに依り君又た幼より斯業に従事し其の繁昌を企圖するもの少なからず、大正十四年町會議員の改選に際し町民の輿望を荷ひ多數を以て當選したれば餘念なく自治の爲め努力しつゝあり

萬世町 東傳太郎氏

君は慶應三年三月七日を以て萬世町に生る、嘗つては農事小組合長、區長、衛生組長等を勉めしが、君の熱心なる各方面に向つて揮身の努力を惜まず、爲めに一たび君が手を染めし事は能く之を成就せり、目下農會書記として村農會の事務に屬精し居れるが、大正十四年町會議員の選舉に際し多數を以て當選したり。



○萬世町

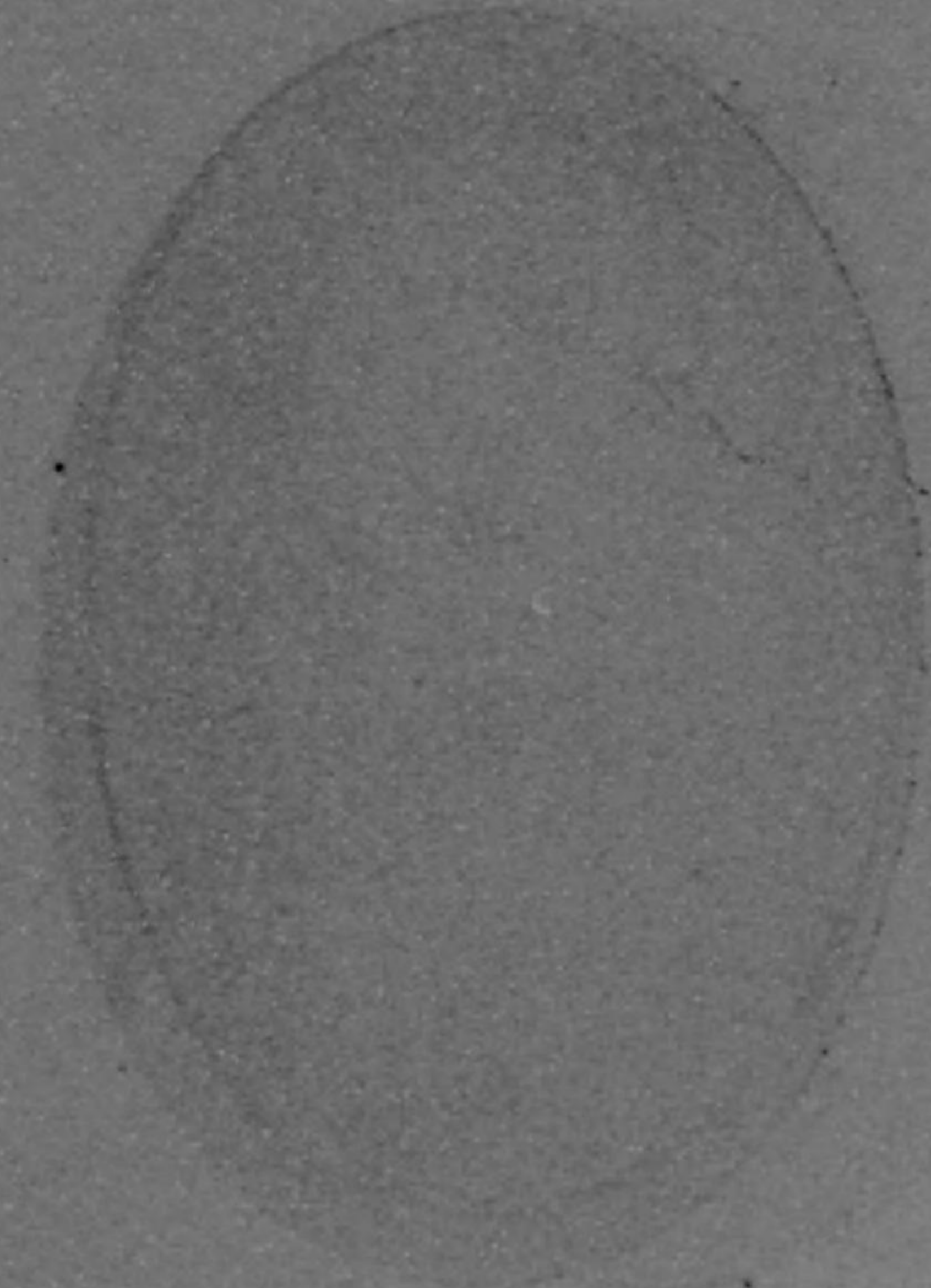


◎高世町



高世町 諏訪要助氏

君は明治三年八月一日高世町に生る、同二十三年騎兵聯隊に入營し同二十七八年日清戦役に従軍したるが同二十九年戦功に依り一時金三十圓下賜さる、歸郷後區長、耕地整理委員評議員、國産組合理事建築委員等に擧げられ大正六年村會議員に當選全十四年町會議員に再選し町政のため努力せり。



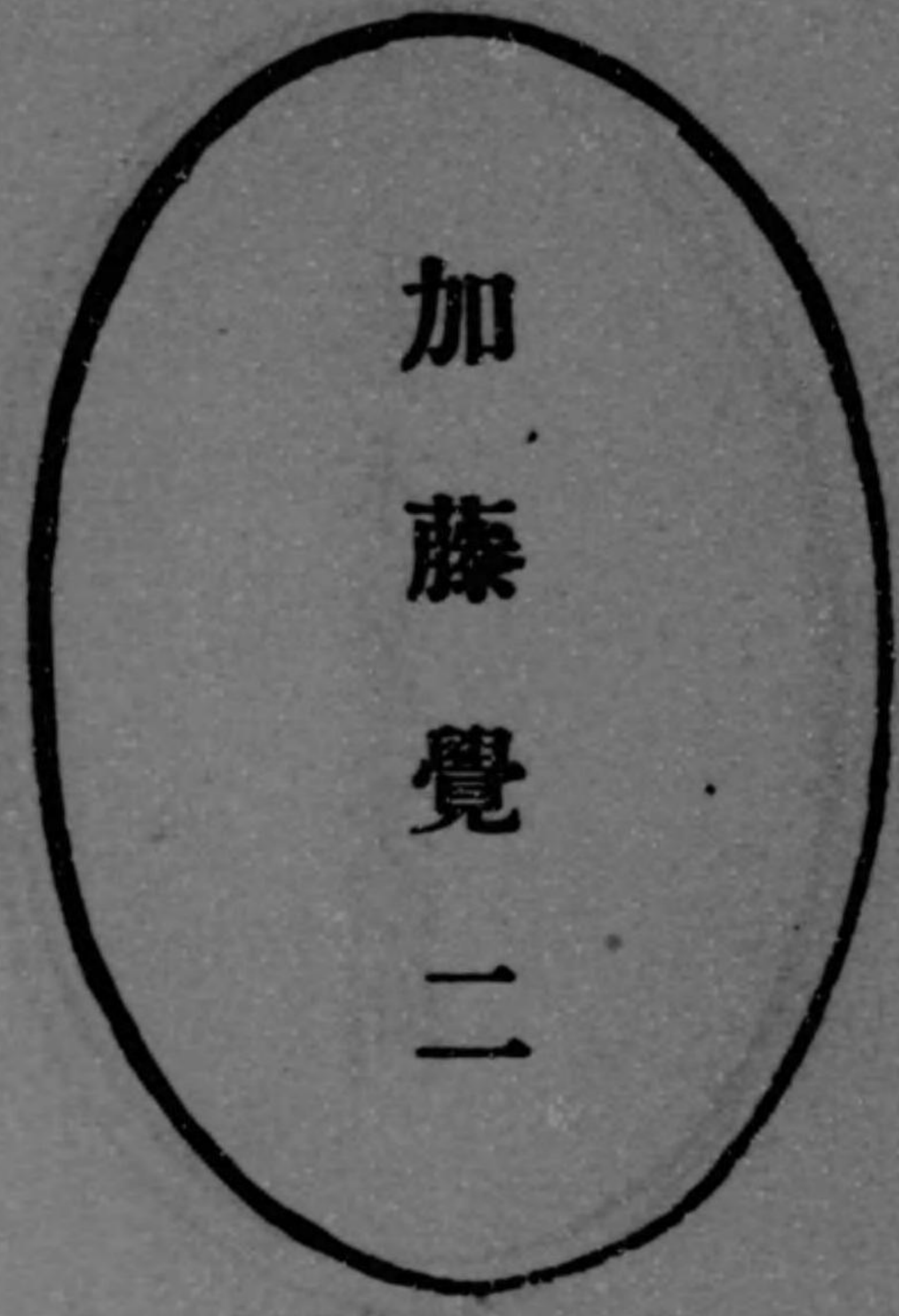
笠砂村長 加藤覺二氏

君は明治二十七年六月二十三日笠砂村に生る。久しく小學校長たりしが大正十四年五月同村々長に當選せり、君の信望や特に厚し、

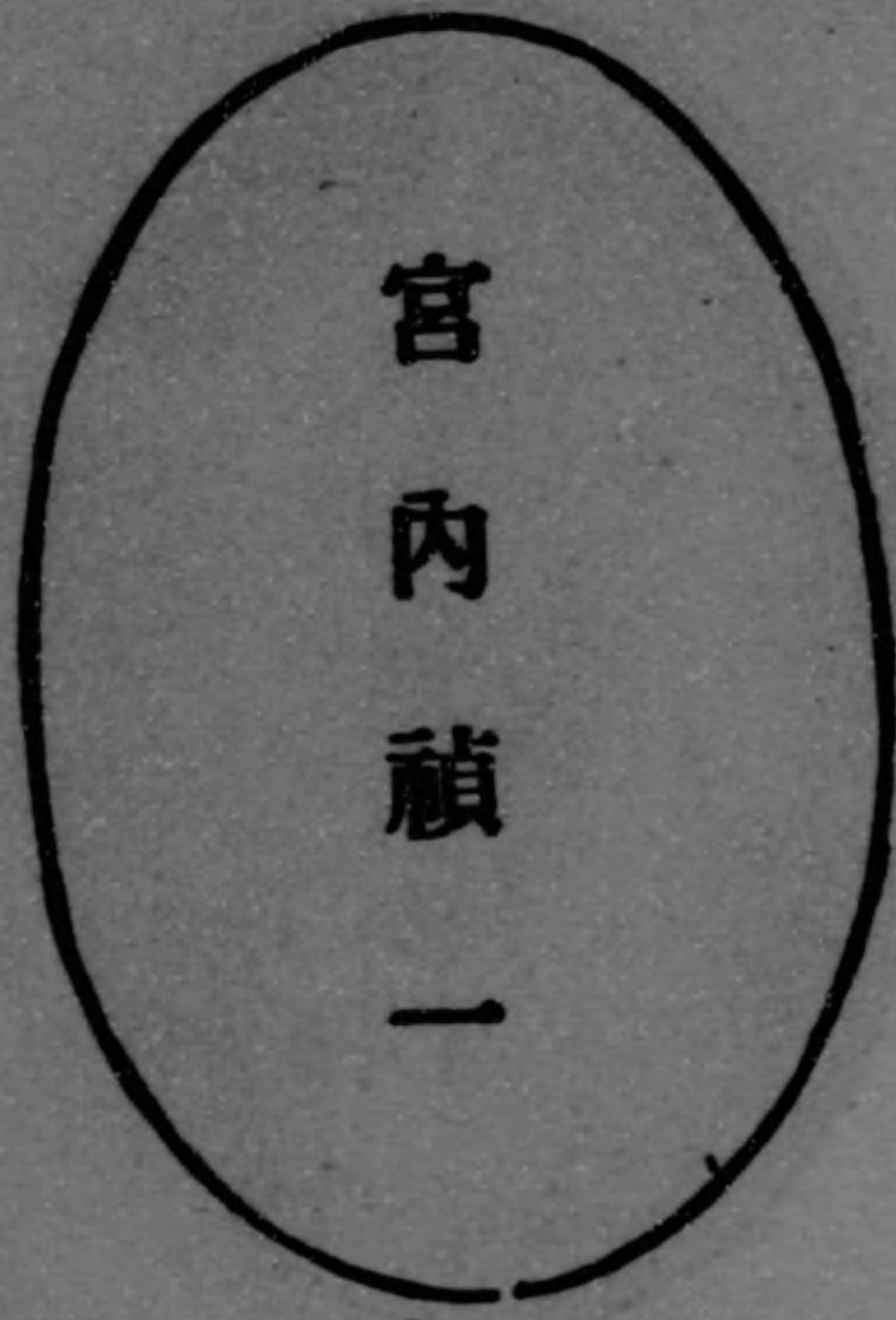
笠砂村助役 宮内禎一氏

君は明治七年二月十九日笠砂村に生れ、嘗て助役に擧げられし事あり、大正十五年三月再び助役に推薦せらる。

加藤覺二



宮内禎一



◎笠砂村





笠砂村 都外川為吉氏

君は明治六年六月六日を以て川邊郡笠砂村に生る、小學校を卒へて家業に勉むる所あり、君の勤勉實直なるは一般の認むる所となりて村の公共事業にたつさわるもの少なからず、大正十四年村會議員に當選し、よく村治の發展向上に勉めつゝあり。

笠砂村 大木金次郎氏

君は明治十四年四月十四日笠砂村大浦に生る、小學校卒業後専ら農業に従事す大正六年農事小組合長に推選さるゝや部落改善に努力し其の貢獻する處不尠、大正十三年笠砂村煙草賠償格査定に於て名譽旗を受け金貳拾圓を授與さる同年農産品評會に於て川邊郡より金拾圓を授與さる、大正十二年同村農會代議員に擧げられ現在引續き其の任にあり、大正十四年村會議員に當選せり。

大木金次郎

笠砂村 奥 新右衛門氏

君は明治二十一年二月十八日笠砂村大浦に生る、明治四十一年歩兵第四十五聯隊に入營、全四十二年滿期退營、大正五年大阪府巡査を拜命せしも家事の都合に依り辭職し大正八年五月歸郷後西加世田郵便局にて通信事務に従事し大正十一年二月通信手を拜命大正十三年三月六日退職後専ら實業に従事せしが大正十四年三月村會議員に當選せり、君には一男二女有り。

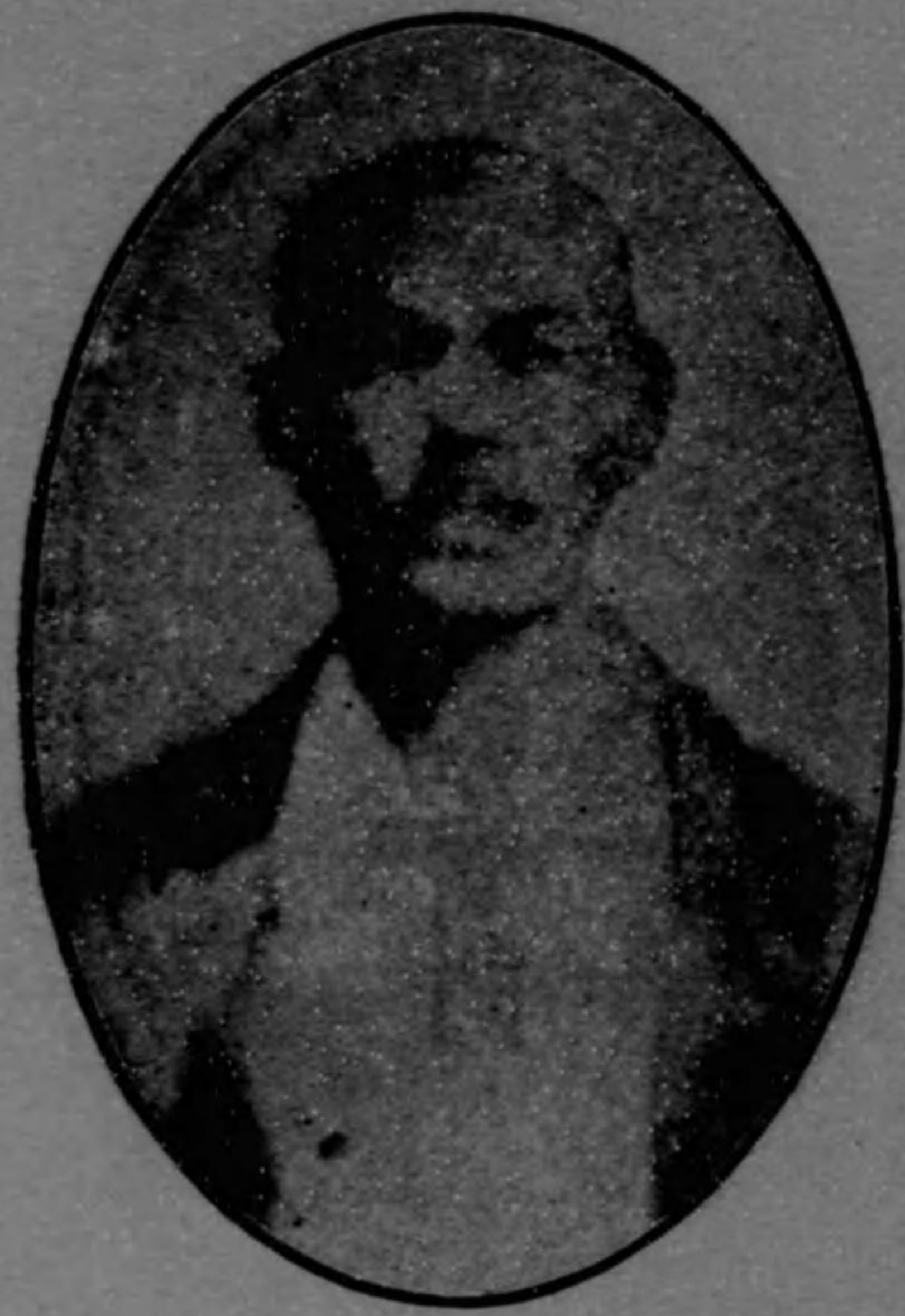
笠砂村 小田 與左衛門氏

君は明治五年五月生る、明治三十七年區長に擧げられ大正十年村會議員に當選以來今日に至る、尙ほ君は産業組合代議員評議員に當選大正十三年農商務統計調査員を命ぜられ後農會令改正に伴ひ農會議員に推さる其他衛生組長、區長等に擧げらるゝ事數回其間農事改良に努め農作物の品質向上を計り農商務大臣より表彰されし事數回君の農作物中米、麥、大豆等は各品評會にて入選表彰さるゝ事數回、君は温厚篤實の人として知らる。

奥 新右衛門

小田 與左衛門





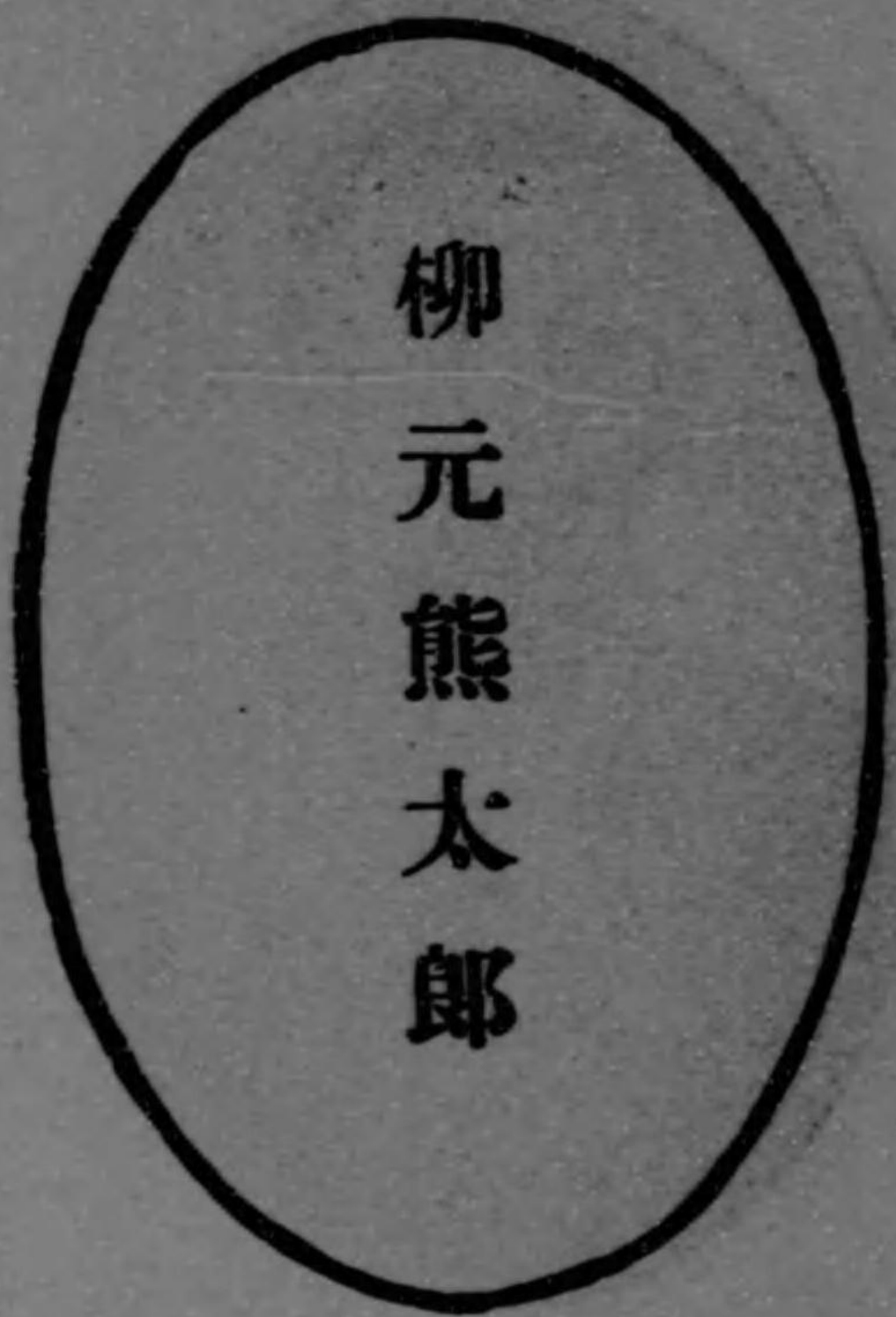
笠砂村 中尾正幹氏

君は元治元年六月十八日川邊郡笠砂村に生る、曾て小學校に教鞭を執りしが、のち陸軍教導團に入り曹長に進み除隊豫備役に編入さる、直ちに明治法律學校及び和佛法律學校に入り研究中偶々日清戰役起りしかば召集されて従軍、憲兵少尉に進級して臺灣に赴く、戰功に依り勳六等に叙せらる、明治三十二年郡會議員に擧げられて郡參事會員となりしが又た村農會長に推され、村會議員に當選し各方面に活躍中、明治三十七八年の日露戰役起るに及び召集されて従軍中憲兵中尉に進む、解隊歸郷後明治四十年再び村會議員に擧げられ、大正四年縣會議員に推選されて縣政に參畫する所あり、尙ほ村會議員としては屢次當選今尙ほ其の任に在りて村治に對する其の功勞多大にして没す可らず、又た君は一面に於て大島紬業の經營をなし幾多の工女を使役して其の產出高も又た多し、而して君は村の長老として村民の崇敬の的となる。

笠砂村 向江新次郎氏

君は明治十六年六月二十日川邊郡笠砂村に生る、小學校卒業後は専ら父祖の業を繼ぎ精勵し居たるが長して區長、青年會長、小組合長等に推され各方面に活躍するもの多く、大正十四年推されて村會議員となり村治に對して大に努力し居れり。

柳元熊太郎



笠砂村 柳元熊太郎氏

君は明治十九年十二月三日笠砂村大浦に生る、明治四十年青年會長に擧げられ明治四十三年十月耕地整理委員に推さる、大正六年來郡產馬組合代議員として引續き今日に至る、大正八年村臨時調査委員、同九年西加世田水電株式會社監査役に當選大正十年南薩醬油釀造株式會社常務取締役及び南薩銀行代理店主任、同十二年笠砂村學務委員に推され區會計、青年團顧問、笠砂村會計檢査役、笠砂村漁業組合總代たり大正十年村會議員當選以來引き續き今日に至る。

笠砂村 屋舖三太郎氏

君は明治二年二月廿四日川邊郡笠砂村に生る、幼にしてよく家事に勉め、のち衛生小組長、區長、小組合長等の任に在りしが大正十四年村會議員に當選爾來大に村治の爲め屬み居れり。





○笠砂村



笠砂村 前本美義氏

君は明治二十八年十二月二十五日笠砂村に生る、代々鍼灸を  
營ひ、君は小學校卒業後鹿兒島鍼灸學校に學び大正四年十月  
同校卒業歸省して鍼灸治療に従事せしが大正十二年模範青年  
として村長より表彰せらる、且つ青年會長として七ヶ年青  
年の指導啓發に盡し尙ほ部落小組長、區長代理其の他部落中  
樞として貢獻す、大正十四年三月村會議員に當選し公共事業  
には特に盡力しつゝあり。



笠砂村 益元才藏氏

君は明治二十年十月七日大浦に生る、軍籍は重砲兵補充兵、  
明治三十九年鹿兒島市丸岩株式會社社員として勤務し大正三  
年郷里に歸り吳服商を經營す君が試みる新らしき營業方針は  
直ちに店舗の隆昌を來すに至る、大正五年大浦區長代理に當  
選し大正九年に至るまで五ヶ年公共事業に貢獻し且つ部落の  
改善に努力せし事不尠、現在同志會長に擧げらる、大正十四  
年村會議員に當選村民の信望厚し。

笠砂村 青木美芳氏

君は明治四年八月五日笠砂村に生る、明治二十六年濟生學舎  
に入學在學二ヶ年、明治三十年大阪府巡查を拜命し在職三ヶ  
年にして退職明治三十四年鹿兒島專賣局棧務局に奉職するこ  
と五年、明治四十年川邊郡書記となり四年間にして退職大正  
三年歸郷し専ら家傳藥方名精神湯の製藥及び販賣に従事す然  
して該藥品は腦神經病及び血の道に効能著しく賣行き飛ぶか  
如くにして目下盛に製藥販賣しつゝあり、大正十年村會議員  
に當選、全十三年農會代議員並に評議員、養蠶代議員兼幹事  
に推され大正十四年村會議員に再選せらる。

笠砂村 宮路喜左衛門氏

君は明治九年九月二十日笠砂村に生る、明治三十六年十一月  
農事小組長に當選し且つ赤生木西區長として十年終始一貫  
良く區長の任務を果し金六十圓を賞賜さる又た煙草耕作組合  
よりは優良耕作者として賞與され國勢調査員、村賦課稅委員  
に擧げられ大正十年村會議員に當選大正十四年再選、笠砂村  
衛生組合副組長、赤生木共有財産管理委員に擧げられ尙ほ赤  
生木産業組合理事笠砂村農商務統計委員在任中にて良く村の  
ため貢獻す。

宮路喜左衛門

○笠砂村



◎笠砂村



笠砂村 宮内正司氏

君は明治十八年七月十日を以て川邊郡笠砂村に生る、優等の成績にて小學校を卒へたるが後ち推されて村内各般の事業に其の手腕を揮ふに至る、大正十四年村會議員の改選に際り多數を以て當選し村治の發展に對し大に努力し居れり。

笠砂村 宮内壯七氏



君は慶應三年二月十一日川邊郡笠砂村に生る、幼にして父祖の業に屬め居たるが君の萬事に精勵なるは一般の認むるところとなり全村に於ける各方面の事業にたつさわるもの多く能く其の成績を擧ぐ、大正十四年村會議員に當選し村治に對して多大の貢獻をなしつつあり。

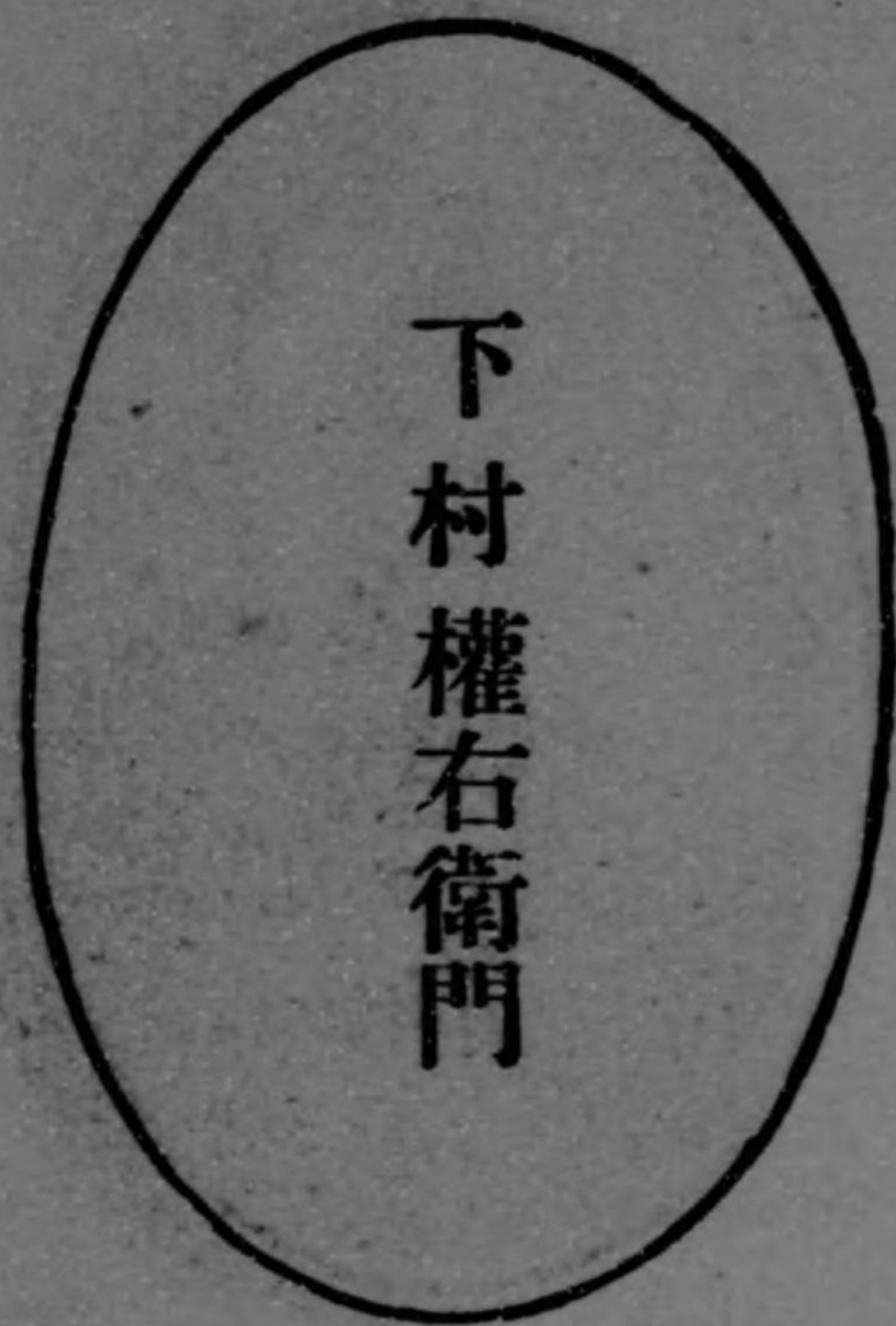


笠砂村 宮内吉兵衛氏

君は明治五年九月九日を以て川邊郡笠砂村に生る、小學校卒業後は祖先來の業務に屬精し居たるが長して青年會長、區長等に擧げられ能く其の任を果したるが大正十四年村會議員に擧げられ自治の爲めに努力しつつあり。

下村權右衛門

◎笠砂村



笠砂村 下村權右衛門氏

君は明治九年六月七日大浦に生る、明治三十五年より明治四十二年に至る八ヶ年農事小組合長に擧げられ農作物の品質の向上を計り、明治四十年同區煙草耕作小組合長に當選し今尙ほ引續き在任せしが十五年の間一日の如く着實に其の任務に従事す、明治四十三年區長としての功顯著なる故を以て村長より表彰され明治四十五年三月より行政代書、大正九年九月司法代書の許可を得代書業に従事しつゝ在り大正十四年村會議員に當選し貢獻する所少なからず且つ宗教の信仰厚く濟福寺の門徒總代をもなし居れり。



鹿島國治

西南方村長 鹿島國治氏  
君は明治十二年四月二十五日西南方村に生れ、久しく小學校長たりしが明治四十三年三月村長に當選以來五期を通じて現任し名村長として其の任にあり。

西南方村助役 小原屋親氏

君は明治二十年三月三十一日同村に生れ、小學校教員より村役場書記となり大正十一年八月助役に當選し、任期満了して再選され今日に及ぶ。

小原屋親

早水親芳

西南方村 早水親芳氏

君は明治十九年四月二十二日西南方村直次郎氏の二男に生れ明治三十九年度兒島第一中學校卒業のち師範學校二部に入りて明治四十四年卒業南種子島小學校訓導となり大正元年病氣の爲め辭任歸郷し郷里の青年會長となる、大正八年漁業組合創立と共に幹事となり又た區長となり大正十四年衛生組合長に擧げられ大正六年村會議員に當選し引續き今日に至り能く村政に努力す君は副業として熱心に蠶業を営み一般にも大に獎勵し居れり。

西南方村 折田万吉氏

君は明治三年九月八日西南方村善之助氏の長男に生れ農業を營み請負業をなす大正二年六月十日南亞米利加に渡り活動し大正九年六月十日歸朝、大正十年より青年會評議員となり龍岩寺建築委員に推さる大正十四年五月村會議員に當選し専ら村政に努力せり尙君は一男一女あり能く常に子女の教育に努む。





西南方村 大山定之助氏

君は明治十年一月十六日全村に生れ漁業を管ひ、明治二十九年熊本歩兵二十三聯隊に入營し明治三十二年滿期除隊明治三十七年日露戰役に召集され奮戦負傷して全三十八年除隊となる、歸郷后青年團長、在郷軍人會員に列す、君は深く佛教に歸依せるが明治三十八年淳厚寺總代となりて今尙ほ其任にあり大正八年漁業組合創立と共に幹事となり現任せり明治三十八年村會議員に當選以來引續當選し能く村政に努力すると共に事業に忠實たり。

西南方村 小田彌三郎氏



君は慶應三年六月三日西南方村に生れ明治十八年十一月十四日應請試験に及第し鹿兒島縣立師範學校卒業證を受く、全十九年一月坊泊小學校訓導に任じ久志、指宿、鶴丸其の他數校の訓導及び校長に歴任し大正三年九月退職し大正三年十月西南方村鯉漁業株式會社書記長となり全六年一月全會社取締役となる、大正四年郡水産組合代議員となり全七年村鯉漁業會社解散と共に川邊郡鯉漁業組合を創設し引續き其代議員となり大正五年二月全村坊泊鯉漁組合を創設して組合長となり大正六年五月西南方村會議員に當選し常務學務員出納検査委員

綿屋吉助

西南方村 綿屋吉助君

に擧げられ現在に至る、大正八年三月十五日川邊郡選舉區より推せられ鹿兒島縣水産組合代議員となり全十一年一月全組合評議員となり大正八年郡會議員となり參事會員に擧げらる大正八年十一月坊泊漁業組合創立委員常務理事となり大正十年七月坊泊製氷會社を創立し常務取締役として現任せり。

君は明治四年八月十日西南方村に生れ十六歳にして兩親を失ひ十八歳より反物商を開業し鯉漁業に従事し傍ら山林事業を經營す、のち區會議員淳厚寺世話役、全總代久志漁業組合總代に擧げられ大正十四年久志自動車組合理事となり青年及び婦人會贊助會員、報德會幹事となる大正十四年五月村會議員に當選し村政に努力す君は實着にして能く村民に信頼さる。



◎西南方村

蒲地善一郎

君は明治二十一年六月十八日西南方村に生れ運送業を營む、  
小學校卒業後博約義塾に學び明治四十一年熊本騎兵隊に入隊  
し十二月朝鮮守備として渡鮮明治四十四年滿期除隊となり坊  
泊青年會長、坊泊聯合青年會長、西南方消防組小頭、西南方  
在郷軍人副會長、全幹事に擧げられ現任日本武徳會支部委員  
坊泊鯉業株式會社會計、製水會社坊泊販賣主任、教育評議員  
龍岩寺建築委員、大正十四年國勢調査員等に推され今年五月  
村會議員に當選し専ら村政に努力し居れり君はまた模範在郷  
軍人として聯隊區司令官より賞状を受く。

西南方村 蒲地善一郎氏

西南方村 吉見平一郎氏

君は玄瑛氏の長男にして明治三年一月西南方村に生る、明治  
三十年東京濟生學舎を卒業同時に慈惠病院に醫術研究として  
入り、全二十三年鴨吹郡大崎村に於て醫術開業、全三十六年  
嚴父病氣の爲め歸村開業と共に父の跡をつぎて郵便局長とな  
り現在に至る、大正五年學務委員、大正十二年漁業組合を設  
立して理事となる明治四十年村會議員に當選以來引續き今日  
に至る君は此土地の舊家にして祖先は代々學舎を建て海軍學  
を一般に教導せりと長男彰氏は東京醫專學校在學中なり。

西南方村 田實源之助氏

君は明治十七年師範學校を卒業して小學校訓導となり校長と  
なりて二十有七年間教育界に努力せり、大正六年五月村會議  
員に當選し引續き現在に至る、尙ほ西南方村久志區八百戸に  
於ける總代會長として十數年に亘り其の發展に盡力する所あ  
り又た村農會總代兼評議員となる君は村の重鎮にして能く村  
政に盡瘁し村民の信頼厚し。

西南方村 竹内善吉氏

君は明治六年六月十日西南方村に生れ、農業の傍ら漁業を營  
みしも不漁の爲め失敗せしが終に志を抱き明治四十年三十四  
歳にして北米に渡り専心努力奮闘し財を得て大正十年歸郷し  
同時に區長となり青年會評議員となり龍岩寺建築委員に任し  
大正十四年五月村會議員に當選して現在に至る、君に二男二  
女あり長男は大正五年十六歳にして北米に渡り今尙活動中な  
り。

◎西南方村



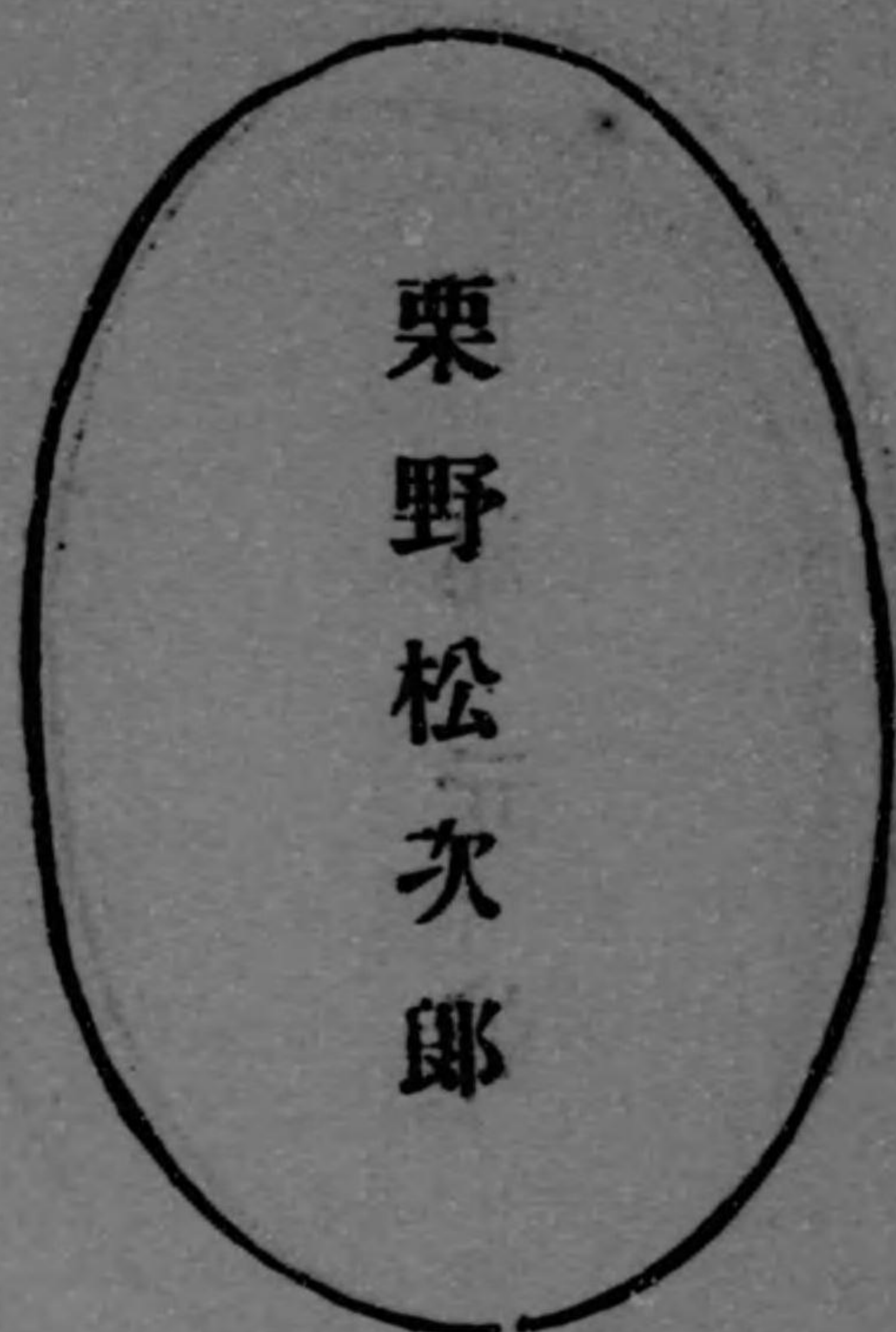




西南方村 中村源次郎氏

君は萬延元年六月六日西南方村に生る、代議士嘉壽氏の嚴父なり十九歳にして父を失ひ明治三十四年漁業に志し大島の宇檢港、西方村、西古見、實久方面にて漁船三隻を有し漁業を營ひ、明治三十七年令室の死去に接し子弟教育の爲め歸村す大島に於ては鯉漁業の開始者として知らる歸村と共に道路の不備なるを嘆き、東奔西走十年間を要し今日開通の目的を達するに至れり、大正三年東上日高氏と合同にて（鱒漁大敷網）を製して起業せしが容易に意の如くならざりしも同地漁業の發展したるは君の力に與かる所多し明治四十年川邊郡水産組合議員、大正八年鹿兒島縣水産組合代議員に當選し大正十一年解散と共に其の任を解かる、大正十一年郡水産會議員となり大正十四年より同副會長となる、大正八年久志漁業組合創立と共に理事及び組合長となる明治十九年より村會議員に當選せしが明治三十四年より明治三十六年迄大島漁場研究の爲め出張不在中辭したるのみにて今日に至るまで尙ほ議員として努力す、君に五男、二女あり長男嘉壽氏は代議士、二男は父の志をつぎ四男は貿易商を營み五男嘉藏氏は米國に於て醫學研究中たり。

栗野松次郎

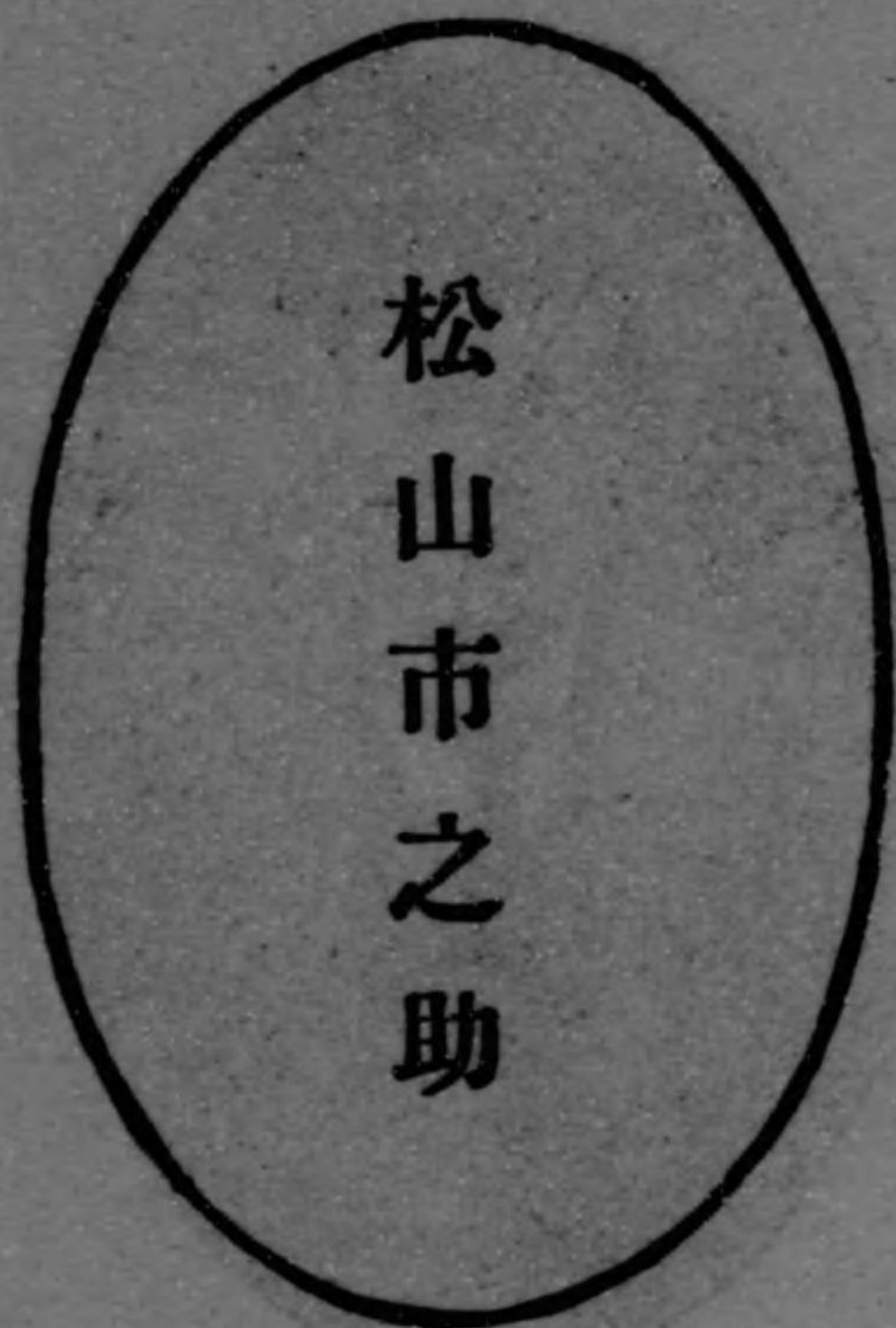


西南方村 栗野松次郎氏

君は明治十年十二月十日西南方村に生れ、父祖の業を繼ぎて農業を營み、大正十年五月村會議員に當選引きつゝ、再選して村政に努力する所あり尙ほ龍岩寺世話役、全寺建築費寄附募集委員に任せり、君は温良にして部落民の信頼厚し。

西南方村 松山市之助氏

松山市之助



君は明治十四年四月十五日西南方村に生れ、明治十三年より大正十年迄小組合長に任じ大正七年より大正十一年迄産業組合理事大正九年第一回國勢調査員、大正六年區長となり大正十一年農會議員に選ばれ大正十年五月村會議員に當選し大正十四年五月再選専ら村の自治に努力す君は農業を營むと共に土木請負業を營めり。





西南方村 安達 袈裟助氏

君は明治五年三月八日西南方村に生れ、鯉製造業を営み明治四十三年坊泊鯉飾株式會社を創立して支配人となる後社長に任ぜしめ大正十一年都合に依り全社は解散して個人經營に移したるが君は發動船を購入して専ら漁業に従事せり現に製造販賣に努力す大正四年鹿兒島縣節鰯水産組合より囑托され高知縣鯉飾製造視察をなし大正十二年より郡水産議員となり大正十四年五月村會議員に當選今日に至る、君は性格剛健にして實着の人たり。

西南方村 貴島 元就氏

君は西南方村會議員たりし貴島泰介氏の長男にして明治十四年二月十九日に生る、鹿兒島中學校卒業後東京育文館に學び明治三十三年卒業し今三十六年小學校訓導兼青年會長となりしが全四十二年辭し大正七年區長に推され、全十一年辭し村農會副會長となる、大正六年村會議員に當選し引續き現在に至る能く村の爲努力し居れり。

貴島 元就

西南方村 清川 與四郎氏

君は安政六年六月三日西南方村に生れ、父祖の業を繼ぎて農業を營ひ、青年會長、衛生組合長に擧げられ明治二十年より全四十年に亘り能く其任に就き盡力せり、全三十七年區長、小組合長に推され、大正七年産業組合を設立し同時に其幹事となり大正十一年辭任同時に相談役となり現在に至る大正二年村會議員に擧げられ引續き當選し能く自治政に努力し村民の信用厚し。

清川 與四郎



今給黎誠吾

枕崎町長 今給黎誠吾氏

君は明治九年五月三十日生れにして、小學校に教鞭を執ること久しく明治四十三年三月村長に當選し以來五期を通じて現任し村治に貢献せし處不尠内外の信望特に厚し。

枕崎町助役 高城彌市氏

君は明治二年七月五日枕崎町に生る、明治二十二年歩兵二十三聯隊に入營同二十三年歩兵上等兵に昇進、同二十八年一等軍曹に昇進す、同十二月日清戦役の功に依り金四十圓下賜さる、同二十九年大阪府巡查拜命、同三十八年一月日露戦役に從軍し同三十九年四月一日勳七等青色桐葉章を下賜さる明治四十三年東南方村役場書記を勤め大正六年六月同町助役に擧げらる、其の職務に忠實なる能く町民の信望を得るに至れり

高城彌市

枕崎町 園田兵助氏

君は元治元年四月枕崎町に生る、小學校に教鞭を執りしが辭して兵庫縣の警察界に入り、更に獸醫たらんとの希望を抱き明治十九年開業試験に合格直ちに開業せり、然るに君は養豚業の不振を慨するもの久しく奮然起ちて其の隆昌を圖らんとして全町に養豚組合を起し組長となりて大に之を奨励せしかば其の効果忽ち顯れ本縣知事は其の功績を表影せり、明治三十八年郡會議員に當選以來引き續き當選大正八年に至るまで郡政に參書せり、其の間村會議員、畜産組合支所長、産業組合長となりて村の公共事業に盡瘁せしもの數ふに遑なく、尙ほ現町會議員として自治の發展に努力しつゝあり。

枕崎町 山之内 愛之助氏

君は明治十九年十二月十六日枕崎町に生る、村會議員に當選さる、事數回現今町會議員にして好く町政に努力す、性温厚の士にして町民の信望厚し。

山之内 愛之助



○枕崎町

下窪四郎助

枕崎町 下窪四郎助氏

君は明治二年十月枕崎町に生る、明治三十九年鹿兒島縣耕地整理監督員に擧げられ同四十一年に至る、其の間鴨峯郡及び加世田、大浦其他に勤務し、大正四年村會議員に當選せり、同十四年町會議員に當選好く町政に貢献せり多年の間區長を勤め農作物の向上を計る温厚の士なり。

佐多精一

知覽村長 佐多精一氏

君は明治元年二月十日生れにして小學校長たる事久しかりしが、大正十二年九月村長に當選し、一意村政向上に努めつゝあり。

江平重

知覽村助役 江平重氏

君は明治十八年四月二日同村に生る、稅務屬となりて各稅務署に勤務し、大正十二年七月助役に推薦されよく村長を補佐して村治に盡しつゝあり。

○知覽村



◎知覽村

田中軍治

知覽村 田中軍治氏

君は明治二十八年三月二十五日元助氏の長男に生る、明治四十三年知覽工業學校を卒業し大正九年東京明治大學法科專門部入學、大正四年警視廳巡查拜命、請願巡查勤務、大正十二年退職歸郷、大正十四年村會議員に當選し好く村政に努力せり。

知覽村 浮邊覺助氏

君は明治十一年六月二日知覽村に生る、明治三十一年第四十五聯隊に入營、明治三十七年日露戰役に出征し戰功に依り勳七等青色桐葉章及び一時金貳百六拾圓を下賜さる其の間明治三十三年鹿兒島縣巡查拜命、明治四十年知覽村役場に奉職、退職後産業組合理事、大正十二年十二月浮邊郵便局創立に際し局長に就任現在に至る、大正十四年村會議員に當選す、君の長男は鹿兒島商業學校在學中

浮邊覺助

知覽村 上野藤右門氏

君は明治七年一月二十九日知覽村東別府に生る、明治三十年大阪府巡查拜命、明治三十二年京都府に轉任、同三十八年巡查部長に昇進し同四十二年職を辭し歸郷、同時に村會議員に當選、大正二年東別府區長に擧げられて同六年に至る、同九年浮邊産業組合常務理事に推され目下引續き其の職に在りて産業の發展に努力しつゝ在り大正十四年村會議員に再選す、君には一男三女在り長男文夫氏は目下鹿兒島第一師範學校在學中、長女は知覽實科女學校卒業

知覽村 安田嘉一郎氏

君は明治十二年十一月十九日知覽村塩屋に生る、目下航海業を營み貨物の集散に對して遺憾なく努力し居れるが一方に於ては知覽村の漁業組合監事として全事業に多大の力を致しつゝあり、大正十四年村會議員に擧げられ、全十五年五月全村塩屋區會議員に推選せられて大に公共事業に精進し居れり。

◎知覽村





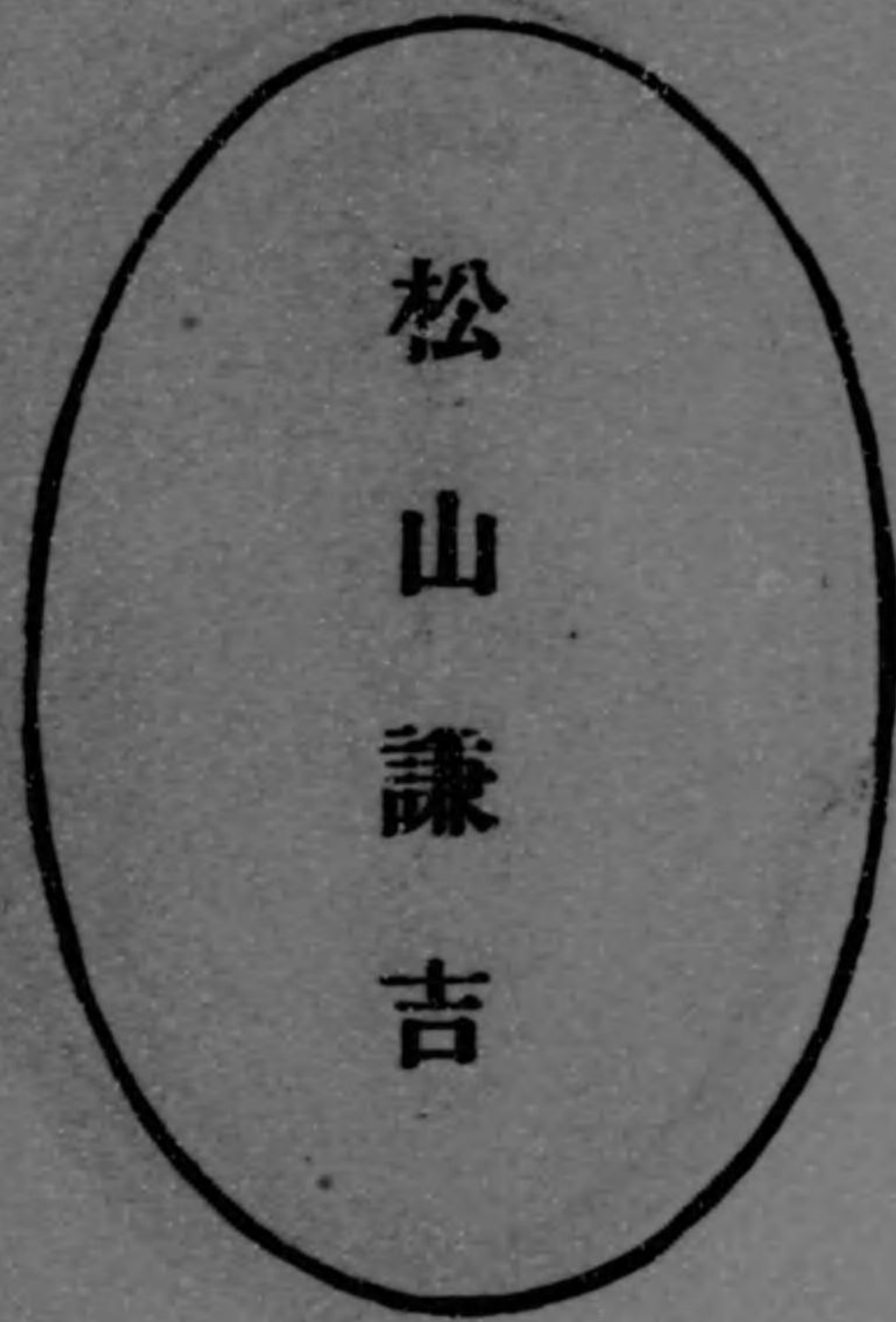
◎知覽村



知覽村 丸野常右衛門氏

君は明治五年六月知覽村郡に生る、明治二十五年熊本輜重兵第六大隊に入營、明治二十七年日清戦役に出征し戦功に依り勳八等を賜ふ、同三十七年日露戦役に出征し戦功に依り勳七等青色桐葉章と一時金四百圓を下賜さる、同四十二年退役し歸郷後村役場書記となり大正十三年其の職を辞す、大正十四年村會議員に當選し同村信用組合評議員に擧げられ村政に貢獻せる處少からず君には六男三女あり、長男は鹿兒島第一師範、二男は川邊中學校、三男は知覽村立工業學校に在學中なり。

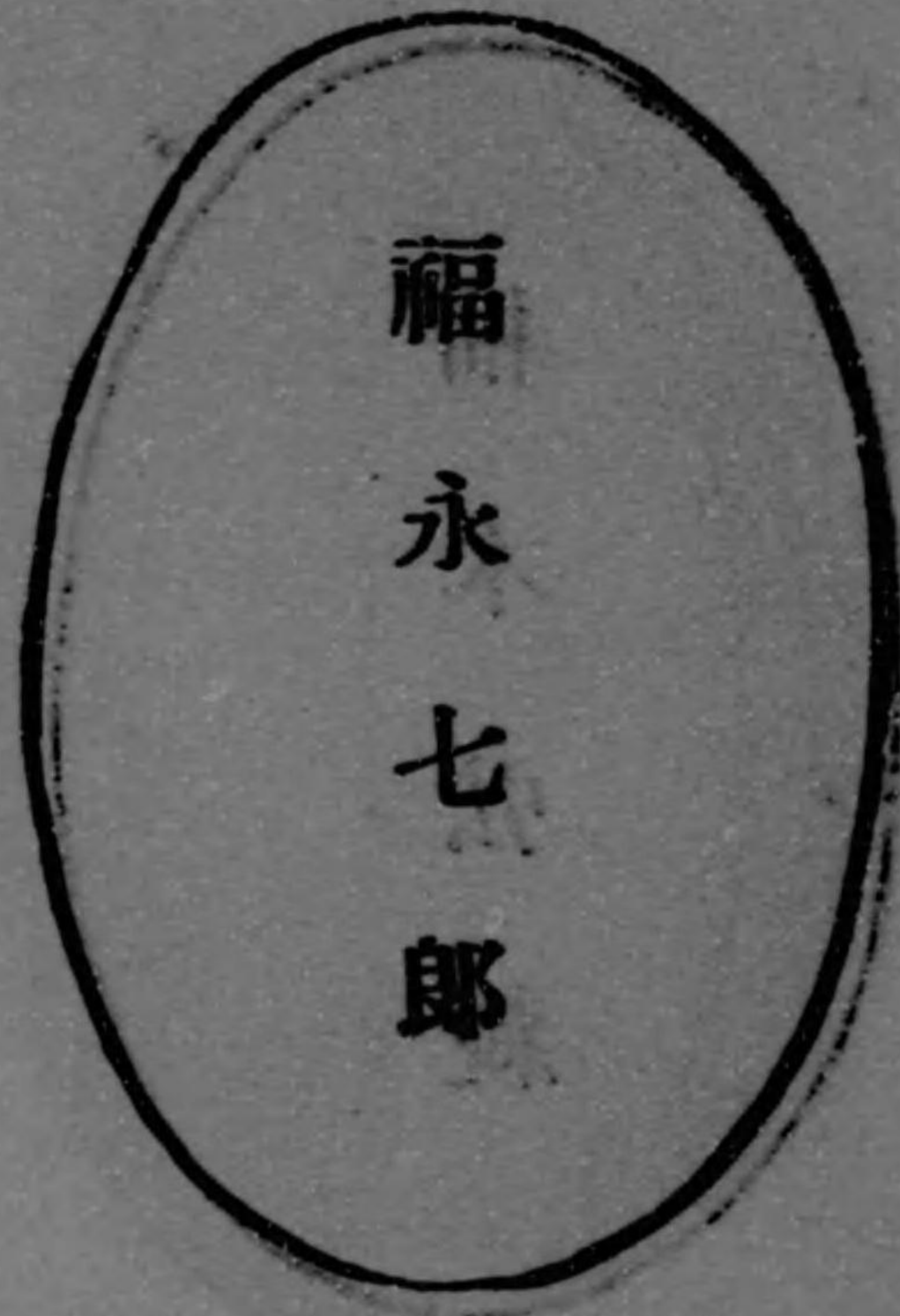
知覽村 松山謙吉氏



松山謙吉

君は慶應三年一月知覽村植屋に生る、明治二十八年村會議員に當選引續き現在に至るまで村の自治に努力せり、尙ほ君は信用組合創立に際して多大の功勞ありて其の常務理事に擧げられ、大に其の發展に努力しつゝあり、尙ほ國勢調査員に推さるゝ等君が公共其の他に盡す所多し、君は温厚篤實にして養蠶業を盛大に營めり。

福永七郎



知覽村 福永七郎氏

君は慶應二年二月厚地に生る、明治三十二年同區農事小組合長に擧げられ同時に區長に推さる、同三十七年より米穀検査員をも勤めること八ヶ年好く其の任務を全ふす、明治三十年より區會議員に擧げられ大正十年四月村會議員に當選大正十四年再選し厚地區農作物の向上を計り村政に貢獻せる處少からず、君には三男三女在り長男及二男の兩名は共に南米アルゼンチンに於て實業に従事し三男は八幡製鐵所鐵道機關士として在職中なり。

知覽村 佐多正藏氏



◎知覽村

君は明治二十五年十月十日知覽村に生る、東京醫學專門學校第一回卒業生にして卒業後研究を重ねること多年大正十一年歸村開業、小兒科を初め接骨科外一般治療に従事す。大正十四年第四十五聯隊に入營す、大正十四年村會議員に當選す、令兄泰二氏は南洋に於て實業界に活動しつゝあり。



◎知覽村

菊永助左衛門

君は明治四年十二月八日知覽村埴屋に生る、幼時より商業に従事す明治三十年同村に於て藥種品並に銃砲店を開業大正十四年村會議員に當選村政に盡力する處少からず、君の長男政彦氏は長崎醫專藥學科卒業後縣衛生技手拜命次男重彦氏は川邊中學校在學中なり。

知覽村 菊永助左衛門氏

知覽村 柚木弘親氏

君は明治十三年十月知覽村に生る、明治三十五年鹿兒島師範學校卒業勝目小學校坊泊小學校訓導を経て川邊尋常高等小學校、永谷尋常高等小學校長を拜命、大正九年退職、全年産南肥料株式會社事務取締役となり、大正十二年八月知覽村箱出郵便局長拜命、大正十二年農會令改正に伴ひ農會總代に擧げらる、目下産南肥料株式會社取締役たり大正十四年村會議員に當選せり。

柚木弘親

知覽村 宮原友記氏

君は萬延元年三月十二日を以て知覽村に生る、明治二十七年三月知覽村役場書記となり、全二十九年一月收入役に擧げられ、全三十二年十月助役に推薦せられて村長を補佐し村治に精勵し居たるが大正四年九月全村長に推擧され全十二年九月に至るまで二期に亘りて村政に努力したり、斯くの如く明治二十七年以來大正十二年に至る多年の間能く其の任務に精進したる君は温厚にして着實なるが村民の信頼殊に厚く大正十四年村會議員の改選に際り多數にて當選したり。

◎知覽村



○川邊町

勝目泰雄

川邊町長 勝目泰雄氏

君は明治六年十二月二十九日同町に生れ、小學校長たる事久しくその教育界に貢献せし處不尠、奏任官待遇となる後詳して、大正十二年五月三十日同町々長に當選一意町政の向上を計りつゝあり。

川邊町助役 池田矢五郎氏

君は明治三年四月八日生れにして村役場書記たりしが、大正九年十一月助役に推薦され、任期満了に際し再び推されて現任よく町長を補佐して町政に盡す處不尠。

池田矢五郎

川邊町 池崎森太郎氏

君は明治十五年十一月十八日川邊町伊脇家の二男に生る、明治三十六年一月池崎家の養子として入籍明治三十七年熊本野砲兵隊に第二補充兵として召集せられ在營十ヶ月にして退營戰事功勞金として金參拾五圓を賜る、明治四十四年川邊村役場に稅務書記として入り大正四年四月家事の都合にて辭任大正五年煙草耕作小組合長に擧げられしも家事の都合上之れを辭し大正十四年川邊町會議員に當選し町政に貢献せる所尠からず、君に二男有り長男は川邊中學四年生在學中君は町内の豪農として知られ社會事業等には惜む所なく出資せり。

川邊町 春田勇吉氏

君は明治四年五月川邊郡川邊町に生る、川邊村長として村政に努力すること多年、後郡會議員に擧げられ、次いで縣會議員に當選、其郡縣政に參畫するもの茲に年あり、大正五年煙草耕作組合評議員に擧げられ、全七年地方森林會員に任ぜられて共に今日に至る、大正十一年村の教育會にては君が教育界に貢献せる功績を表彰する所あり、大正十四年農會令改正に依り農會總代其の年四月農會評議員となる、村會議員としては多年其の任にあるが大正十四年町會議員の改選に際し多數にて當選せり、君は又た薩南水電會社の取締役に任じ居れり。

春田勇吉

○川邊町



○川邊町

川邊町 中禮權兵衛氏

君は明治二十一年十一月二十五日川邊町に生る、明治四十五年より大正三年に至る間區長に擧げらる、而して村會議員に當選すること二回、目下町會議員たり、大正十一年薩南肥料株式會社專務取締役就任、現在に至る尙ほ町學務委員及び町農會評議員として町政に貢献す川邊町産業組合幹事たり、君は農業の傍ら精米業をも營む。

川邊町 大坪仁藏氏

君は明治十年八月十六日全町に生れ、高等小學校卒業後明治三十年全村役場書記に任せられしも全三十一年家事の都合に依り辭し明治三十二年代書業をなす、區長に擧げらるゝと數次、大正九年司法代書人營業認可を得、大正十年四月村會議員に當選又た國勢調査員にも推さる、全十四年町會議員に再選し現在町自治の爲盡力しつゝあり君は温厚にして着實町民の信望厚し。

大坪仁藏

川邊町 岡野袈裟吉氏

君は明治六年十二月一日平山に生る、大正二年より四ヶ年所得稅調査員に擧げられ町會議員に當選せる事前後參回にして現在營業稅調査員たり、愛國生命保險會社代理店、東京火災保險會社代理店をなし且つ内國通運株式會社の取締役を勤め温厚篤實を以て知らる尙ほ宗教の念厚く公德寺門徒總代に選ばる、君の令息開道氏は鹿兒島縣立病院に藥劑師として在職中。

川邊町 蘭田善助氏

君は明治四年五月十五日川邊町に生る、明治二十五年以來明治四十年迄代書業を營み其の後區長に擧げられ、明治四十一年四月以來大正十四年參月迄川邊町役場書記として奉職し、大正十四年町會議員に當選町政に貢献せること紛からず君は温厚篤實の人として知らる。

岡野袈裟吉

蘭田善助

○川邊町



◎川邊町

長井正太郎

川邊町 長井正太郎氏

君は明治八年一月川邊町に生る、英和義塾卒業後慈恵醫專に入學し同校卒業後醫科大學にて一ケ年、外科専門病院其他にて研究する事數年明治三十四年川邊町平山に開業斯界に於ける信用最も厚く郡内有數の醫院として知らる、明治三十九年日露戰役の際三等軍醫として從軍二等軍醫に昇進、從七位勳六等に叙せらる、同四十三年郡會議員に當選し郡參事會員となる、薩南肥料株式會社は君の創立せしものなるも當初は經營困難なりしが君の手腕にて今日の盛況を呈するに到りたり君は其の社長にして尙ほ萬之瀬水力電氣株式會社取締役たり大正十四年町會議員に當選せり君の令弟實養氏は軍艦吾妻艦長として奉職中。

中山直助

川邊町 中山直助氏

君は明治八年十二月川邊町神殿に生る、明治二十七年以來川邊尋常高等小學校、田代尋常小學校、高田尋常小學校、瀬戸山尋常小學校等にて教鞭を取りしが到る處の學童よりは慈父の如く敬慕されしも家事の都合にて大正九年退職、大正十四年町會議員に當選し町政に儘力せるところ多し。

柳 權太郎

川邊町 柳 權太郎氏

君は明治四年川邊町本別府に生る、明治四十一年同區長に擧げられ引續き四回推選、農事小組合長として十ケ年其の任にありて農作物の品質向上に努力す、大正七年同組合長を辭す其の間大正三年青年團長、大正十三年川邊町産業組合理事に推され尙ほ川邊町立製糸組合評定員に擧げらる、前記組合長時代に前後四回農會より表彰さる目下町會議員として中樞の士なり、君には三男一女あり長男善吉氏は鹿兒島商船水産學校卒業後神戸大陽汽船株式會社庶務課在職中。

川邊町 牧角最治氏

君は明治十二年十一月二十五日川邊町高田に生る、明治三十三年一月愛知縣立醫學專門學校豫科に入學し明治三十九年六月卒業眼科醫を開業せしも更に東京帝國大學眼科專科に入り研究する事一ケ年間大學眼科教室介補に任ぜられ在職中眼科醫學論文を提出して愛知醫學士の稱號を授けらる、歸村の上再び眼科醫を開業せり大正六年郡會議員となり郡參事會員に選ばる、縣醫師會代議員に擧げられし事一再ならず全十四年町會議員に當選せり、君の長男長女は中學校、高等女學校在學中にて令兄新次郎氏は知覺にて醫院開業中。

◎川邊町



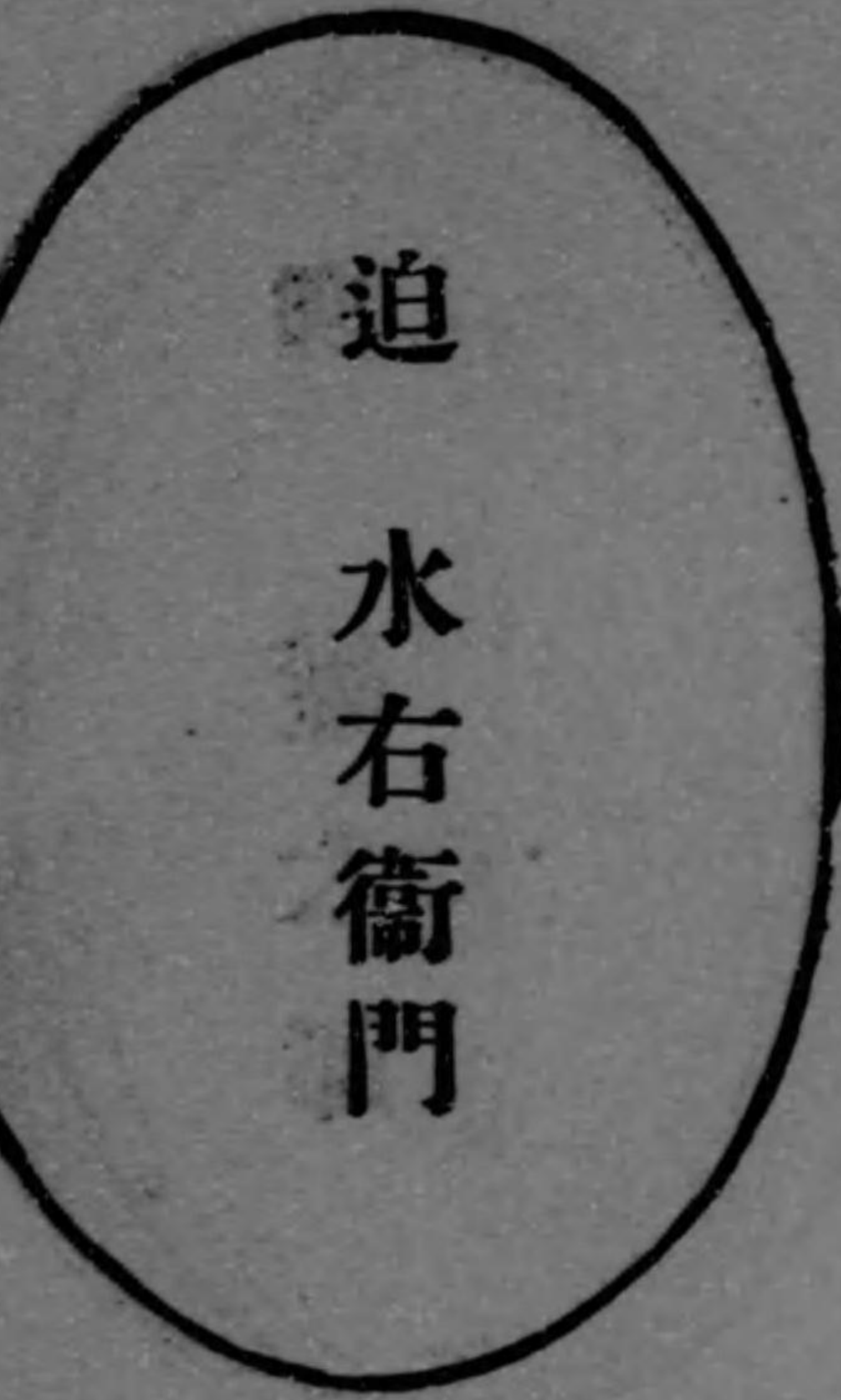




川邊町 牧角市太郎氏

君は明治六年一月五日川邊町高田に生る、小學校を卒業して直ちに農業に従事したるが、君の勤勉なることは一般の大に認むる所となり村民の敬慕を受く、大正十四年町會議員の改選に當り推されて町會議員となり自治の爲め多大の力を致しつゝあり、尙ほ君は普通農事の傍盛んに製茶業を管みつゝあり。

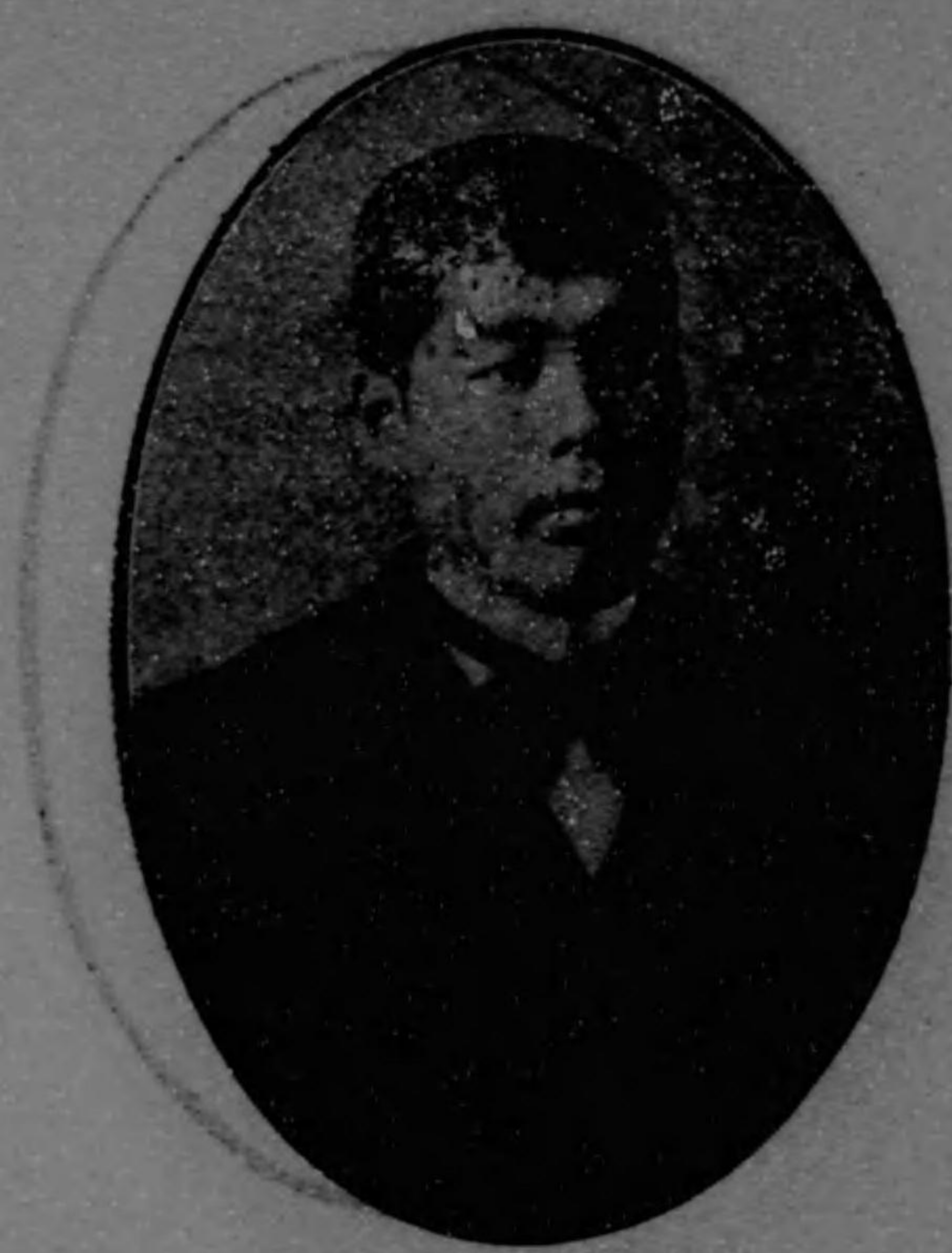
川邊町 迫水右衛門氏



迫水右衛門

君は明治十四年二月十日川邊町本別府に生る、大正四年四月青年會贊助員に推され全時に區長に擧げらる、大正八年本別府有志相談役大正十一年再度區長に擧げられ翌年四月之れを辭す、全年町制實施せらるゝや多大の努力を惜まず、大正十四年町會議員に當選せり、君は子福者にして六男一女有り長男政義氏は知覽工業學校卒業後横須賀海軍建築部在職中次男は目下商業從事中。

川邊町 峰元政太郎氏



君は明治十二年二月十日川邊町宮に生る、明治三十二年海軍志願兵として佐世保海兵團に入團、明治三十三年北清事變に従軍明治三十七八年日露戰役には軍艦敷島に乗組みて奮戰功に依り勳八等白色桐葉章と金貳百圓を授けらる、明治四十四年以來農事小組合長、青年會長、區長、産業組合信用評定員を經現町會議員、區委員、衛生組合役員、煙草組合議員として各方面に活動しつゝあり。

川邊町 東市之助氏



君は明治三年六月五日川邊町に生る、明治三十年同町瑞寶寺門徒總代に擧げられ、宗教方面に努力する所多く同寺改築の際に寢食を忘れて努力せり、大正十四年町會議員に當選し町の開發に盡力しつゝあり君の長男實義氏は川邊中學校卒業後東京慈惠醫學專門大學に入學大正九年優等にて卒業同大學婦人科部長に囑託せらるゝこと二年六ヶ月に及び家事の都合にて其職を辭し歸郷後自宅にて醫術開業せり。



○勝目村

鮫坂尙司

勝目村長 鮫坂尙司氏  
君は明治三年九月十日生れにして久しく小學校長として教育界に在りしが、大正八年三月二十九日村長に當選し引き續き二期を務めて現任せり。

勝目村助役 椎原六矢氏

君は明治十年三月十二日同村に生れ、小學校訓導たりしが辭して家業に従事し學務委員に擧げられ、大正八年五月助役に推薦せられ二期を通して現任村治に努めつゝあり。

椎原六矢

勝目村 羽牟仲太郎氏

君は慶應元年四月五日勝目村に生る、明治三十七年報効農事小組合創立當時より組合長として其の任にあり農作物の品質向上に盡力すること二十ヶ年、村より表彰せらるゝもの數回目下産業組合理事に擧げらる村會議員に當選すること三回大正十四年の改選にも芽出たく當選せり。

勝目村 二反田咳助氏

君は明治十五年六月勝目村下山田に生る、大正六年同村米商組合副組長兼川邊郡代議員に擧げられ又報効農事小組合長に推さる、大正六年村會議員に當選、同十三年村米商同業組合組合長に擧げられ、同十四年再び村會議員に當選自治の爲めに努力しつゝあり尙ほ君は下山田青年團長に推され、川邊米商同業組合代議員として其の方面に對しても大に盡瘁し居れり。

仁反田咳助

○勝目村





◎勝目村



勝目村 川野 次氏

君は明治三年七月勝目村に生る、明治二十三年以來三年間勝目小學校に教鞭を取り、辭職後上京攻玉舎に入り、明治二十九年臺灣にて新聞事業に従事、明治三十一年臺灣總督府新竹縣警察部奉職警部に昇進辭職、臺北廳土木課技手拜命、大正十一年九月退職、同十二年八月東京市東洋道路株式會社に入社せし、關東震災のため同社解散して退職後歸郷し目下實業に従事中なり、大正十四年村會議員に當選し村政に貢献する處少からず、尙ほ君の令兄正巳氏は臺灣總督府警視退職後某會社重役たり。

勝目村 吉永助太郎氏



君は慶應元年九月勝目村下山田に生る、専ら農業に従事せり、明治四十四年農事小組合長、大正元年區長、同時に青年會長、大正七年勝目村信用販賣購買組合理事に推され、尙ほ全年少年團長に擧げらる、大正元年以來同十三年迄區長を勤めしかば永續者として村より錫壺壹個茶器壹組の紀念品を賜らる、大正十四年村會議員に當選せり。

勝目村 吉嶺 惠宗氏



君は嘉永六年三月勝目村に生る、慶應三年戊辰の役には十六歳にして從軍し長岡表に出軍を命ぜらる、明治元年八月歸郷後教育事業に従事し、明治二十三年縣下川邊郡勝目村長に推されて十二ヶ年間在職し、明治二十八年鹿兒島縣會議員に當選、三十一年再選又た郡會議員に當選、大正十四年村會議員に當選せしが専ら蠶業に盡力せるが、黒松蠶種製造所と提携せり、尙ほ君は老後の樂として狩獵を試み、君の長男力氏は川邊中學卒業後渡米し目下ロスアンゼルス市に在りて實業に従事し、二男柏氏は朝鮮の會寧郡庶務課長なり。

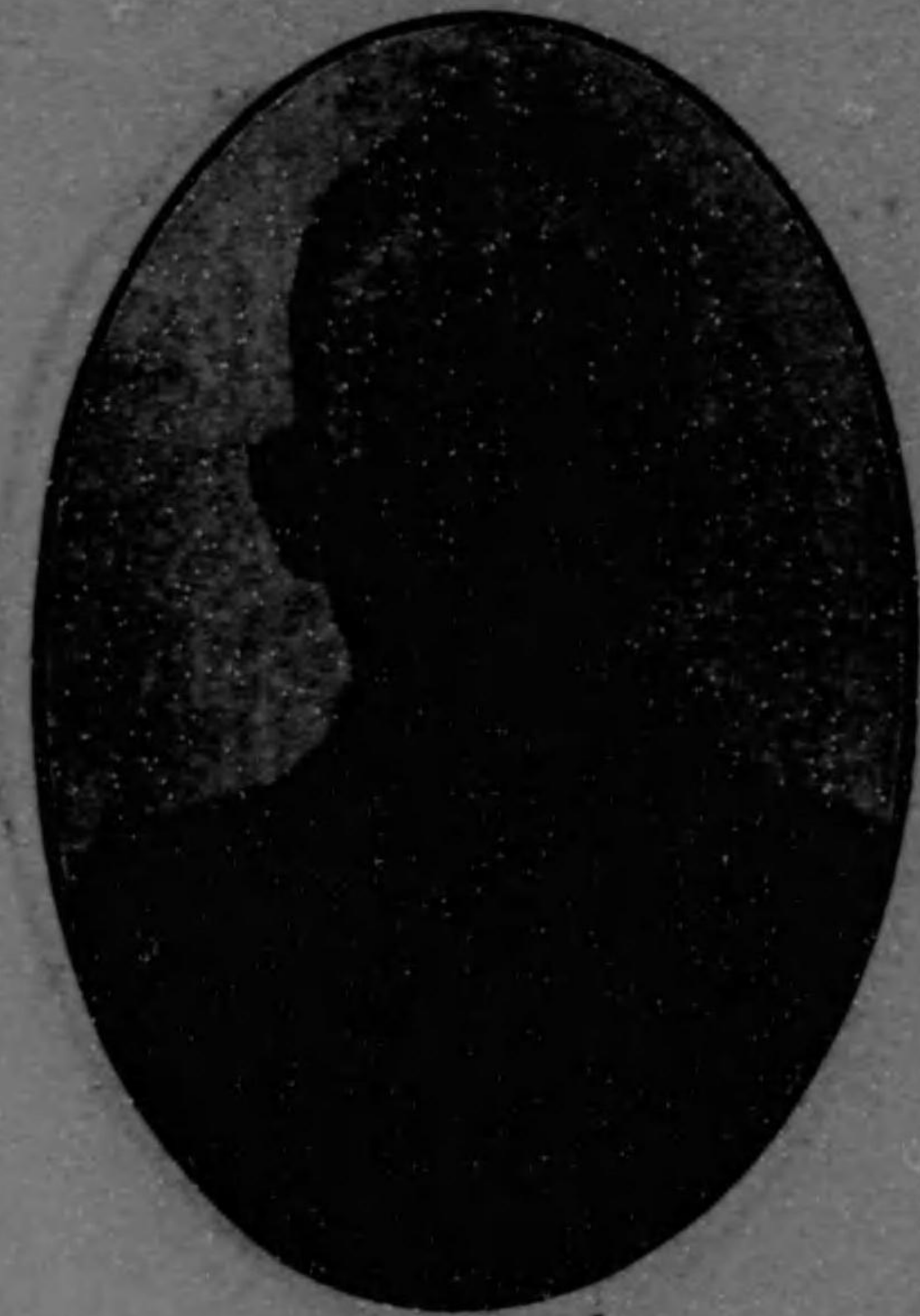
勝目村 上野親慶氏

君は明治二十七年八月二十五日小川路に生る、建築業を営み奮闘家として知られ、大正八年小川路區長代理に擧げられ、四ヶ年、同十一年青年學舍長、尙ほ同年より同十四年三月迄村農事小組合長に推さる、大正十四年村會議員に當選し、少壯議員として將來を期待さる。

上野親慶

◎勝目村





勝目村 黒松傳吉氏

君は慶應元年三月二十八日勝目村に生る、廿六歳にして村會議員となり今日に至る明治三十九年勝目村農會長就任、全四十年十月川邊郡會議員に當選、全四十四年十月再選郡參事會議員に選ばれる、大正四年更に郡會議員に當選、大正八年縣會議員となりて二期繼續當選地方都市計畫調査委員に選ばれる、君は蠶種製造所を設立す、大正十二年郡養蠶組合長となり縣是蠶種同業組合顧問たり、尙ほ南薩銀行取締役として經濟界にも活躍せり、君の長男竹五郎氏は熊本醫專卒業郷里に於て小兒科専門病院を開業せり。

勝目村 山下山吉氏

君は明治十九年六月上山田に生る、歩兵四十五聯隊に入管せし、病魔に冒され四ヶ月にして除隊となる、大正十年村會議員に當選し、同十二年青年團長に擧げられ大正十四年村會議員に再當選し村政に貢献しつつあり、君の長男穂四郎氏は目下川邊中學校在學中。

山下山吉



勝目村 山元作一氏

君は明治十四年七月二十六日勝目村に生る、同三十四年熊本騎兵第六聯隊に入管、明治三十七年日露の役に出征し戦功に依り功七級金盞勳章勳八等白色桐葉章を下賜され上等兵に昇進郷歸す、在郷軍人團長に擧げられ、大正二年勝目村在郷軍人會副分會長、同五年同村分會長に擧げらる、大正十年村會議員に當選し大正十四年再選す、温厚の士にして信望厚し。

勝目村 松園藤兵衛氏

君は明治十二年五月上山田に生る、専ら農事を屬み大正四年上山田區青年團相談役となる、大正六年村會議員に當選し大正九年國勢調査員、同年同村産業組合理事に擧げらる、大正十四年村會議員に當選し産業經濟村政に貢献する處少からず君に三男二女在り、長男惠彦氏は知覽工業學校在學中。

松園藤兵衛



○勝目村

天神新左衛門

君は明治十一年八月二十九日勝目村に生る、明治三十七年農事小組合長に推され十二年に亘りて其の任を全ふせしが、成績優秀の爲め縣及び郡より表彰さるゝこと數回、村會議員に當選すること三回にして村政に盡力する處少からず、薩南肥料株式會社監査役を勤む長男榮次氏は鹿屋農學校卒業後農科大學卒業目下復興局在職中。

勝目村 天神新左衛門氏

勝目村 鱈坂織助氏

君は明治十一年四月二十日勝目村に生る、明治三十一年熊本重砲兵第六大隊に入營病魔に冒されて除隊となる、同三十八年農事小組合長に擧げられて大正五年に至る、同年四月村會議員に當選す君の農事小組合長時代川邊郡より上山田農事小組合は表彰さる、尙ほ同村産業組合理事となりしが村會議員に當選すること前後三回村民の信望厚く篤實の士なり、君には三男三女在り長男定美氏は第七高等學校理科乙部に二男定雄氏は東京高等工業學校電氣科へ在學中長女は目下鶴嶺高等女學校次女は加世田高等女學校在學中なり。

鱈坂織助

勝目村 鱈坂邦惠氏

君は明治十年九月十二日勝目村上山田に出生、明治三十三年本縣第一中學校を卒業し全三十七年長崎醫學專門學校卒業後川邊村に於て醫業に従事し川邊中學校其他の校醫を囑托さる後東京醫科大學に入り眼科、胃腸病、産婦人科を研究卒業後郷里に於て診療に従事せり、君は明治四十三年來引續き村會議員たり、現在大丸校々醫及び薩南肥料株式會社取締役等の任にあり。

鱈坂邦惠

勝目村 酒瀨川源矢氏

君は明治二十四年三月二十日矢左衛門氏の四男に生る、青年會創立と共に同副會長となり後會長に擧げらる村會議員に當選すること二回學務委員に選ばる又た産業組合理事に擧げられ大正十四年三たび村會議員に推さる村民の信望厚し。

酒瀨川源矢

○勝目村



勝目村 椎原彦二氏

君は明治三年十二月勝目村中山田に生る、明治二十五年三月より東京済生學舎に學び全二十七年十一月醫術試験に及第し全年十二月より全廿九年三月迄東京慈惠病院にて實地研究同年四月より三十一年四月迄東京醫科大學にて眼科修業同年四月歸郷して開業、各校々醫を囑托せらる、尙君は郡會議員となること前後二回、勝目産業組合理事、農會議員となり後郡醫師會長となる。大正十四年村會議員に當選せり。

萬世町 遠矢秀信氏

君は明治十四年二月二日川邊郡萬世町に生る、農を業とし居れるが幼時小學校を卒へて直ちに其の業に精勵したり、のち區長、小組合長、衛生部長等其の他の公共事業に従事するもの多年に亘り其の功績多し、大正十四年町會議員に當選して町自治の發展に努力し居れり

萬世町 山下長左衛門氏

君は明治七年九月廿四日を以て川邊郡萬世町に生る、君の家は代々農を業とせるが君又た其の業に従へり、のち農事小組合長、衛生組長、區長等に推され、大正十四年町會議員の改選に際し多數にて當選町自治の爲め少なからず貢獻しつゝあり。

遠矢秀信

山下長左衛門



相星次太郎

君は明治八年十二月五日川邊郡高世町に生る、小學校を卒へて父祖の業を繼ぎ農事にいそしむ、斯くて君は精勵よく村民の範たるに至れるが村内各般の事業に對して其の幹旋する所多く夙に村會議員に推され村治に盡し居たるが其の町制を實施するに當り引續き推されて町會議員となり今日に至る。

高世町 相星次太郎氏

姥 徳 一

君は明治二十三年八月十五日を以て川邊郡笠砂村に生る、夙に村の爲め盡す所ありしが大正十四年村會議員の改選に際し君又た推されて議員となり村治に貢献しつゝあり。

笠砂村 姥 徳 一氏

川崎與七郎

君は明治二十四年五月七日を以て川邊郡笠砂村に生る、其の家事に精勵するところは多く他の範とするに足るものあり、然れば村民一般に君の努力を認むる所となり大正十四年村會議員の改選に際しては多數を以て當選せり。

笠砂村 川崎與七郎氏



片平長右衛門

笠砂村 片平長右衛門氏  
君は明治二十四年九月六日を以て川邊郡笠砂村に生る、小學校卒業後、家事に勉むる所あり、其の實直にして精勵するところ一般に認められ、大正十四年村會議員の改選に當り多数を以て當選せり。

村野孫市郎

笠砂村 村野孫市郎氏  
君は明治二十年四月六日川邊郡笠砂村に生る、小學校卒業後家事に屬精し居たるが長して青年會長、區長、小組合長等に擧げられ能く其の任を果したり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲め大に努力しつゝあり。



欠

**MISSING**



日  
置  
郡



串木野村

村長 有馬英吉氏  
助役 橋口宗七氏  
議員 入枝善樹氏  
岩下辰之助氏  
井之原茂助氏  
星野仲次郎氏  
德重藤太郎氏  
長秀一氏  
小原甚右衛門氏  
折田金次郎氏  
大六野喜太郎氏  
金丸久義氏  
吉村吉次郎氏  
田中太一郎氏  
嶽釜武助氏  
武田哲氏  
竹中善太郎氏  
中島武吉氏  
宗都戶助氏  
內德佐市氏  
野下庄之助氏  
久保長太郎氏  
栗山愛吉氏  
山元靜之助氏  
松田宗次氏  
松野太吉氏  
松元為治氏  
藤崎與四郎氏  
佐多竹一氏  
肝付篤志氏  
肥田甚五氏  
平石保氏

西市來村

村長 梶原規光氏  
助役 出口富美夫氏  
議員 西長泰氏  
西志津夫氏  
富永彦太郎氏  
若松字一氏  
川野清氏  
勝目實禎氏  
海江田準一郎氏  
上籠長太郎氏  
田崎暎吉氏  
塚田林太郎氏  
山下真夫氏  
丸山叶二氏  
松浦吉次氏  
前田成芳氏  
福田仁次郎氏  
福山清氏  
坂口岩助氏  
新川藤次郎氏

東市來村

村長 谷山金次郎氏  
助役 上野秀知氏  
議員 岩下方貞氏  
西田用吉氏  
東福次郎右衛門氏  
堂園光雄氏  
上村友吉氏  
上村伸太郎氏

◎日置郡



下伊集院村

吉田當吉氏  
曾木正太郎氏  
永井佐七郎氏  
永井貢氏  
上床廣氏  
白井直熊氏  
久保平兵衛氏  
黒川十次郎氏  
松山武二氏  
松山三彦氏  
藤崎常二氏  
木場直二氏  
淺谷時博氏  
齊藤貞行氏  
坂元吉太郎氏  
南喜太郎氏  
樋口直吉氏  
平原用吉氏

村長 郡山金之助氏  
助役 川畑幸近氏  
議員 今福三五郎氏  
池田覺二氏  
島中製袋次郎氏  
帖佐猛氏  
沈正彦氏  
大迫英二氏  
尾上泰輔氏  
川野誠二氏  
米丸與吉氏  
中島平藏氏  
野崎賢靜氏  
福留三四郎氏  
郡山金之助氏  
小屋敷袋次郎氏  
有島助次郎氏  
宮田映助氏  
宮下甚親袋氏  
肥後庄之助氏

伊集院町

町長 上村清藏氏  
助役 中原尙次氏  
議員 池端久之助氏  
池田仲助氏  
池田勘助氏  
家村泰製袋氏  
馬場善太郎氏  
馬場園森次氏  
堀之内新太郎氏  
豊田守藏氏  
中馬彌熊氏  
川島軍平氏  
柿内末吉氏  
上四郎氏  
上村要助氏  
吉留新藏氏  
窪田製袋市氏  
丸山八之助氏  
松山直二氏  
松下勇吉氏  
松崎盛治氏  
榎園善吉氏  
佐藤與八郎氏  
佐伯要吉氏  
平田吉次郎氏  
本村岩次郎氏

上伊集院村

村長 倉内藤市郎氏  
助役 吉永長之進氏  
議員 岩下休次郎氏  
井ノ上長次郎氏  
石原喜作氏  
島中小吉氏  
西太一郎氏  
中馬嘉藏氏  
上竹原善次郎氏  
四本泰治氏  
吉留映助氏  
竹之内藏右衛門氏  
鶴田直哉氏  
鶴田仙次郎氏  
永山甚藏氏  
内傳次郎氏  
前田利吉氏  
増田己七郎氏  
森熊太郎氏  
末永善助氏

郡山村

村長 木場貞義氏  
助役 多丸善太郎氏  
議員 坂谷直次郎氏  
堀之内善映氏  
鬼丸喜代二氏  
岡崎末吉氏  
脇榮吉氏  
竹内隆助氏  
成尾庄之丞氏  
永田嘉左衛門氏  
上原雄二氏  
山田新太郎氏  
八木郁太氏  
八木喜一氏  
郡山繁志氏  
雪元市太郎氏  
新海半助氏  
肥後盛二氏  
諸園三映氏  
末吉元右衛門氏

日置村

村長 菟木利賢氏  
助役 大迫俊造氏  
議員 本田雄之助氏  
本田恕海氏  
笠野榮吉氏  
吉留順藏氏  
田中泰藏氏  
田城半右衛門氏  
永田英一氏  
内山岩吉氏  
野崎仲兵衛氏  
草原清次郎氏  
山口宗雄氏  
山口佐市氏  
山口仙之助氏  
松山三次郎氏  
松下正太郎氏  
前畑十吉氏  
寺尾順藏氏  
宮脇卯兵衛氏



吉利村

村長 村山 保氏  
 助役 打越太兵衛氏  
 議員 庵下善吉氏  
 入鹿山清彦氏

池端要之進氏  
 池水榮藏氏  
 唐見政吉氏  
 川窪市藏氏

上田平 正太郎氏  
 野村才吉氏  
 山下利平次氏  
 寺前次兵衛氏

坂口 等氏  
 平岡良時氏

永吉村

村長 本田 敬二氏  
 助役 馬場彌一郎氏  
 議員 西間庭 助次郎氏  
 坊野榮藏氏

坊野喜之助氏  
 神之門 嘉兵衛氏  
 横山壯熊氏  
 宇都淺吉氏

上田義高氏  
 野元彌太郎氏  
 能勢敏哲氏  
 山下勘九郎氏

有馬龍吉氏  
 下和田新四郎氏

伊作町

町長 市來嘉之助氏  
 助役 篠原政敬氏  
 議員 今村吉次郎氏  
 岩川八郎氏  
 池端愛次郎氏  
 池上嘉納氏  
 池田正忠氏

石塚與助氏  
 原田千代助氏  
 原口淺吉氏  
 濱田善吉氏  
 戸越淺助氏  
 小山田武太郎氏  
 河野彌一郎氏

月野正一郎氏  
 宇都貞氏  
 栗野重武氏  
 山下勘之丞氏  
 山下盛成氏  
 前田信平氏  
 船倉映次郎氏

寺原助藏氏  
 篠原乙吉氏  
 滿尾勇之助氏  
 宮下正藏氏

田布施村

村長 遠矢益之助氏  
 助役 松本庄右衛門氏  
 議員 橋口映市氏  
 二宮覺之助氏  
 二木源助氏

大久保 三四郎氏  
 小田吉太郎氏  
 川畑藤右衛門氏  
 加治屋市太郎氏  
 辻次右衛門氏

永池善次郎氏  
 松本庄右衛門氏  
 坂口善右衛門氏  
 坂下直吉氏  
 櫻井森右衛門氏

宮下映次郎氏  
 下稻葉伊太郎氏  
 東市太郎氏  
 東中村常吉氏  
 東小園市太郎氏

阿多村

村長 原口 榮氏  
 助役 有馬佐平太氏  
 議員 花房兼禮氏  
 花房新之丞氏  
 西上床常吉氏

川路市太氏  
 神野榮二氏  
 掛上治次郎氏  
 高月東五郎氏  
 津留嘉右衛門氏

中村矢四郎氏  
 後鈴貞次郎氏  
 宇治野助次郎氏  
 山口彌七氏  
 古城有吉氏

有村宗太郎氏  
 清永喜藏氏  
 下大田次郎助氏  
 東次右衛門氏  
 森宗一郎氏



有馬英吉

串木野村長 有馬英吉氏

君は安政六年五月十六日串木野村に生る、大正十二年五月村長に當選し村政の刷新向上に努めつゝあり。

橋口宗七

串木野村助役 橋口宗七氏

君は明治六年五月八日串木野村に生る、歩兵特務曹長にして村書記たる事久しく、大正十一年五月同村助役に擧げられ二期を通してよく村長を補佐して村治に盡しつゝあり。

◎串木野村



○串木野村

徳重藤太郎

串木野村 徳重藤太郎氏

君は明治十年三月十日藤右衛門の長男に生る、代々農業をなし又は製米業をも營ひ、明治四十年區長に擧げられて大正六年に至る六期、大正二年より大正七年迄青年會長として青年の指導に努む尙ほ農會議員として大正二年より大正十二年まで、煙草耕作組合長として大正元年以來現在に及ぶ大正十年村會議員に當選引き續き今日に至る君は農作物の品質向上に向つて大に努力しつゝあり。

串木野村 長 秀一氏

長 秀一

君は明治二十年十月九日資産家卯七郎氏の長男に生る、大正十年村會議員に當選し爾來村會議員として村のため貢献せるを尠からず、君は又た兄弟多く其の弟の教育に多大の注意を拂ひ居れるが次弟豊彦氏は東北大學水産科卒業後目下漁業に従事し、其の次光二氏は東大工科大学卒業後目下川崎造船所に勤務し、其の次文吾氏は東京醫科大學齒科を卒業して目下鹿兒島市に開業、季弟秀勝氏は鹿屋農學校卒業後目下自宅にて農業に従事中なりと。

武田 哲

串木野村 武田 哲氏

君は明治十四年十一月二日泰助氏の長男に生る、君は温厚篤實にして多の土地を有せるが皆な小作人を使用し居れり、而して農作物の品質向上に多大の注意を拂ふ、村民は能く君を範として活動せり、大正十年村會議員に當選以來引き續き其の任にありて村政に貢献する處尠からず。

串木野村 嶽 釜 武 助氏

君は明治二年五月串木野村下名に生る、明治十七年串木野小學校の中等科卒業、明治二十二年歩兵第二十三聯隊に入營同年十一月上等兵に進級、同二十五年二等軍曹、同二十六年十一月一等軍曹に進級、同二十七年七月第一大隊本部附となり全廿八年一月日清戰役に出征、同二十八年十一月威海衛守備を命ぜらる。戰役の功に依り勳八等瑞雲章並に金五十圓を下賜さる、全三十年滿期退營善行證書を受く、尙ほ恩給年金を下賜さる、同卅一年四月福岡縣藤杉嶺山株式會社書記となり、全卅四年十月事業係を兼務す、同三十七年十一月日露戰

○串木野村



◎串木野村

役の際召集されて後備歩兵五十五聯隊へ編入さる、同廿八年陸軍歩兵曹長に昇進、更に特務曹長に進級す、全卅九年歸郷せしが同年四月日露戦役の功に依り勳七等青色桐葉章並に金參百圓を下賜さる、同三十九年三月三井鑛山に入りて工手長となり、大正十三年三月同鑛業所事業中止の爲め歸往せしが大正十四年四月村會議員に當選す。

串木野村 中嶋 武吉氏

君は明治二年市之助氏の長男に生る、明治三十四年村の附屬員として全四十二年に至り大正二年より串木野耕地整理組合委員となりて大正十一年まで繼續、大正五年煙草耕作組合長に擧げられて全十一年に至るまで其任にあり、大正二年村會議員に當選以來引き続き今日に至れり其の村政に貢獻する所少なからず、君の長男一郎氏は目下警視廳に奉職中なり。

中嶋 武吉

串木野村 宇都戸 助氏

君は明治十四年五月十九日串木野村冠嶽徳次郎氏の長男に生る、明治三十七年日露戦役の際補充兵として參加し、同三十九年満期除隊となる戦功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金八十圓下賜さる、大正八年以來六ヶ年寺院の世話役を勤め、大正十二年煙草耕作組合長に擧げられ、赤十字社員武徳會支部員に列し大正十四年四月村會議員に推されて村政に貢獻しつゝあり。

串木野村 内 徳 佐 市氏

君は明治廿一年三月十五日串木野村島平吉兵衛氏の三男に生る、串木野小學校卒業後鹿兒島市博約義塾に學び後明治四十二年警視廳に勤務、大正二年三月嚴父の死去に依り歸郷、大正十年區長、青年會長に擧げられ、大正十三年養蠶組合部落組合長に推されて養蠶業を屬み部落にも獎勵怠らず尙ほ照島校教育組合員、部落評議員となれるが大正十四年村會議員に當選せり令兄吉二氏は鑛山事業を志し朝鮮地方にありて研究中なるが君も又た鑛山事業に従事しつゝあり。

宇都戸 助

◎串木野村





○串木野村

野下庄之助

君は明治九年五月六日串木野村下名庄太郎氏の長男として生る、明治三十八年一月より明治四十一年一月に至る間信用組合評定委員に引續き同信用組合幹事に、更に其後理事に擧げられて現在尙ほ其の任にあり、其の外大正五年より同十三年迄串木野本浦漁業組合理事に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せるが、君は縣下に於ける信用組合永續者として昨年大阪朝日新聞社にて表彰されたり。

串木野村 野下庄之助氏

串木野村 松田宗次氏

君は文久二年三月六日串木野村上名教兵衛氏の長男として生る、明治二十三年以來村會議員に擧げらる、事數回、明治三十六年同村農會技手となりて四年間其の任にあり、辭じて草耕作組合長として大正九年に至る、大正四年より區長、同十二年より農會議員、大正九年國勢調査員となりしが目下名譽村農會長の任にあり、尙ほ村會議員として明治三十九年當選以來引續き今日に至る、君は村の長老として村民信望の的となる、性温厚なり令息英輔氏は臺灣花蓮港農産業主事として十三年間に互り勤務しつゝ在り。

松田宗次

串木野村 佐多竹一郎氏

君は明治二十六年三月十日串木野村島平休太郎氏の次男に生る、大正二年第四十五聯隊に入營、大正四年滿期除隊後發物雜貨商及び漁業に従事し尙ほ串木野町に支店を設けて大に發展しつゝあり、令兄清氏は魚問屋にて其の生魚の大部分は京阪地方へ輸出しつゝあり、君は大正十四年村會議員に當選、村の爲めに盡す所少なからず。

佐多竹一郎

串木野村 肝付篤志氏

君は慶應元年を以て日置郡串木野村濱に生る、幼にして穎悟常に群を抜く、夙に國手の希望あり其の燃ゆるが如き志望は度を負ふて東上する所となり濟生學舎に學びて其の志を達せしめて開業せしが君の手腕は直ちに一般の認むる所となりて患者の治を請ふもの日に益々多く、君又た熱誠を早めて治療に従事せり、君は又た一方に於て同地漁業の不振を慨き組合を設けて其組長となり大に斯界の爲めに活躍せり、而して目下修築中の串木野築港の如きは専ら漁港としての設備なるが是れ全く君が勞資を擲ち奔走せし賜と云ふべく一般に其の徳を欽望せり、君は幾度となく村會議員に推選されしが今尙ほ其の任に在り、自治の爲めにも大に盡瘁し居れり。

肝付篤志

○串木野村





串木野村 肥田甚吾氏

君は明治十八年九月一日串木野村上名に生る、嚴父は易學者として知られしが君も又た其の後を繼承すべく斯界の大家東京高島氏の門に學び明治四十一年二月八日卒業更に明治四十五年まで研究して其の奥義を究む。大正三年より家傳業を販賣せるが全年青年會長に擧げられ大正十年に至りよく其の任を全ふす、大正四年五月一日御大典記念會委員、大正八年日置郡民力涵養串木野村實行委員を囑託され、大正七年衛生組合代議員に擧げられ次いで同組合副組長として現今に至る大正十三年串木野村農家共濟會の評議員に推され大正十四年村會議員に當選せり。

串木野村 平石保氏



君は元治元年七月串木野村上名に生る、明治三十六年以來村附屬員として明治四十年に至るまで其任を全ふす、大正元年區會議員に推されて十三年辭す、寺院總代並に生福信用組合理事として大正八年より十一年に至る迄大正十四年村會議員に當選し自治の爲め貢獻する所少なからず、君の令息宗一氏は鹿屋農學校卒業後目下建築請負業に従事しつゝあり。

梶原規光

西市來村長 梶原規光氏

君は明治六年十一月二十三日生れにして、久しく郡書記たりしが、大正十一年十二月西市來村長に當選し二期を通し其の任にありて村政の向上を計りつゝあり。

出口富美夫

西市來村助役 出口富美夫氏

君は明治八年一月十四日同村に生る、村役場に入りて書記たりしが大正十二年五月同村助役に擧げられて現任村治に盡しつゝあり。



○西市來村

西 志津夫

西市來村 西 志津夫氏  
君は文久元年六月西市來村大里に生る、父祖の業を繼ぎて家業に屬精し居れるが、一面に於ては居村青年の指導に怠らず村民は多く君を範として子弟の教養をなすと云へり、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに幾多の努力を惜まず能く活働し居れり。

谷山金次郎

東市來村長 谷山金次郎氏  
君は明治六年五月八日生れにして村役場書記より助役に推薦せられ次て村長となる村民の信望厚く村治に貢献せる處少なからず。

上野秀知

東市來村助役 上野秀知氏  
君は明治七年六月四日東市來村に生る、久しく小學校長として教育界に在りしが、大正十二年十月助役に推薦せられよく村長を補佐して村治に努めつゝあり。

○東市來村



◎東市來村



君は明治廿一年三月東市來村長里に生る、明治四十二年香川縣農林學校を卒業し大正六年東市來村農會長に擧げられ尙ほ日置郡農會長に擧げられ又た日置郡農會評議員、縣農會評議員、縣茶業組合議員、養蠶組合長、煙草耕作組合長、竹林組合長、産業組合理事等の名譽の任にあり、而して村會議員たる事四回に及ぶ君は温厚にして諸事に熱精なる人なり。

東市來村 岩下方貞氏

東市來村 西田用吉氏



君は明治十九年十一月東市來村田代に生れ、父祖の業を繼ぎて農事に従ひ農會總代を勤め大正七年より煙草耕作組合總代農事小組長、區會議員、衛生副組長、青年會長を歴て大正十四年村會議員に當選す、尙ほ君は農會等に多大の功ありて村農會より表彰状を受く又た村産業政策にも功ありて表彰を受けたる實直なる人なり。

東市來村 東福次郎右衛門氏



君は明治十四年六月五日東市來村養母に生れ、明治三十一年梅木小學校教員を拜命し大正三年三月迄教員の職に在り、明治四十一年十一月田代産業組合理事に擧げられ次いで監事として今日に至り、又た大正九年より全十一年迄村書記、農事小業合長、農會總代等をなし尙ほ日置郡茶業組合獎勵員を囑託せられ現に奮闘中なるが大正十四年村會議員に當選せり。

東市來村 堂園光雄氏

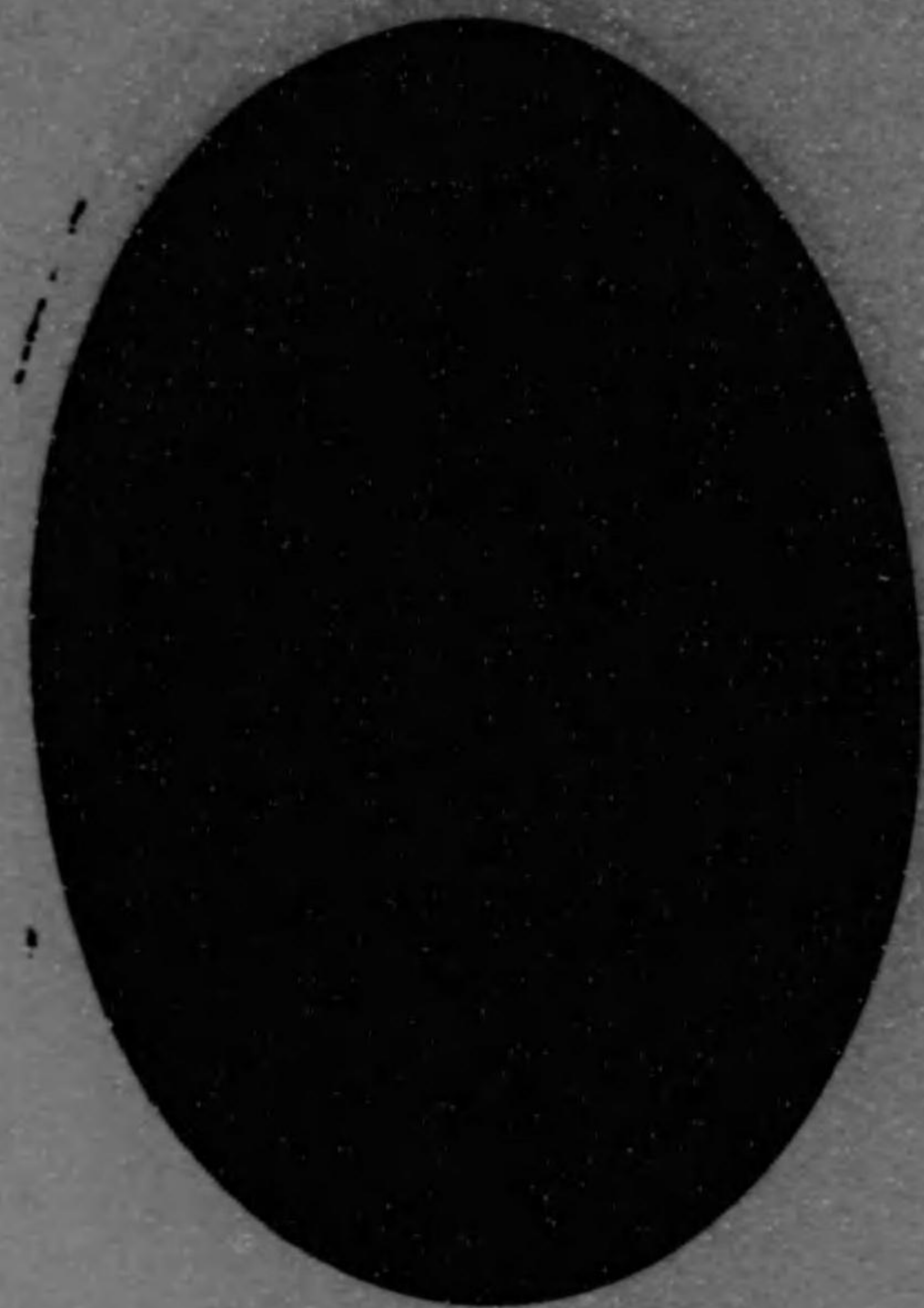


君は明治十五年二月東市來村長里に生る、明治四十年一月醫術開業試験に合格したるが更らに青山腦病院に入りて研究する所あり、又た國立傳染病院に入り後警視廳檢疫醫及び警察醫となりしが辭して明治四十二年歸村開業せり、曩きに村會議員に當選以來引き續き今日に至り尙ほ其の任に至りて村治の發展に盡す所少なからず。

◎東市來村



◎東市來村



東市來村 吉田 當 吉氏

君は明治廿一年八月東市來村養母に生る、明治四十三年産業組合長となりて大正十四年に至るの間勸導し尙ほ學校滿點會副會長及び在郷軍人會副會長大正十年より村會議員に當選すること二回、又た村書記に擧げられし事もあり君は陸軍歩兵伍長なるが青年の訓練及び自治の發展に盡力する事實に大なりとして知らる。

東市來村 永井 佐七 郎氏



君は慶應元年八月東市來村養母に生れ、藤原鎌足の遺孫なりと稱し居れり、而して君は質實剛健の人なるが現在には區會議員をなし農會組合長、及び産業組合理事、村附屬員、恒草耕作組合總代等を勤め大正十四年村會議員に當選大に村治の爲め盡し居れり。

東市來村 上 床 廣 氏

君は明治十二年三月東市來村伊作田に生れ、全地の小學校卒業後中等學校に入り明治三十六年には大阪醫學大學を卒科して明治四十三年歸郷、東市來村に醫術を開業し患者の爲めに應じ居れり、尙ほ目下伊作田尋常高等小學校々醫を囑托せらる大正十四年に村會議員に當選し自治の方面に多大の努力をなし居れり。

東市來村 久保 平兵衛 氏

君は明治十八年十月東市來村養母に生れ萩産業組合理事を勤め、尙ほ村農會書記、農會總代、村養蠶組合書記、恒草耕作組合副組長の任にありて専心努力しつゝあり君の努力と人格は村民一般の認むる處となる、尙ほ君は郡畜産組合評議員に擧げられ大正十年より引續き村會議員として自治の發展に努力し居れり。

上 床 廣

久 保 平 兵 衛

◎東市來村



◎東市來村

松山武二

君は明治十五年一月東市來村養母に生れ、明治三十七八年日清の役に出征功あり勳七等青色桐葉章及び功七級と賜はる、明治四十二年には憲兵として渡鮮大正三年日獨戰役に際し召集されてハバロークスクに駐屯せしが平和後歸郷、上市來村郵便局長として現在通信事務に携はる、尙ほ君は日清の役后本縣廳に勤務せし事もあり、大正十四年村會議員に當選村政の爲めに大に努力し居れり。

東市來村 松山武二氏

東市來村 藤崎常二氏

君は明治十八年四月東市來村養母に生れ、日本醫學校に入學明治三十九年三月同校卒業后順天堂病院及び丸茂病院にて研究し後内務省衛生局防疫官、下關防疫官として勤務し辭して北海道に於て醫を開業し居たるが明治四十二年九月歸郷し東市來村にて開業せり君は畜産に意あり郡畜産組合總代となり大正十年全村會議員に當選引き續き大正十四年再選せり。

藤崎常二

東市來村 淺谷時博氏

君は文久三年一月東市來村長里に生る、明治廿一年東京帝國醫科大學別科卒業后歸村して東市來村に醫院を開設す、明治三十三年に日置郡醫師會長に擧げられ更らに縣醫師會副會長に推さる明治廿七年日清の役に際し軍資獻金從軍者の家族扶助並に小學校敷地寄附等數回に及びて縣の表彰を受く、尙ほ衛生上各施設の改良に見るべきもの多く爲に内務省より表彰さる、而して君は村會議員に擧げられること五回に及ぶ、温厚篤實として能く人に知らる。

東市來村 齊藤貞行氏

明治十二年五月東市來村に生れたる君は明治三十二年四月大阪府巡查となり、明治三十六年巡查部長に昇進し、明治四十一年一月警部となり、大阪府警察部衛生課に勤務せり大正九年大阪府下牧方警察署長に榮轉し大正十二年一月大阪府警視に昇進せしが大正十二年一月二十六日從七位勳六等瑞寶章を下賜さる、全十四年に退職歸郷し同時に村會議員に當選湯田信用購買組合監事に擧げらる。

淺谷時博

◎東市來村



南 喜太郎

東市來村 南 喜太郎氏

君は明治八年八月生る、普通農業技手、煙草耕作技手、農會總代を勤め居れるが明治四十二年に東市來村信用組合理事に擧げられ大正十年に村會議員に當選し大正十四年再選せり此の外、衛生組長及び農事小組合長、學事組合長等をなせり。

東市來村 樋口直吉氏

樋口直吉

君は明治十七年二月二十六日東市來村伊作田に生る、農會總代、煙草耕作組合理事、農事小組合長、伊作田神ノ川農事組合長等を勤めしが大正十二年四月には郡より篤農家として表彰状を受け區の農事組合より感謝状を受く斯の如く君は各方面に向つて自から其模範を示せるが、大正六年以來村會議員に當選する事三回に及べり。



東市來村 平原用吉氏

君は明治八年五月東市來村長里に生れたるが年久しく實業家として知らる、尙に請負業を營み鹿兒島縣下郡部の各中等校又は公私の大建築物は多く君の手に成れりと、而して君は又た自治の發達向上に精勵する所多く大正十四年村會議員に當選大に村治の爲めに努力し居れり。



郡山金之助

下伊集院村長 郡山金之助氏

君は元治元年九月二十三日生れにして、村収入役より助役に推薦され、大正三年六月村長に當選四期を通して現任し村治に貢献せしむ不尠。君はまた村會議員たり。

下伊集院村助役 川畑幸近氏

川畑幸近

君は明治二年十二月十五日生れにして村収入役たりしが大正三年六月選ばれて助役となり四期を通して村長を補佐し、村政に努めつゝあり。



下伊集院村 畠中製釜次郎氏

明治八年一月全村野田に生れ、全村附屬員となり煙草耕作組長として盡力せると共に家業に努め大正十年村會議員に當選し尙大正十四年再選自治に努力し居れり、君は温厚にして村民に尊敬され居れり。

下伊集院村 尾上泰輔氏

君は明治十四年下伊集院村上神殿に生れ、明治三十五年鹿兒島造士館を卒業し、后長崎醫科専門校に學び卒業后明治四十五年歸郷同地に開業し全地小學校々醫たり、大正十年村會議員に當選以來引きつゞき當選學務委員に擧げらる。





川野誠二

下伊集院村 川野誠二氏  
君は明治七年一月下伊集院村に生れ、明治四十二年京都府逓  
査拜命後逓査部長に昇進し退職後逓送業を営む尙君は十二年  
間全村書記を勤務せし事あり大正十四年村會議員に當選し目  
下自治の爲めに努力し居れり。

下伊集院村 米丸與吉氏

君は明治十四年二月下伊集院村野田に生れ、家業に努力し居  
る内明治三十七八年日露戦役起り出征せしが戦功に依り勳八  
等白色桐葉章を下賜さる、後村附屬員となり其任にあること  
久しきに及ぶ、越へて大正十年村會議員に當選大正十四年の  
改選にも引きつゞき當選現在に至り村治に努力し居れり、君  
は温厚着實の士なり。

下伊集院村 小屋敷 袈裟次郎氏

君は明治十年下伊集院村神之川に生れ、能く家業に努むると  
共に佛教の信者として知らる會つて小組合長となり大正十四  
年村會議員に當選自治の爲め努力すると共に全地の説教所設  
立に際し尠らず盡力し居れり。

下伊集院村 宮下甚袈裟氏

君は慶應三年三月下伊集院村桑畑に生る、村附屬員となり、  
明治三十七年噲嗽郡月野村農業技手となりて在職すること四  
ヶ年後現在地に於て農會總代となる大正十年村會議員に當選  
大正十四年にも再選自治の爲めに大に努力し居れり。

宮下甚袈裟



◎下伊集院村

肥後庄之助

君は慶應元年十一月下伊集院村神之川に生れ村附員として  
永年其任にあり尙ほ村農會總代となれるが村會議員とし  
ては町村制實施當時より繼續して今日に至る、其の間身を忘  
れて自治の爲め大に努力し居れり、尙ほ全村説教所新設に際  
し盡力せしが佛教の篤信家として知らる。

下伊集院村 肥後庄之助氏

上村清藏

君は明治九年二月二十四日生れにして、村助役たりしが大正  
七年十二月町長に當選し以來引續いて現任せり。

伊集院町長 上村清藏氏

中原尙次

君は明治六年三月十九日生れにして、歩兵中尉なり、在郷軍  
人分會長たりし事あり、大正八年一月助役に擧げられ引續き  
現在に至り町政に盡しつゝあり。

伊集院町助役 中原尙次氏

◎伊集院町





伊集院町 池田 仲助氏

君は明治九年十一月二十日同町飯牟禮に生れ鹿屋農學校卒業後飯牟禮、山田、伊集院の各小學校に教鞭を執り居たりしが三十八年辭して稅務屬となり延岡、高鍋、小林、熊本、御船長崎、武生水等の各稅務署に勤務し大正九年十一月辭して飯郷す。飯郷後は養蠶に従事し伊集院町外四ヶ村蠶繭販賣購買利用組合長に擧げられ、大正十年、大正十四年の二期町會議員に當選す中學校建築委員、學務委員たり。



伊集院町 池田 勸助氏

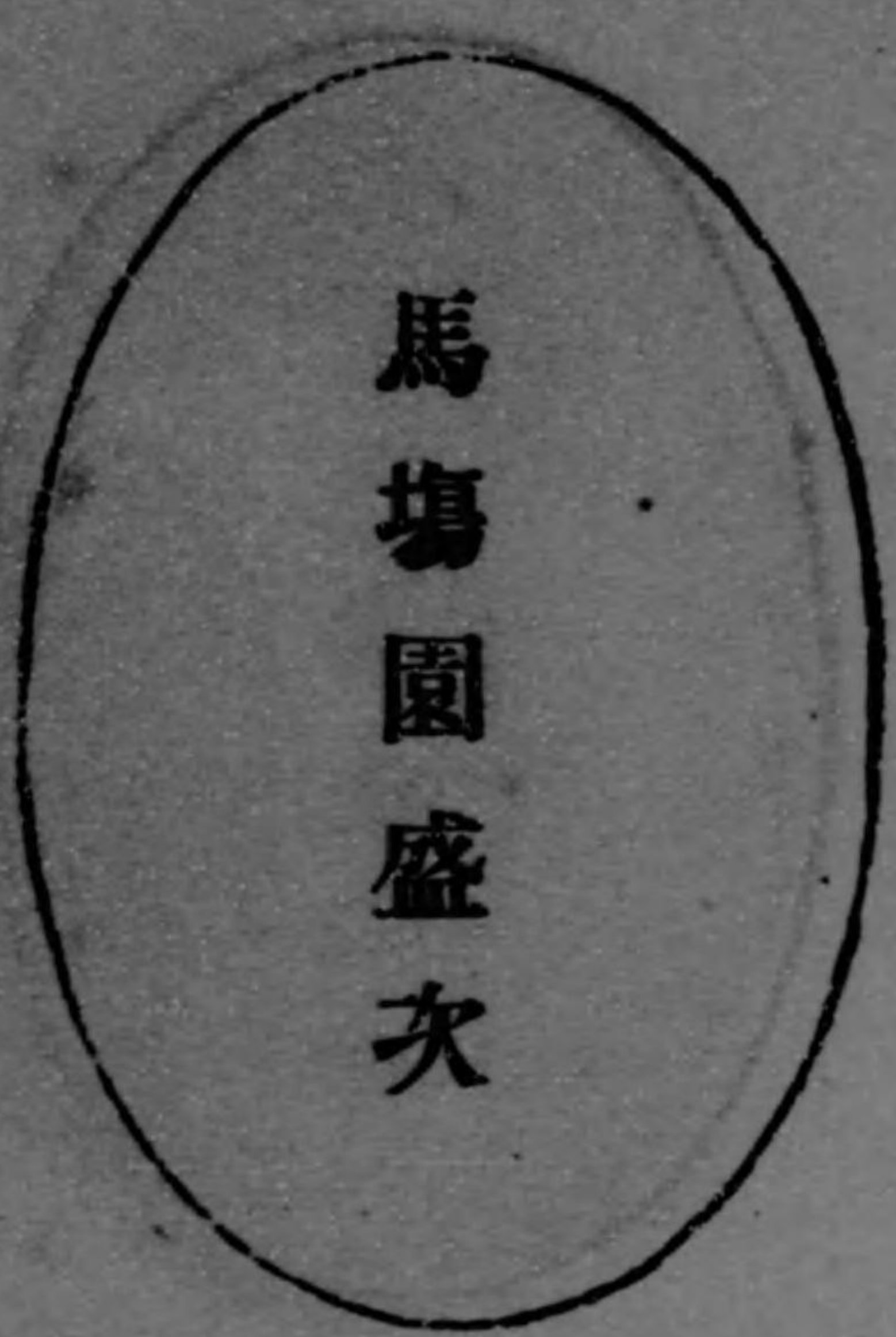
君は明治二十三年六月二十日伊集院町宇下谷口に生れ、小學校卒業後は農業を営みて家運の隆昌を計り農事小組合長、植草耕作組合總代、町共有財産協議員、下谷口婦人會顧問、伊集院小學校後援會幹事等に擧げられ、大正十四年町會議員に當選せり。

伊集院町 馬場善太郎氏



君は明治七年六月二十八日伊集院町古城に生れ、二十七年熊本野砲兵第六聯隊に入營日清の役に參加し三十年滿期飯郷、日露戰を交ゆるや召集に應じ出征し戰功に依り勳八等白色桐葉章を下賜さる。除隊歸郷後古城區長、農事小組合長、衛生組長、道路委員、國勢調査員等に擧げられ、大正十年、大正十四年の兩度選ばれて町會議員となる。

伊集院町 馬場國森次氏



君は明治十七年伊集院町に於て生る、三十七年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營日露の役に出征して功あり勳八等白色桐葉章を下賜され、全三十九年十月滿期飯郷、青年會長、農事小組合長、衛生組長、區長等に擧げられしが、大正十四年町會議員に當選せり。



◎伊集院町

堀之内新太郎



君は明治二十三年四月二十五日伊集院町懸ノ原に生る、同地小學校を卒えて渡鮮し京城鐵道局に奉職、全四十二年辭して飯郷、全四十三年海軍志願兵として佐世保海兵團に入團、大正二年メキシコ警備として彼地に赴く、歐洲大戰の際は大平洋沿岸警備の任に當り大正四年任務を了る飯團、全五年五月滿期飯村歐洲戰亂の際功に依り勳八等白色桐葉章を下賜さる、區長に擧げらるゝこと二期大正十四年町會議員に當選せり、尙ほ君は少壯議員にして雄辯なるも以て將來を矚目されたる。

伊集院町 豐田守藏氏

君は慶應二年六月十八日伊集院町下谷口に生る、明治二十年熊本歩兵第十三聯隊に入營し射的優等賞を受けて砲兵隊に入、全二十二年下士適任證を附與され滿期除隊となる、日清戰爭の際は出征して一時金三十五圓を下賜さる、日露戰役起るや再び召集され出征功あり砲兵伍長に進級勳八等瑞寶章並に一時金五十圓を下賜さる、飯郷後は農事に餘念なく、農事小組合長に擧げらるるや組合のために盡す處不尠、殊に組合貯金を奨励して納税に充て爲めに一人の滯納者も出さざるなどは同組合の誇とするところなり。大正十四年町會議員に當選せり。

伊集院町 川島軍平氏



君は慶應三年十二月二十七日伊集院町猪ヶ倉に生る、明治十八年三月兵庫縣巡查を拜命、全二十九年辭して臺灣に渡りて總督府巡查となり、大正二年辭して飯郷せしが君の警察界に在ること實に三十餘年其の間數度の賞與を受く、就中討蕃事件にては多大の賞を受けたり、大正十四年町會議員に當選せり。

伊集院町 柿内末吉氏



君は明治十四年七月十六日伊集院町土橋に生る、全三十五年土橋小學校に奉職二十七年九月辭して看守を志願し鹿兒島刑務所に奉職し、全四十四年朝鮮總督府看守に轉し大正四年辭して飯郷、農事に従事す、土橋區長、土橋信用組合理事より組合長、國勢調査員、日置郡民力涵養伊集院實行委員、蔬菜副業組合長、學務委員等に擧げられ町會議員たること大正六年より三期に亙り當選、君はまた町會議員中人格者として信望特に厚し。

◎伊集院町



上 四 郎

伊集院町 上 四 郎氏

君は明治十年一月十六日伊集院町中川に生る、明治三十八年青年團長に擧げられし以來區長、煙草耕作世話人、日置郡産馬組合議員、衛生組長、農事小組合長、土橋信用組合理事等推され能く其の任を果せしが大正十四年町會議員に當選せり。

上 村 要 助

伊集院町 上 村 要 助氏

君は明治十六年二月三日伊集院町に生る、資性温厚、同情心深く豪膽の人、小學校卒業後兵役を了し伊集院町役場に入り書記となる、明治三十七八年の日露戦役に參加し功あり、除隊歸村の後は各方面に盡瘁し居たるが大正十年町會議員に當選、大正十四年引續き再選學務委員に選ばる。

吉 留 新 藏

伊集院町 吉 留 新 藏氏

君は明治十二年十二月八日伊集院町下谷口に生る、全三十一年佐世保海兵團に入りて看護卒となる、全三十四年の義和團事件、全三十七八年の日露戦役に出征し旅順閉鎖には決死隊に加はるなど衛生部員としては目覚しき功を表はし樺太占領パルチック艦隊攻撃等に從軍して功あり。勳八等白色桐葉章一時金二百三十圓を下賜さる、全三十九年滿期飯郷、全四十年同地小學校に教鞭を執り大正元年辭して町役場書記となる大正五年推されて農會長、次いで伊集院産業組合理事となりしが後蠶絲販賣購買利用組合を創立して初期の組合長となる大正十四年町會議員に當選せり。

伊集院町 窪田 袈裟 市氏

君は明治十八年一月廿日伊集院町下谷口に生れ、小學校卒業後は農業に従事し居たりしが兵役を終りて飯郷後は現在の醸造業を創め一意斯道に努む、君は稀れに見る道義堅固の人に於て「忠孝正義」を標語として萬事精神的なるが故に信望日と共に厚く、大正十年町會議員に當選し全十四年再選さる。





丸山八之助

伊集院町 丸山八之助氏

君は慶應元年二月五日伊集院町太田に生れ、明治十九年熊本歩兵第二十三聯隊に入營全二十一年滿期飯郷、日清戦争に召集されて出征功に依り一時金百八十圓を下賜さる、日露戦争を交ゆるに至り再び召集され臺灣守備兵として一ヶ年を勤務し一時金七十圓を下賜さる、飯郷後は専心農事を屬みしが衛生組長、區長に擧げられ能く其の任を盡す、大正六年、大正十年、大正十四年の三度町會議員として選ばれる。

伊集院町 松山直二氏

君は明治四年四月廿八日伊集院町に生る、鹿兒島造士館に在しか後上京醫學に志し千葉醫專門學校を卒え、東京帝國大學專科を卒業し現在地に開業したり、郡會議員たること三期にして參事會員、副議長たりし事あり、町會議員としてもまた大正十四年を以て四期當選す、學務委員、衛生組長、伊集院尋常高等小學校々醫、縣立伊集院中學校々醫を囑托せらる。



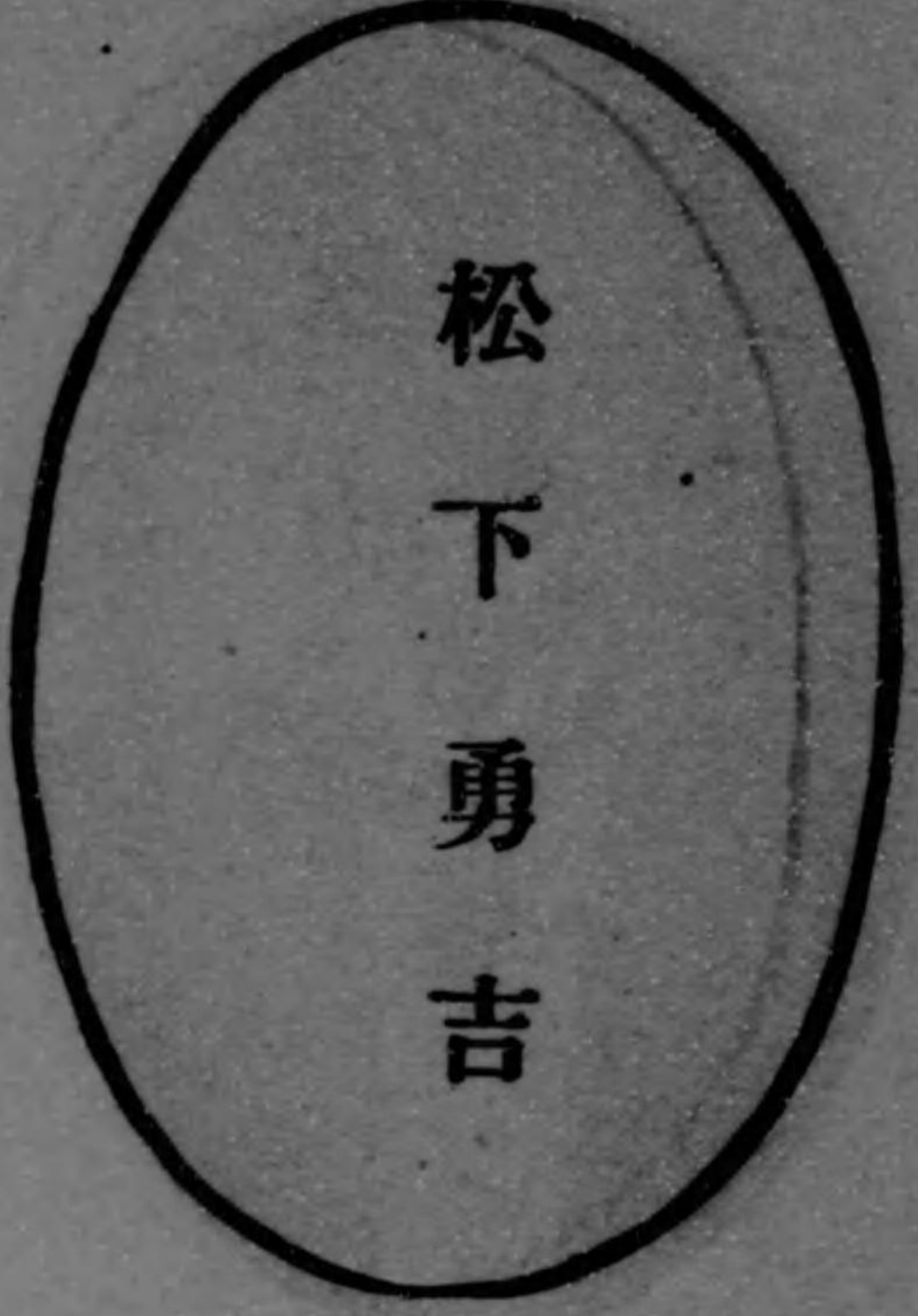
松山直二

伊集院町 松下勇吉氏

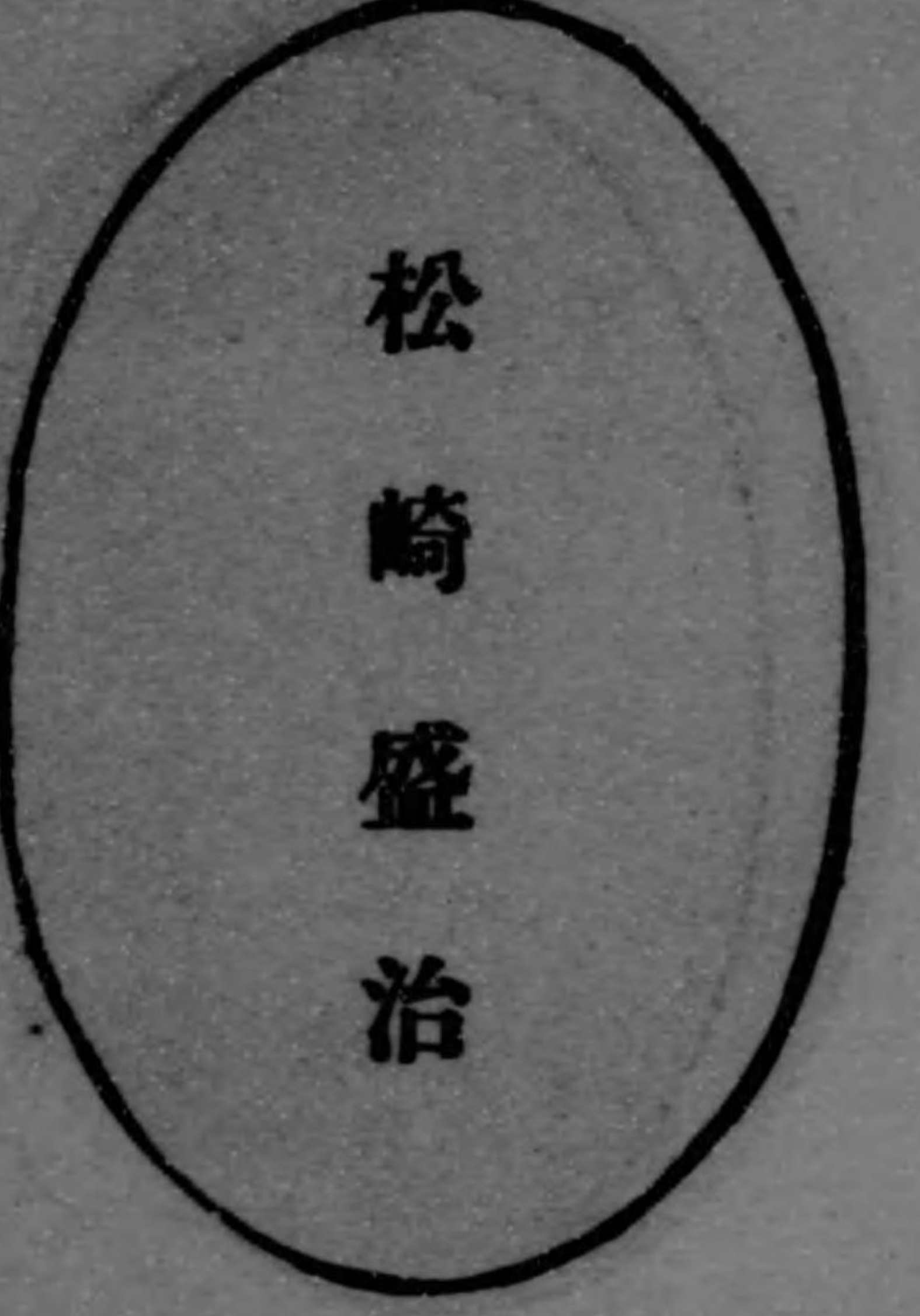
君は明治十二年十二月六日伊集院町太田に生れ、伊集院小學校卒業後京都に出で前田醫師の門弟となりて醫學を修む、後東京に赴き濟生學舎に入り同校を卒え高田博士、遠山博士に就きて研究を重ね、全三十五年千葉縣安房郡に開業、大正四年迄全地に止まる、その間醫會議員、村會議員、學校醫等に擧げらる、大正四年伊集院に販りて開業、大正十四年町會議員に當選、君は失明せしも頭腦明敏その敏感さは却つて明者を凌ぐ程にて「今鳩保己一」の稱すらあり。

伊集院町 松崎盛治氏

君は明治八年二月十五日伊集院町清藤に生る、全地小學校卒業後臺北刑務所に入りて看守となる、辭任歸村せしが明治四十年北米に渡航して大正十年歸國せり、此の間君は在米邦人としては常に勤勉能く他の範となる、大正十四年町會議員に當選し自治の爲めに努力しつゝあり。



松下勇吉



松崎盛治





伊集院町 榎園善吉氏

君は明治二十六年一月十五日伊集院町飯牟禮に生る、小學校を卒え農業に従事、大正二年熊本輜重兵第六大隊に入營し大正四年滿期となる在營中他の範たりしとして善行證書を附與さる、歸村後青年會長、農會長、農事小組合長、區長、在郷軍人分會班長、村農會議員、飯牟禮信用組合理事等に擧げられ大正十四年町會議員に當選せり。



伊集院町 佐藤與八郎氏

君は明治九年九月十二日伊集院町太田に生れ、伊集院小學校に學び、宮崎獸醫學校を卒えて全三十一年現在地に開業せり日置郡畜産組合長、全獸醫會顧問、日置郡家畜市場管理者、全家畜購買株式會社々長、日置郡畜産組合伊集院支所長、伊集院産業組合長、村農會議員等に現任し、大正六年、大正十年、大正十四年の三期町會議員として當選せり。

伊集院町 佐伯要吉氏

君は明治十五年一月四日伊集院町下谷口に生れ、伊集院小學校に學び、全二十四年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營、日露戰役には第四軍に従ひて出征し功拔群のため功七級金鷄勳章を下賜さる、全四十一年歩兵軍曹に進み滿期飯郷し、材木商を營めり大正十四年町會議員に當選す。

伊集院町 平田吉太郎氏

君は明治十二年二月十二日伊集院町郡に生る、小學校卒業後は専ら農事に勵み居たるが其の後青年會長、農事組合幹事全組合長、區會議員、區長、衛生組長等に擧げられ能く其の任を果す、大正十四年町會議員に當選せり。





◎上伊集院村

倉内藤市郎

上伊集院村長 倉内藤市郎氏

君は明治元年十月二十二日生れにして、同村助役たりしが大正十年六月村長に當選し二期を通して現任せり。

上伊集院村助役 吉永長之進氏

吉永長之進

君は明治九年二月八日同村に生る、歩兵曹長にして警務官たりし事あり、村役場書記よりして大正十年六月助役に推薦され今日に至る。

岩下休次郎

上伊集院村 岩下休次郎氏

君は明治十四年二月二十三日上伊集院村に生る、小學校卒業後は専ら農業に従事し居たるが、下福山青年會長に推薦せられたるを振出し村衛生組合代議員二期、煙草耕作組合世話人二期、目下村農會議員、村有志會員、小學校戸主會幹事、青年會及び婦人會顧問等をなし居れり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに大に努力しつゝあり。

上伊集院村 井上長次郎氏

井上長次郎

君は上伊集院村と谷口次郎左衛門氏の二男に生る、明治二十四年上谷口青年會長に推され農事小組合長三期、衛生組合長二期、上谷口下區長四期を勤め、尙ほ村有志會員、上谷口下區青年會及び婦人會の顧問、上伊集院尋常高等小學校の戸主會幹事となり居れり、大正十四年村會議員の改選に際し多数を以て當選、村道路修繕委員に選ばれる、君の二男は教職に三男は伊集院中學に在學し居れるが君は製茶事業の有利なるを認め大に其の方面に努力しつゝあり。

◎上伊集院村





上伊集院村 石原喜作氏

君は明治九年六月二十五日上伊集院村春山一七五番地に生る、春山小學校を卒業し、明治二十九年兵として入營せしが明治三十七八年日露戦役の開始せらるゝや直ちに從軍其の戦功に依りて勳八等白色桐葉章を下賜さる、君は明治三十三年京都府警察に、全四十一年より本縣警察に入り大正七年に至り辭任、國勢調査員、春山佐志原世話人、村有志會員等となる、大正十四年村會議員の改選に當り多數を以て當選したり尙ほ春山小學校區内戸主會幹事、春山佐志原戸主會幹事をも兼ね居れり、君は副業として製茶、養蠶を奨励し自らも其の事業を盛んに營めり。



上伊集院村 畠中 小吉氏

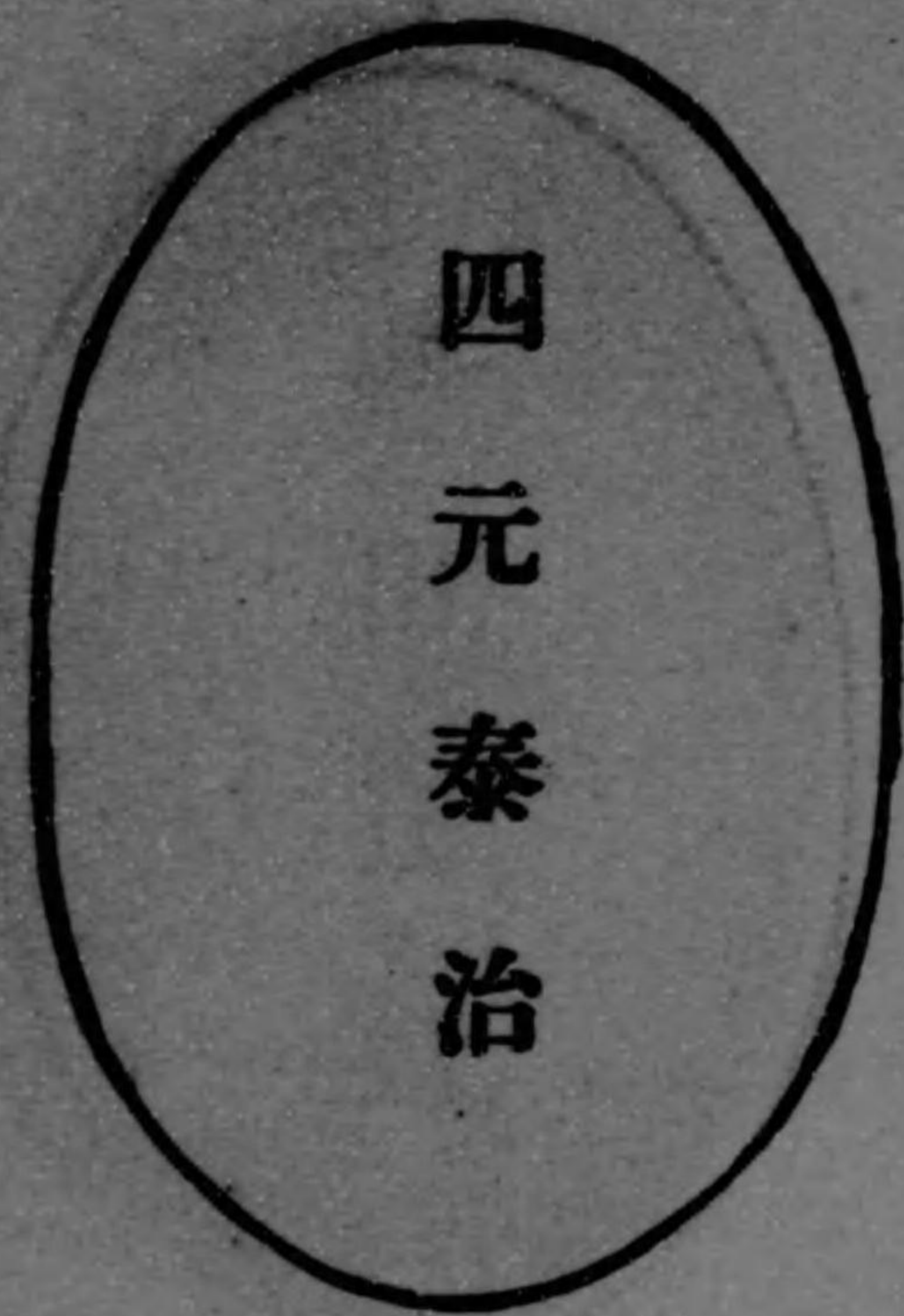
君は明治十一年一月二十六日上伊集院村入佐六二五番地畠市氏の長男に生る、農事小組合長として三期、煙草耕作世話人として十五年、入佐世話人一回、入佐青年會長一年、衛生組合長二期、寺總代三年及び國勢調査員等をなす、その他信用組合理事及び明治四十二年より村農會議員として今日に至る大正十四年村會議員の改選せらるゝや君又た選ばれて當選、村道路委員に擧げらる。

上伊集院村 西 太一郎氏



君は明治十年三月二十八日上伊集院村直木二三一番地に生る直木區世話人として四期に亘り尙ほ直木青年副會長、村有志會員、直木寺世話人、國勢調査員を勤めたるが、目下直木青年會及び婦人會の顧問、森林組合理事、伊集院及び郡山四ヶ村商販賣、購買組合總代等として努力し居れり、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選里道改修委員に選ばる君は副業として養蠶の有利なるを認め大に之を奨励し居れり。

上伊集院村 四元泰治氏



君は上伊集院村に生れしが明治三十四年長崎醫學専門学校を卒業して歸村醫業を開く、明治四十五年より郡會議員に選ばれて三期繼續、郡參事會員二期にわたる、其の他日置郡醫師會副會長、日置郡醫師會幹事、村衛生組合議員、村學務委員戸主會幹事、村有志會長、石谷區會長、青年會及び婦人會顧問等各方面に亘り其の盡瘁努力せる處多く、村會議員としては明治四十年以來今日に至るまで引き續き當選自治の爲めに多大の貢献をなし居れり、斯くて村内一般に君の奮闘を感謝せざるなしと。



◎上伊集院村

鶴田直哉

上伊集院村 鶴田直哉氏

君は明治十六年四月六日上伊集院村石谷五〇七番地に生る、明治三十九年石谷區會議員に、大正元年農事小組合長に明治四十年寺總代、戸主會石谷幹事、新村世話人に推されて今日に至り、其の他國勢調査員、石谷青年會及び婦人會の顧問、村農會議員として努力したるが、大正六年四月村役場書記に就任、大正十年村會議員の改選に當り多數にて當選、大正十四年再選、道路委員に撰ばれる、君は副業として機械業、製茶業及び果樹の栽培をなし居れり。

内傳次郎

上伊集院村 内傳次郎氏

君は明治八年八月二十五日上伊集院村直木一二三四番地に生る、小學校を卒へて専ら農業に精勵し居たるが農事小組合長に擧げられて前後三回大に組合の刷新をはかり、煙草耕作組合世話人二期、村衛生組合代議員、村有志會幹事、國勢調査員、村農會議員等各方面に亙りて君の努力せし處少なからず村會議員として大正十年の改選に選出されしが大正十四年再選の榮を荷ひ村道路委員に選ばれる、君は副業として製茶及び蠶業を獎勵し居れり。



上伊集院村 前田利吉氏

君は明治三年五月上伊集院村石谷二〇三番戸に生る、明治二十二年大阪府警察に入り全二十四年辭任、明治廿五年教育に従事せしも期年にして辭任、明治廿七年警視廳に入り全廿九年臺灣に轉任、全三十年本縣に轉任、全三十四年警部に昇進枕崎、知覽、古仁屋、宮之城の各警察及分署長を経て大正元年警察練習所教官に任ぜらる、大正七年十一月辭任、大正四年十一月十六日今上陛下御即位大典の饗饌を賜ふ、郷に歸りては村農會總代、國勢調査員、永福寺總代、戸主會支部長、石谷青年會及び婦人會顧問、農事小組合長、日本武徳會幹事電氣架設委員、石谷區會議員等各方面に亙りて君の努力する所多く、大正十年の村會議員改選に當り多數を以て當選せしが大正十四年再選せり、而して君は財源調査員、學務委員、村會議事録署名者等に選ばれたり。

上伊集院村 増田己七郎氏

君は明治二年十月四日上伊集院村上谷口二〇九番地に生る、明治二十二年上京警視廳に奉職したるが明治三十三年六月辭任、全時に唐津物産株式會社に入りて明治四十三年六月に至り辭任歸村す、其の後伊集院及び郡山四ヶ村聯合蠶業信用販賣購買組合の四元總代となり、村有志會員となり、目下村農會議員、衛生組合代議員を勉む、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選したり。

◎上伊集院村





◎上伊集院村



上伊集院村 森 熊太郎氏

君は上伊集院村に生る、其の小學校を卒へてより其の自修を怠らず、明治二十九年東上して警視廳に入り明治四十三年に至りて辭す、夫れより歸村して家業に従事する折柄、農事小組合長、村衛生組合代議員、村有志會副會長、森岡區世話人、岡勢調査員、青年會及び婦人會顧問となれる等各方面に努力したるが村會議員としては大正十年の改選に當選、引き続き大正十四年にも當選せり、斯くて君は學務委員及び道路委員に撰ばる。



木場 貞義

郡山村長 木場 貞義氏

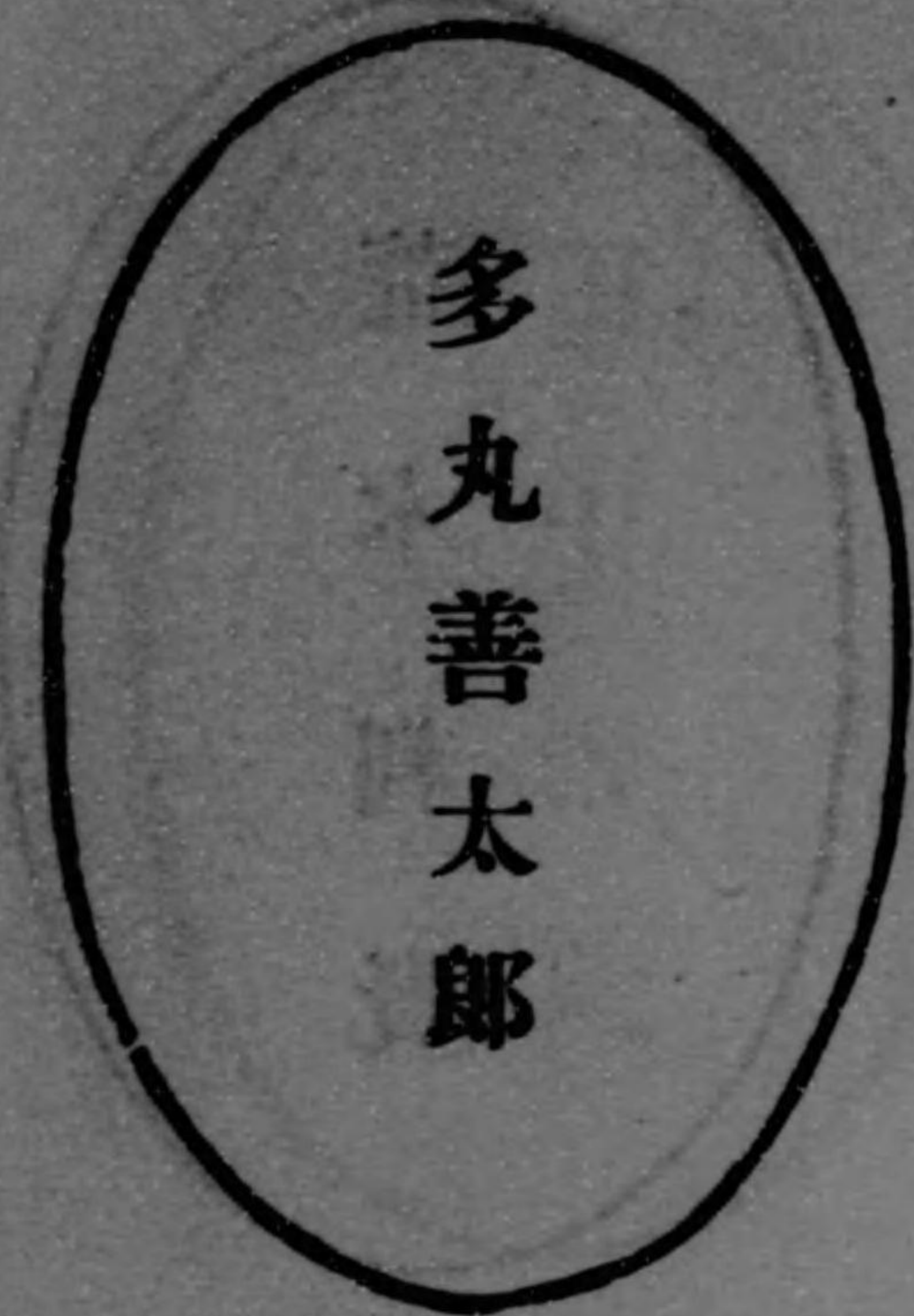
君は元治元年六月生れにして、村會議員、郡會議員、縣會議員に擧げられ、大正七年四月郡山村長に當選以來三期を通し現任その貢獻せし處枚舉に遑あらず。

郡山村助役 多丸善太郎氏

君は明治六年一月六日生れにして大正十五年九月助役に當選せられ能く村長を補佐して自治に努めつゝあり。

多丸善太郎

◎郡山村





◎日置村

荒木利賢

日置村長 荒木利賢氏

君は明治十五年四月九日同村に生れ、縣會議員に擧げられ、大正十五年六月同村長に當選したり。

日置村助役 大迫俊造氏

君は慶應元年十一月日置村に生れ、明治十二年上京して兵器廠に入りて書記となり、十九年辭して島津家袖ヶ崎別邸に勉め全三十三年辭して歸郷し、全三十五年同村役場書記となり大正二年以來助役として村治向上に貢献する處不尠事務委員たり。



日置村 笠野榮吉氏

君は明治五年五月四日日置村に生る、全二十五年工兵第六大隊に入營せしが全二十七八年の日清戦役に參加して戦功あり勳八等に叙し瑞寶章一時金五十圓を賜ふ、全三十四年村會議員に當選、全三十七八年日露戦役に召集されて出征、全三十九年歸村、其の後農會議員に擧げられ村會議員に當選學校建築委員に選ばれる、尙ほ村會議員としては現在に至るまで尙ほ其の任に在りて村治に盡瘁し居れり。

日置村 田中泰藏氏

君は明治十年六月廿日日置村山田に生る、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に餘念なく、大正七年農事小組合長に推され夫れより青年會顧問、衛生部長、日置信用組合理事に擧げられ、大正十年村會議員に當選し大正十四年再選尙ほ村農會議員たり。

田中泰藏

◎日置村



◎日置村

田城 半右衛門

日置村 田城 半右衛門氏  
君は明治十一年十一月十一日日置村に生れ、小學校卒業後は専ら農事に勵みて興農に他意なく、全三十九年農事小組合長を振出しに日置村農業技手、煙草耕作組合長、衛生部長、日置信用組合理事、村農會議員、國勢調査員等に擧げられ、大正六年、全十年、全十四年の三期に亘りて村會議員に當選す尙ほ君は明治三十四年、本縣農會主催の農事講習會を了之、縣、郡、村より表彰されし事あり。

永田 英一

日置村 永田 英一氏  
君は明治五年二月二日日置村に生る、明治二十二年日置尋常高等小學校に奉職し全二十七年本縣師範學校講習科に入り卒業して日置校、枕崎校に奉職し三度日置校に轉じ住吉校長に被任、全三十九年日置校に轉じ在職實に二十五年教育界に貢獻せし處不尠、辭して後大正八年に至るまで日置村役場書記として、在職せしが、大正十四年村會議員に當選せり。

日置村 内山 岩吉氏

君は明治二十一年八月二十一日日置村に生れ、全四十一年熊本騎兵第六聯隊に入營し全四十四年善行證書を附與せられて除隊歸郷す、其の後農事小組合長、衛生部長、村農會議員、國勢調査員、在郷軍人分會班長、煙草耕作組合總代等に擧げられしが大正十四年村會議員に當選せり。

日置村 草原 清次郎氏

君は明治十一年七月三十日日置村に生れ、小學校卒業後は鹿兒島市に出て某商店の店員たりしが數年にして飯村農業に専念、其の後青年會顧問、衛生組長、農事小組合長、煙草耕作組合總代、日置信用組合理事等に擧げられ大正十四年村會議員に當選せり、尙ほ君は會つて煙草耕作成績優良の故を以て表彰されし事あり。

◎日置村

草原 清次郎



◎日置村

山口宗雄

日置村 山口宗雄氏  
君は明治二十四年四月八日日置村山田の素封家山口家に生る中學校を卒えてよりは専ら家事に餘念なく、而して青年會長國勢調査員等に擧げられしが大正十年村會議員に當選し、全十四年再選し學務委員に選ばれる。



日置村 山口佐市氏

君は明治十四年十二月十二日日置村に生る、小學校卒業後商業見習として鹿兒島市某書店員たる事久しかりしも、意を翻して飯郷農事に屬みて餘念なく其の後農事小組合長に擧げられ、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる、君はまた教育に意を注ぎ令弟は現に上京して遊學せり。

日置村 山口仙之助氏

君は明治六年二月十五日日置村に生れ、小學校卒業後は父祖の業を承けて農事に屬み家運の隆昌を計る、而して農事小組合長、青年會長、國勢調査員、日置信用組合評議員、日置耕地整理組合會計等に擧げられしが大正十四年村會議員に當選せり。

日置村 松下正太郎氏

君は明治六年一月十六日日置村に生る、代々製網業を營みその製産品は縣内は勿論縣外に至るまで多く移出され君の代に入りて益々盛況を呈せしかば同業者間に於てもその名噴々たり、大正六年、全十年、全十四年の三度村會議員として選ばれる、尙ほ君は妙眞寺門徒總代、學務委員たり。

◎日置村





松山三次郎

君は明治四年六月十一日日置村に生れ、小學校を卒業したる後は只管農事に屬みて家運の隆昌に務めしが、のち農事小組合長、衛生部長、日置信用組合評議員、煙草耕作組合総代、村農會議員、明信寺門徒總代等に擧げられ、大正六年、全十四年の二期村會議員として選ばれる村治向上に努めつゝあり。

日置村 松山三次郎氏

日置村 前畑十吉氏

君は明治十八年十二月四日日置村山田に生れ、小學校卒業後は鹿兒島市に出て、商業見習として呉服店に務めたりしが家事の都合に依り飯郷す、其の後青年會長、農事小組合長、衛生部長、國勢調査員、日置信用組合評議員、煙草耕作組合總代等に任し大正十四年村會議員に當選せり。

村山保

吉利村長 村山保氏

君は明治九年十一月十三日吉利村に生れ、小學校訓導たり辭して村會議員に擧げられ明治四十五年二月村長に當選以來四期よく村政に努め現任せり。

吉利村助役 打越太兵衛氏

君は慶應三年八月十五日を以て吉利村に生る、嘗つて教職を執りて小學校長たりし事あり、後ち村役場に入りて書記となりしが大正十二年七月全村助役に推薦され能く村長を補佐して村治に努力しつゝあり

打越太兵衛



◎吉利村

吉利村 池水榮藏氏

池水榮藏

君は明治十三年三月七日吉利村金四郎氏の長男に生る、専ら農業に従事し大正四年農事小組合長に挙げられしも大正四年司法省の認可を得て司法代書業をなす、大正十二年村農會議員、産業組合幹事に推さる、大正十四年村會議員に當選せり君は温厚なるが故に村民の信望厚し。

吉利村 唐見政吉氏

唐見政吉

君は慶應三年五月十二日吉利村に生る、明治三十八年以來青年會長、農會總代、區長等を勤むること八ヶ年其後區産業組合を創設し組長に挙げられ大正七年四部落産業組合を合併し引續き理事となる、大正十一年再び區長に挙げらる、而して君は産業發展の爲め努力する所少からず、明治三十二年以來大正十四年に至る村會議員の改選毎に當選す、君は温厚にしてよく農事の改良發達に勉めつゝあり村の長老として其の信望厚し。

吉利村 庵下善吉氏

君は明治十四年六月四日吉利村に生る、明治三十四年鹿見島歩兵第四十五聯隊に入營し、全三十七年日露戦役に出征、全四十年新設の第十四師團衛生隊に編入され、後歩兵隊に編入同年十一月軍曹に進級満期除隊となる、日露戦役の功に依り功七級金鷄勳章白色桐葉章並に恩級證下賜さる、明治四十年在郷軍人分會班長、大正元年全幹事となり、大正十一年辭す明治四十四年村農事小組合長、煙草耕作組合世話役となり大正五年辭す、大正九年農會總代、産業組合理事、青年會名譽會員となる大正二年村會議員に當選以來引續き今日に至る

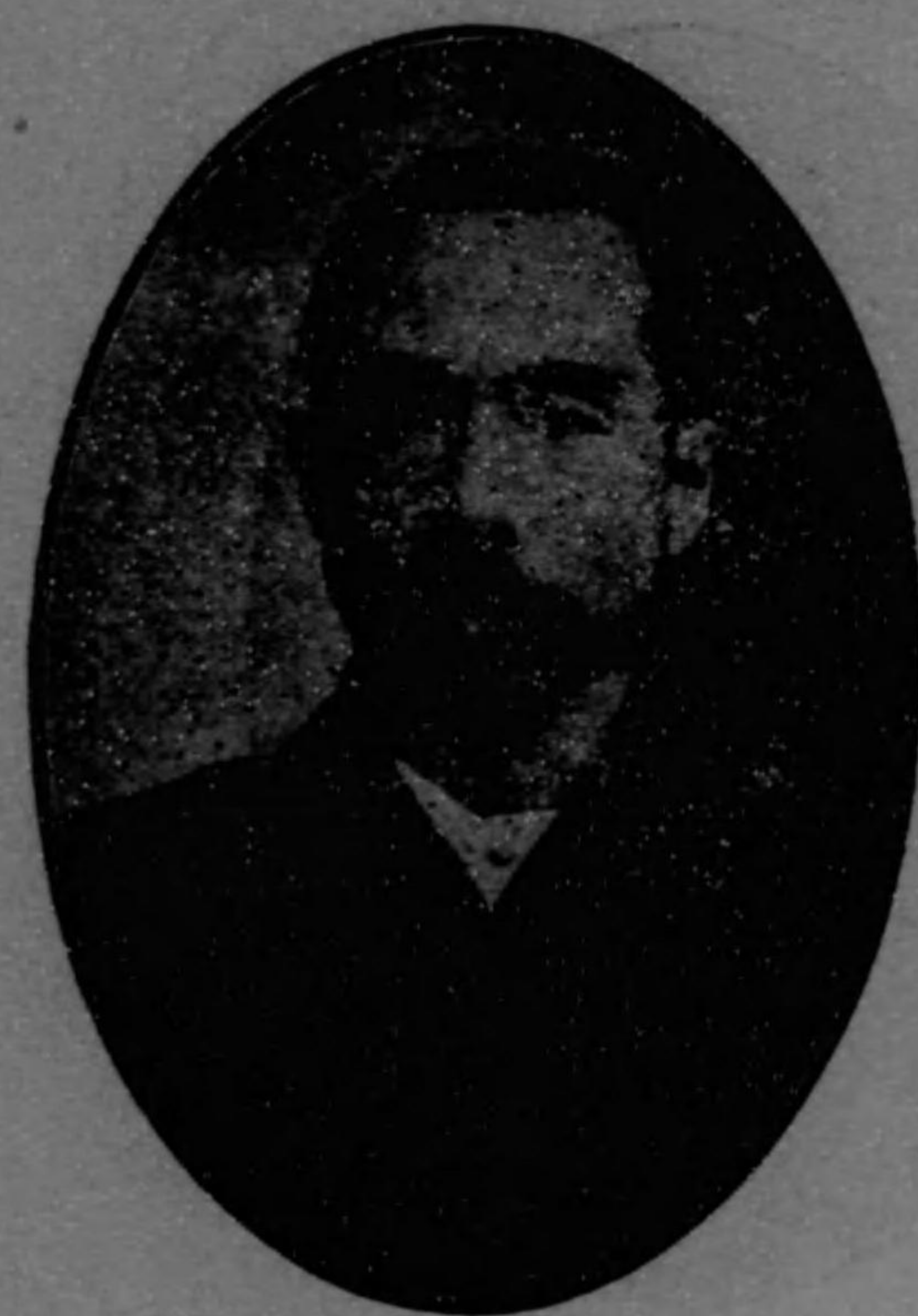
◎吉利村





吉利村 川窪市藏氏

君は明治三年十月十一日を以て吉利村に生る、小學校を卒へてのちは専ら父祖の業を繼ぎて農事に勵みしが長じて區長、衛生部長、國勢調査員等に擧げられてよく其の任を果せり、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに努力しつゝあり



吉利村 寺前次兵衛氏

君は文久三年五月十三日を以て日置郡吉利村に生る、幼よりよく字事に勵精して一般の尊崇する所となりしが、のち村内に於ける各般の事業にたつさわるもの數ふるに遑なく大正十四年に村會議員に當選せり、尙ほ君は通信事務に従事し全村郵便局長として其の精勵なるは大に稱す可きものあり。

吉利村 平岡良時氏



安政六年十月十日を以て日置郡吉利村に生れたる君は、夙に國手たらんと志望あり研鑽怠らずして能く醫術の奥を究め患者の需めに應ぜしか堪能の手腕は大に一般の信頼する所となり庭前常に患者雜沓せり、大正十四年推されて村會議員となる。



◎永吉村

本  
田  
敬  
二

永吉村長 本 田 敬 二 氏

君は明治六年十二月十二日永吉村に生れ、助役たりしが大正十五年六月村長に當選せり。

永吉村助役 馬 場 彌 一 郎 氏

君は明治九年二月三日永吉村に生れ、大正十五年七月助役に推薦せらる温厚篤實の士にして村民の信望厚くよく村長を補佐して村治に努めつゝあり。

馬  
場  
彌  
一  
郎

永吉村 西間庭 助次郎氏

君は明治二十二年十月廿八日を以て永吉村に生る、夙に小學校を卒業して父祖に従ひ農事に屬精し居たるが明治四十二年歩兵第四十五聯隊に入營し滿期除隊後は歸村の上専ら青年の指導に任じ區長、小組合長、農會議員等をなせしが尙ほ在郷軍人分會長にも推さる、大正十四年村會議員に當戦し自治の爲め多大の力を寄與しつゝあり。

永吉村 坊野喜之助氏

君は明治十一年十月十六日永吉村に生る、小學校卒業後は専ら父祖の業をつぎて農業に屬精したるが選ばれて區長、小組合長、衛生部長等に任じてよく其の責任を果せり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに努力しつゝあり。

◎永吉村





◎永吉村

神之園 嘉兵衛



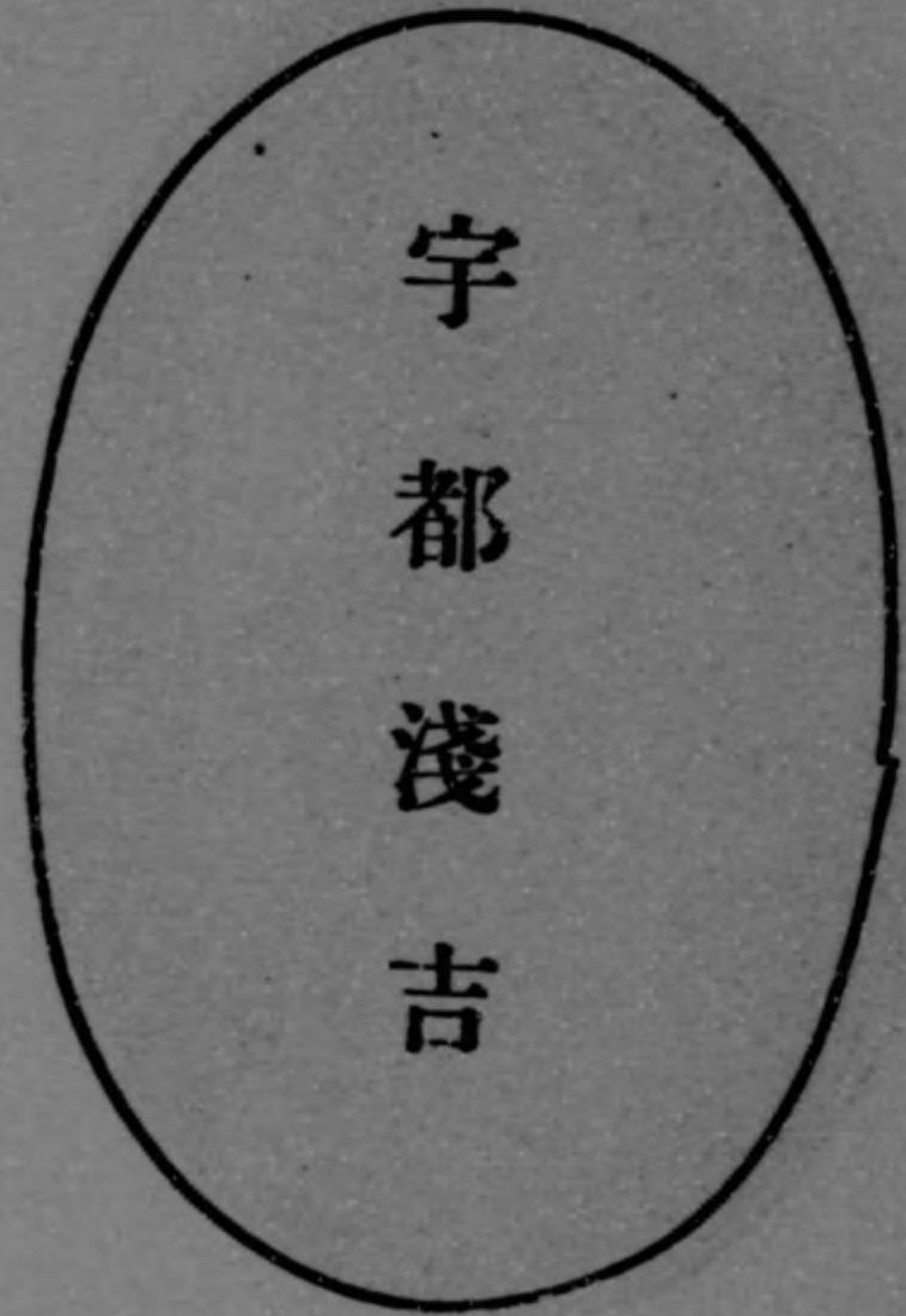
君は明治九年七月八日を以て永吉村に生る、居村の小學校を卒へて農事に屬精せしが君の奮闘する事は一般の認むる所となり農會議員、小組合長、區長、衛生組合長等に推さる、大正十四年村會議員に當選自治の爲めに多大の力を致しつゝあり。

永吉村 神之園 嘉兵衛氏

永吉村 横山 壯熊氏

君は明治十七年四月十日を以て永吉村に生る、小學校を卒業したる後は農事の傍ら村内の公共事業等にたつさわり區長、小組合長、農會議員、衛生組合長等をなせるが各方面に向つて良好の成績を上げたり、大正十四年村會議員に當選し自治の爲め努力しつゝあり。

宇都 淺吉



君は明治十二年八月八日を以て永吉村に生る、夙に小學校を卒へて農業に従事したるが長じて區長に推され、のち青年會長、農會議員等に任せり、而して君は各方面に向つてよく其の責任を全ふせるが大正十四年選ばれて村會議員となる。

永吉村 宇都 淺吉氏

永吉村 野元 矢太郎氏

君は明治十年二月廿二日を以て永吉村に生る、小學校卒業後専ら父祖の業に従ひて農事に屬精したるが大正十四年村會議員に當選し自治の爲め努力しつゝあり、尙ほ君は是れより先きには區長、小組合長、衛生組長、農會議員等に擧げられしが何れも良好の成績を收め居れり。

◎永吉村





◎永吉村

有馬龍吉

永吉村 有馬龍吉氏

君は明治二十五年十一月廿七日永吉村に生る、小學校卒業後は専ら父祖の業に従事して勵精怠らざりしが一般に君の奮闘と着實なるを認むるに至り夙に區長に推され尙ほ小組長、衛生組長其他公共の事業にたつさわる所となる、而して何れも良好の成績を見るに至れり、大正十四年村會議員に當選す、君は全村に於ける第一番の少壯議員なり。

永吉村 下和田 新四郎氏

君は明治六年十二月十七日永吉村に生る、夙に農業に従事して父祖の業をたすけしが長じて區長に擧げられ小組長となり衛生部長、農會議員等を経て今日に至れるが一般に君が正實なるを稱せざるはなし、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選し自治の爲めに努力し居れり。



市來嘉之助

伊作町長 市來嘉之助氏

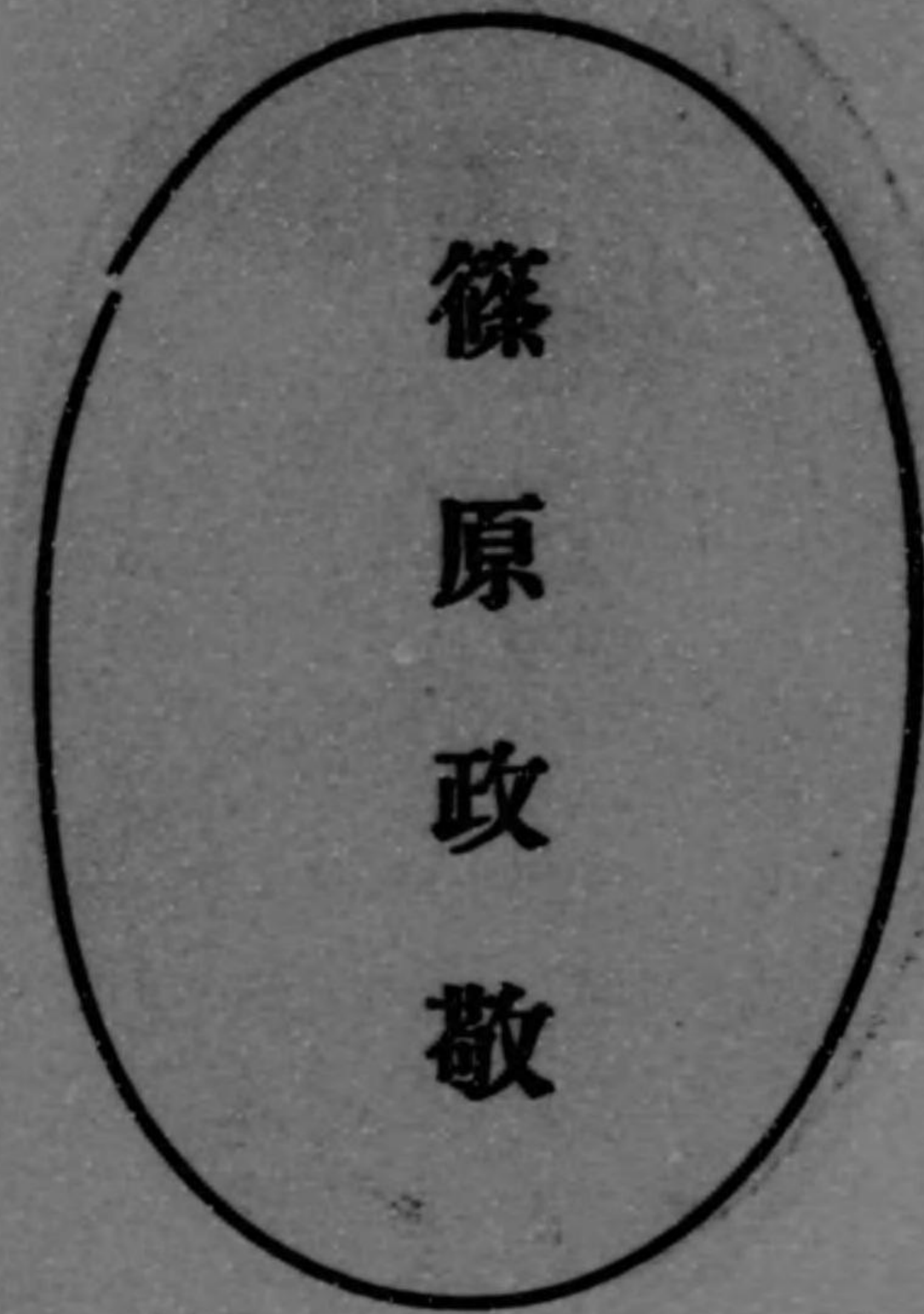
君は安政六年一月二十一日生れにして、郡書記、郡視學、村會議員、郡會議員、助役に歴任し、大正十年三月村長に當選し再選されて現任せり。

篠原政敬

伊作町助役 篠原政敬氏

君は明治十年十月四日伊作町に生れ、小學校訓導として久しく教鞭を執りたり、大正十一年十二月助役に推薦されてよく町長を補佐し町政に努めつゝあり。

◎伊作町





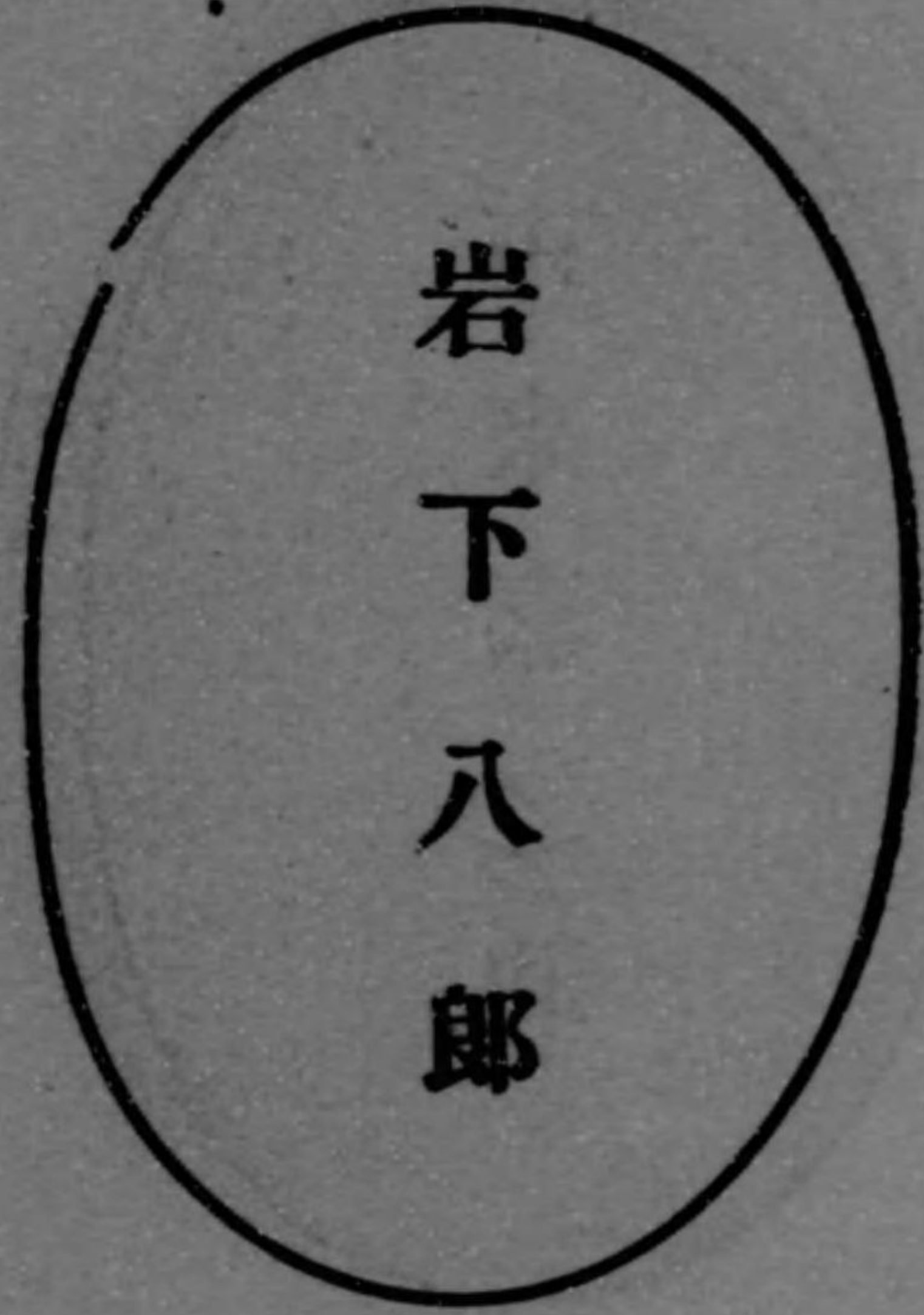
◎伊作町



伊作町 今村吉次郎氏

君は日置郡伊作町和田に生る、君の家は累代深く佛教に歸依して信仰の念厚く代々所謂お番役を勤む君又た夙に之に當れり、而して農業と蠶業に至りては多大の力を之に傾注して成績頗るよし、大正十四年町會議員に當選せしが其の町村議員としては數回の當選をなす其他農會議員、區長、衛生組長、國勢調査員等にも擧げらる。

岩下八郎



伊作町 岩下八郎氏

君は日置郡伊作町に生る、夙に小學校を卒業して農業に従事したるが、のち青年會長に推され、區長、農事小組合長等となし大正十四年町會議員に當選し町政に對して大に努力しつゝあり尙ほ君は農事の副業として養蠶を益大に營めり。

伊作町 池上嘉納氏

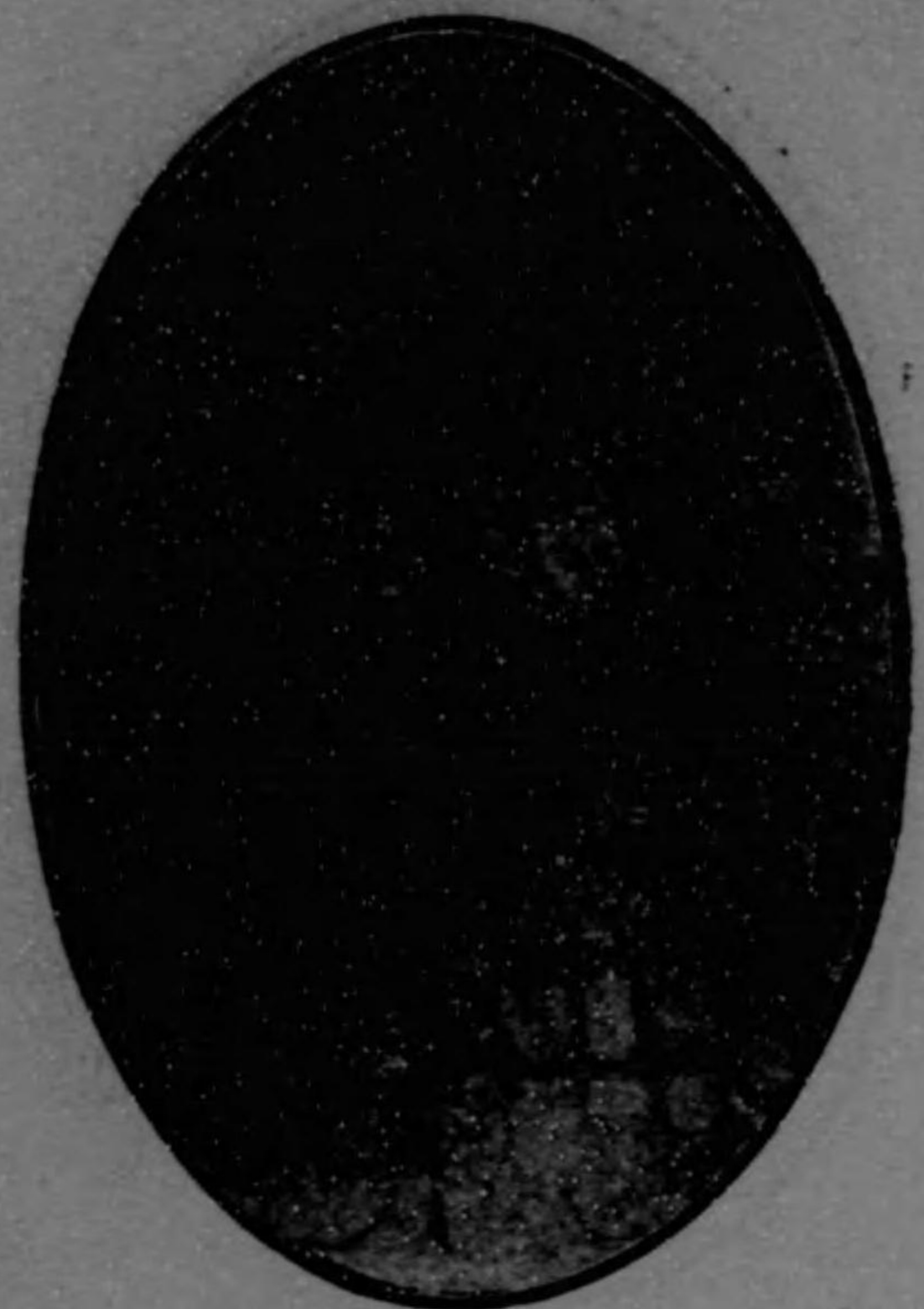


君は日置郡伊作町湯之浦に生る、夙に村役場書記として屬精よく事務に執掌せしが町民の輿望厚く助役に擧げられ鋭意自治の爲めに努力し居たり、然るに曩年南薩銀行の伊作支店開設せらるゝや君入りて全支店長となり全町の經濟界に重きをなせり大正十四年町會議員の改選に際し大多數にて當選せり。

伊作町 石塚與助氏

君は日置郡伊作町入來に生る、夙に農蠶業に従事し優良の成績を收めつゝあるが、君は猶ほ燒酎の仲買をなし居れり、町村議員としては屢次之に任し現今に至りても自治の爲に多數の貢献をなしつゝあり、君は此の外衛生組長、區長、小組合長等もなし各方面に對して献身的の努力をなせしを以て一般の氣受け殊によし。

◎伊作町



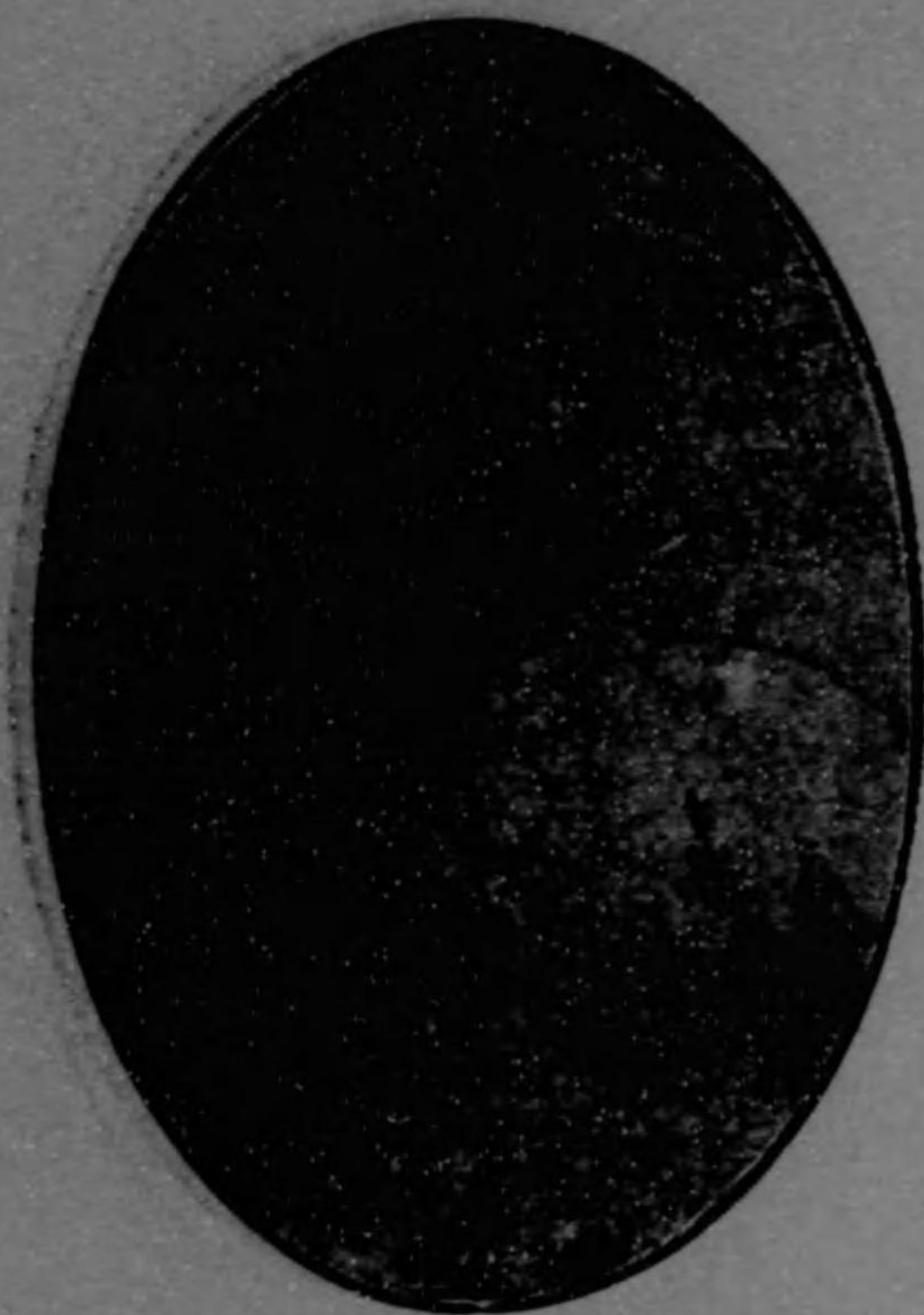


◎伊作町

濱田善治

君は日置郡伊作町湯之浦日添に生る、小學校の教育を受けてのちは専ら農業に従事し居たるが長して區長、衛生組長、農會議員等に擧げられて屬精せしかば一般の氣受け殊に外よく大正十四年郡會議員の改選に際し日添部落に於ては君を候補者に推薦せしが町民認むる所となり芽出たく當選せり。

伊作町 濱田善治氏



伊作町 小山田武太郎氏

君は伊作町和田に生る、農業の傍養蠶業に専念し居れるが區長となり農會議員に擧げられてよりは一層農蠶業に屬精すると全時に他に對しても大に之を奨励し居れるを以て和田部落に於ける新業の成績見るべきもの多し、其他青年會婦人會等の顧問をなし居れり大正十四年町會議員に當選し自治の爲めに奮闘しつゝあり。

伊作町 宇都貞氏

宇都貞

君は伊作町中原に生る、小學校卒業後は先祖の業をつぎて農業に屬精したるが目下其の傍精米業を営めり、夙に區長、農事小組合長、農會議員等に擧げられて各方面に努力し居れるが大正十四年町會議員の改選に際し多數を以て當選せり。

伊作町 山下盛成氏

山下盛成

君は日置郡伊作町今田に生る、農業の傍養蠶に熱心なるが年々優良の蠶繭を收めつゝあり、而して君は今田部落の區長をなし、部落組合長として農蠶業の發達に盡す所少なからず尙ほ農事小組合長、衛生組長、農會議員等に擧げらる、町村議員としては村制時代より當選し自治の爲め多大の貢獻をなしつゝあり。

◎伊作町



◎伊作町



伊作町 船倉啖次郎氏

君は伊作町の中里に生る、夙に農蠶業の改良發達に留意し専心之に當るのみならず一般に對しても大に之を獎勵せしかば見る可きもの少なからず、而して農事小組合長として農會議員として一層の努力をなせり、其他衛生組長、區長等にも任ず、町村議員には屢次當選自治の爲め多大の貢獻をなす。

伊作町 東 伊太郎氏

東 伊太郎

君は明治六年六月二十一日伊作町下和田に生る、父祖に従ひて農事に勵み、明治四十年世話人となる、其の後報効農事小組合長、煙草耕作組合長、耕地整理委員、水利組合委員、區長、區相談役等に歴任し國勢調査員に擧げられ、大正六年四月村會議員に當選以來今日に至るまで町會議員として活動し居れり。

遠矢益之助

田布施村長 遠矢益之助氏

君は明治六年一月二十八日田布施村に生る、村役場書記、村會議員、村農會長等に擧げらる、大正七年四月村長に當選以來三期其の任に在り。

松本庄右衛門

田布施村助役 松本庄右衛門氏

君は明治三年三月二日田布施村に生れ、看守を志願し看守長となり、後辭して飯郷し、大正十一年助役に推薦されて現任せり、

◎田布施村